

昭和 50 年 度

地力保全基本調査成績書

〔十勝岳西山麓地域・富良野市、南富良野町〕

北海道立中央農業試験場

(96)

序

現状における土地生産力は、諸種の土壌的阻害要因によって十分にその地力を発揚できない場合が少なくないのみならず、一方では剥脱要因もあってその地力は消耗低下しつつある。従ってこれら阻害要因を排除して、合理的かつ適切な地力保全の対策を推進し、もって当面の農業構造改善の基盤整備に資するため、昭和34年より農林省農政局の助成を得て、基本的土壌調査分類を実施している。

本調査成績書は昭和49年度に行った9地域10市町をとりまとめたもので、ここにこれを公表し営農安定の資に供する次第である。

現地調査の遂行に際してご協力を得た関係市町村、農業協同組合ならびに農業改良普及所の関係各位に対して、深く感謝の意を表する。

昭和51年3月

北海道立中央農業試験場

場 長 島 崎 佳 郎

調査並びに取まとめ方法

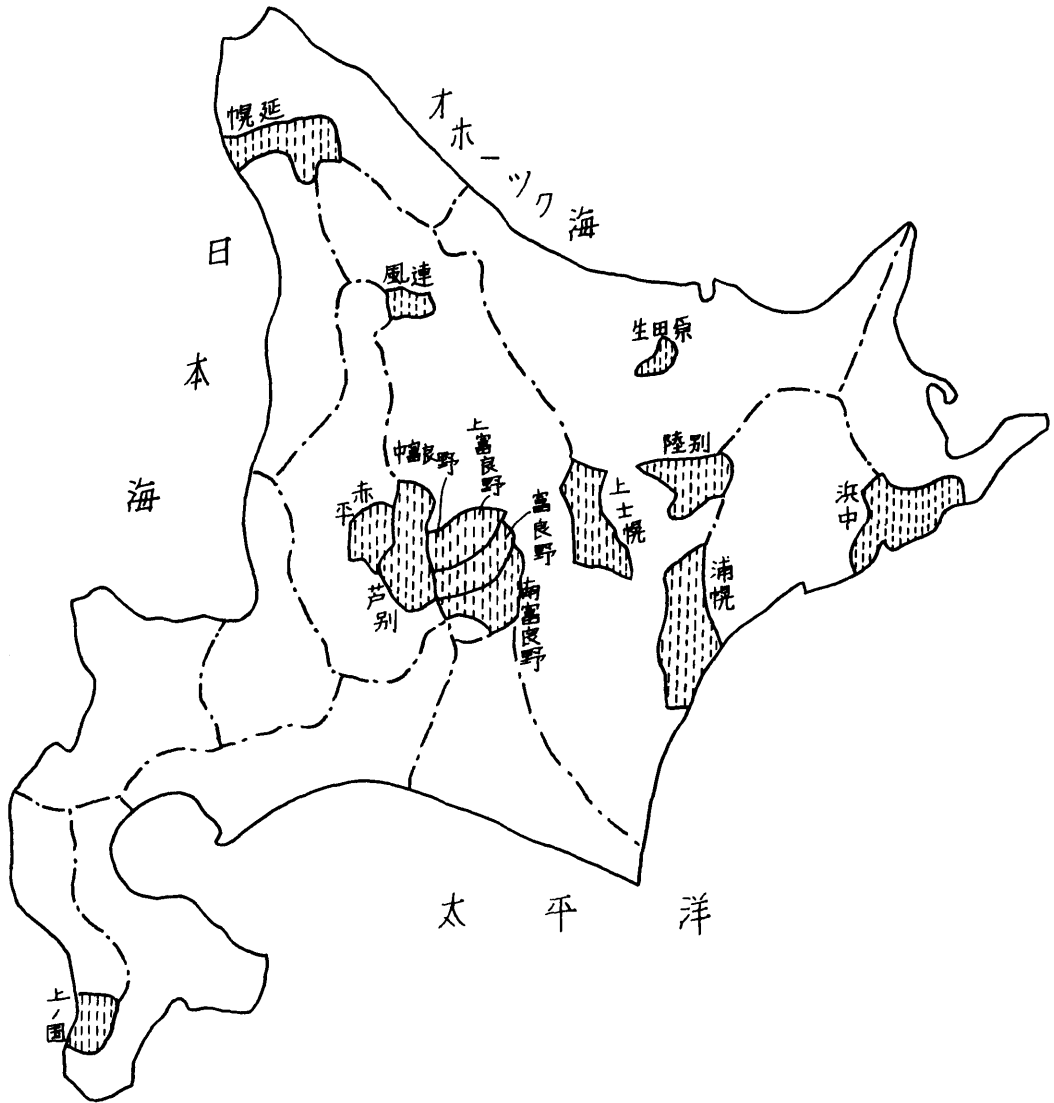
本調査は、凡そ100ha以上の集団になっている農耕地および付帯地を調査対象とし、調査および取まとめに当っては、夫々下記の資料に基づいた。

1. 土壌統および現地での営農状況は地力保全対策資料第6号（昭和36年9月、農林省振興局農産課）によった。
2. 土壌統および区の設定並びに土壌生産力可能性等級基準は、地力保全対策資料第12号（昭和40年3月、農林省農政局農産課）及び水田土壌統設定第1次案（昭和38年12月、農技研化学部第3課）による。
3. 土壌統および土壌区の設定に当っては、北海道農業試験場農芸化学部土壌肥料第1研究室の土性図を参照した。

化 学 部	部 長	松 代 平 治
土 壤 改 良	第 一 科 長	
	研究職員	木 村 清
	"	松 原 一 実
	"	橋 本 均
	"	宮 森 康 雄
土 壤 改 良	第 2 科 長	平 井 義 孝
	研究職員	野 崎 輝 義
	"	小 林 茂
	"	宮 脇 忠
	"	山 本 晴 雄
	"	上 坂 晶 司
環 境 保 全 部	部 長	後 藤 計 二
環 境 保 全	第 二 科 長	高 尾 欽 彌
十 勝 農 試	研究職員	菊 地 晃 二
	"	関 谷 長 昭
	"	横 井 義 雄
北 見 農 試	"	成 田 保 三 郎
上 川 農 試	"	山 口 正 栄
	"	前 田 要
天 北 農 試	"	佐 藤 辰 四 郎

調査地域名	該当市町村名	農地面積(ha) (調査対象面積)		既調査面積(ha)		本年度調査面積(ha)	
		水田	畑	水田	畑	水田	畑
天塩	幌延町	0	3,126	0	0	0	3,126
丸瀬布 遠軽	生田原町	160	1,876	0	0	247	1,800
厚岸	浜中町	0	10,630	0	0	0	10,630
十勝東部	浦幌町	40	8,830	0	3,770	0	5,060
上士幌	上士幌町	0	7,579	0	6,300	0	2,279
陸別	陸別町	0	3,612	0	0	0	3,612
上川北部	風連町	3,447	1,821	3,100	0	347	1,821
芦別	芦別市	2,422	2,776	0	0	2,422	2,776
	赤平市	827	997	0	0	827	997
十勝 西山麓	富良野市	2,356	8,298	0	0	2,300	8,200
	南富良野町	46	2,750	0	0	0	2,700
	上富良野町	2,082	5,247	0	0	2,082	5,247
	中富良野町	3,724	2,353	0	0	3,724	2,353
檜山沿海	上ノ国町	775	419	0	0	775	419
		15,879	60,314	3,100	10,070	12,477	51,020

調査地区位置図



十勝岳西山麓地域

1 地域の概況

1) 位置及び調査面積

(1) 位置(関係市町村)

北海道上川支庁管内 富良野市、南富良野町

(2) 調査面積(ha)

郡市町村名	農地総面積				調査対象面積			
	水田	畑	樹園地	計	水田	畑	樹園地	計
富良野市	2,356	8,298	—	10,654	2,356	8,298	—	10,654
空知郡南富良野町	46	2,750		2,796	46	2,750		2,796

過年度調査面積				本年度調査面積				備考
水田	畑	樹園地	計	水田	畑	樹園地	計	
0	0	0	0	2,300	8,200	—	10,500	
0	0	0	0	0	2,700	—	2,700	

2) 気候

北海道のはば中央部に位置し、内陸的気候を示す。冬期間積雪多く寒冷で、春の融雪遅く4月下旬であり、山間部では5月上旬に至るところもある。年間を通じて冷涼で、農期間の平均気温(4~10月)は14.5℃、山間部では13.3℃である。オホーツク気団の発達年には一層冷涼となり、しばし農作物が冷害をうけ、収量が激減する。特に山間部はこの影響を強くうける。

富良野観測所成績

項目		月別												全年	統計年数
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
気温(℃)	平均気温	-9.2	-8.2	-3.0	4.8	11.7	16.6	21.0	21.8	16.2	9.4	1.9	-5.2	6.5	35
	平均最高	-3.7	-2.4	2.4	10.7	18.2	22.8	26.5	27.2	21.7	15.0	6.3	-0.5	12.0	
	平均最低	-14.6	-13.9	-8.3	-1.2	5.1	10.4	15.4	16.3	10.6	3.8	-2.5	-9.9	0.9	
降水量(mm)		46	32	34	45	59	60	95	111	130	96	77	60	345	25
日最大降水量(mm)		30	52	31	52	50	47	75	180	113	78	51	27	180	
最高気温の極(℃)		8.0	7.8	10.0	25.1	33.0	34.3	35.7	38.0	32.4	27.0	15	12.3	38.0	開始 1918年
最低気温の極(℃)		-40.0	-32.0	-28.5	-17.0	-11.5	-0.5	4.0	2.0	-2.0	-8.5	-22.3	-28.3	-40.0	開始 1918年
最深積雪(cm)		104	108	112	82						25	100	80		

霜 初日 10月5日 終日 5月15日(開始1916年)
 雪 初日 10月29日 終日 4月22日(同上)
 無霜期間 142日

麓郷観測所成績(富良野市)

項目	月別												全年	統計年数	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
気温(℃)	平均気温	-9.4	-8.8	-3.9	3.8	10.4	15.1	19.8	20.6	15.1	8.3	0.9	-6.0	5.5	35
	平均最高	-3.7	-2.9	1.5	9.5	16.9	21.5	25.2	25.8	20.4	13.9	5.3	-1.3	11.0	
	平均最低	-15.0	-14.6	-9.3	-2.0	3.8	8.7	14.3	15.4	9.8	2.6	-3.5	-10.7	0.0	
最高気温の極(℃)	9.2	9.4	12.0	23.7	30.0	32.8	34.0	34.8	31.0	24.5	19.0	11.3	34.8	開始 1923年	
最低気温の極(℃)	-31.9	-33.3	-27.7	-23.4	-7.0	-4.1	-0.5	2.5	-5.3	-11.0	-21.8	-29.7	-33.3	開始 1922年	
降水量(mm)	59	62	60	58	65	71	111	118	127	98	99	74	1002	30	
日最大降水量(mm)	58	49	48	37	39	50	93	152	85	113	74	40	152	開始 1927年	

霜 初日 10月1日 終日 5月21日
 雪 初日 10月27日 終日 5月4日
 無霜期間 132日

西達布観測所成績(富良野市)

項目	月別												全年	統計年数	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
気温(℃)	平均気温	-9.8	-9.1	-3.9	3.9	10.4	15.1	19.9	20.8	15.3	8.5	1.1	-6.2	5.5	35
	平均最高	-3.7	-2.6	1.9	9.7	17.2	21.5	24.5	26.1	20.7	14.3	5.6	-1.2	11.2	
	平均最低	-15.9	-15.5	-9.7	-1.9	3.5	8.7	14.3	15.4	9.9	2.7	-3.4	-11.1	-0.3	
最高気温の極(℃)	7.3	9.0	14.0	23.6	30.4	34.8	34.5	37.0	32.0	24.0	19.0	11.2	37.0	開始 1916年	
最低気温の極(℃)	-38.0	-36.2	-33.0	7.6	-10.0	-8.0	0.5	0.0	-5.0	-11.0	-25.0	-30.0	-38.0	同上	
降水量(mm)	65	55	60	78	82	90	122	145	168	121	107	86	1179	30	
日最大降水量(mm)	66	56	39	49	51	60	99	197	115	95	56	61	197	開始 1916年	
最深積雪(cm)	97	126	150	102						40	75	94			

霜 初日 10月5日 終日 5月16日(開始1917年)
 雪 初日 10月28日 終日 4月29日(同上)
 無霜期間 141日

3) 土地条件

(1) 地 形

本地域の東部は旭岳を主峰とする大雪山系がそびえ、西部は夕張山系が存在し、この両山系に挟まれた地域のほぼ中央を空知川が流れている。この両岸には平地が分布し、富良野附近からその幅が広がっている。

夕張山系の裾には標高240～300mの扇状地形が存在しており、大雪山系の山麓には標高300～400mの山間盆地及び標高600～700mの丘陵性台地が存在する。

(2) 地 質

本地域の富良野市地区の東部は大雪山系に連なり、洪積世の火山放出物に由来する熔結凝灰岩からなり(主として富良野麓郷)、平地に接する丘陵地は白亜紀の中部並びに下部エゾ層群に属し、砂岩、暗色砂岩及び黒色泥岩等が主要岩石である。対面の西部の夕張山系は、その背梁が侏羅紀の空知層群に属し、主要黒色粘板岩、砂岩等によりなり、この山麓は白亜紀の上部並びに下部エゾ層群に属し、砂岩、暗色砂岩、暗色～黒色泥岩等の岩石からなっている。これら両層群の間に蛇紋岩が部分的に存在する。

南富良野町地区は西部に侏羅紀の空知層群が分布し、南部には古生代の日高層群(粘板岩、砂岩、珪岩、輝緑凝灰岩等)及びホーンフェルス帯が分布しており、東部及び北部は前記の大雪山系に由来する洪積世の火山放出物である熔結凝灰岩が下層を形成しているが上部表層は恵庭、支笏ロームが堆積し、さらに最表層をごく薄層の樽前山a火山灰が被覆している場合が多い。この熔結凝灰岩を基盤とする地帯の中で標高700m内外に達するところは火山放出物が殆んどみられず、中生層に由来する岩石を母材とする土壌になっている。

本地域のほぼ中央部を南北に細長く分布する空知川の流域は河成堆積物からなる平地が形成され、空知川の支流域にも同様の平地が形成されている。この平地の中ではところにより樽前山a火山灰及び十勝岳b火山灰が最表層をごく薄く覆っている。また点在する洪積台地上の最表層も同様にこれら火山灰がごく薄く存在している。

(3) 侵蝕状況

本地域の丘陵地及び山麓は傾斜地が多く、侵蝕の発生がみられる。また一部は火山性土からなるところもあり、かかるところでは水蝕の発生がかなりみられる

4) 土地利用及び営農状況

(a) 経営面積(1戸平均ha)

総面積	田	畑	樹園地	草地
5.59	0.21	3.33	2.05	5.59

(b) 作付面積(1戸平均ha)

作物	水稲	麦類	小豆	その他の豆類	飼料作物	アスパラガス	馬鈴薯	てん菜	野菜等	牧草
面積	0.21	0.19	0.32	0.23	0.63	0.09	1.14	0.38	0.33	1.94

(c) 農家戸数、農業従事者数

総 数	専 業	第 1 種 兼 業	第 2 種 兼 業	世 帯 員	常 雇	臨 時 雇
351 戸	99 戸	176 戸	76 戸	986 人	1 人	9,862 人

(d) 家畜の飼養頭羽数

家畜名	馬	乳 牛	肉 牛	豚	めん羊	にわとり
飼 養 戸 数	220	99	87	46	6	141
飼 養 頭 数	228	774	355	411	10	5,998
1 戸 当 平 均 頭 数	1.0	7.8	4.1	8.9	1.7	42.6

本地域の農業は空知川流域の平地に水田農家が多く、平地から台地及び丘陵地に接するところと一部の平地には野菜農家が存在し、近年野菜作が盛んになってきている。地域の上流域の低地では畑作が行われ、傾斜地及び丘陵地では畑作及び酪農が行われている。

水田作、畑作は面積狭少のため野菜作をとり入れた集約的栽培農家が多い。丘陵地で酪農専業が多く、事業体経営も一部で行われている。

2 土壤の類型区分及び説明

(1) 土壤統一覽

水 田

土壤統名	色層序	腐植層序	礫層、砂礫層、礫を混在する砂層	酸化沈積物	土 性		泥 炭	黒泥	グライ	母 堆 積 様 式	材 式	施肥改善土壤類型
					表 土	次 層						
大 沼	YR/YR	全層多腐植層	なし	あり	粘 質	ヨ シ	20~25cm以下	なし	あり	集積(低位泥炭)ヨシ		
北 大 沼	"	"	"	"	"	"	20~70cm間	"	"	"		
西 鳥 沼	"	"	"	"	"	ミズケ	20~25cm以下	"	"	集積(高位泥炭)ミズゴケ		
東富良野	YR/B	表層腐植層	"	"	"	強粘質	なし	"	"	水積(河成堆積)変成岩		
達 布	YR/Y	"	あり	"	"	粘 質	"	"	なし	" 非固結水成岩		
東 山	YR/YR	全層腐植層	なし	"	"	"	40~55cm間	"	"	" 非固結水成岩		
東 学 田	YR/Y	表層腐植層	"	"	強粘質	強粘質	なし	"	あり	" 非固結水成岩		
寿	YR/Y	表層腐植層なし	"	"	粘 質	壤 質	"	"	なし	" 非固結水成岩		
十梨別東	Y/Y	表層腐植層なし	あり	"	粘 質	強粘質	"	"	あり	水積(河成)非固結水成岩		Eグライ土壤 4 2 粘土型
扇 山	YR/G	表層腐植層	"	"	"	壤 質	"	"	あり	崩積 非固結水成岩		
富 良 野	Y/YR	表層腐植層なし	なし	なし	粘 質	壤 質	"	"	なし	水積(河成堆積)非固結水成岩		
下金山東	YR/YR	表層腐植層	"	"	粘 質	粘 質	"	"	なし	水積(河成)非固結水成岩		H黒色土 7 2 粘土型 K礫質土 9 3 壤土 腐植型 粘土 腐植型
十 梨 別	Y/YR	表層腐植層なし	あり	"	"	強粘質	"	"	"	" (")		
西 学 田	YR/YR	"	なし	"	"	壤 質	"	"	"	" (")		
鳥 沼	YR/YR	"	あり	"	"	"	"	"	"	" (") 非固結水成岩		

畑

土壌統名	色層序	腐植層序	礫層、砂礫層、礫を混在する砂層	酸化沈積物	土性		母材		備考
					表土	次層	堆積様式		
八幡	YR/YR	表層腐植層なし	あり	なし	粘質	壤質	残積	半固結火成岩	
南布礼別	YR/YR	"	なし	"	強粘質	強粘質	"	"	
平沢	YR/Y	表層腐植層	"	あり	"	"	"	"	
富丘	YR/YR	表層腐植層なし	"	"	"	"	"	"	
自由ヶ丘	YR/Y	表層腐植層なし	なし	なし	粘質	強粘質	洪積	非固結水成岩	
下金山	YR/YR	表層腐植層	"	あり	"	"	"	"	
幾寅	"/"	表層腐植層なし	"	なし	壤質	壤質	水積(河成)	"	
幾寅西	Y/Y	" "	あり	"	"	"	" (")	"	
山畔南	YR/Y	表層腐植層	"	"	"	"	" (")	"	
東麓部	YR/YR	表層腐植層なし	なし	なし	粘質	粘質	" (")	非固結火成岩	
シソラチ	YR/YR	表層多腐植層	なし	なし	粘質	壤質	" (")	非固結水成岩	
下学田	YR/YR	表層腐植層なし	"	"	強粘質	強粘質	" (")	非固結変成岩	
西扇山	YR/YR	表層多腐植層	"	"	"	"	" (")	"	
島の下	YR/YR	表層腐植層なし	あり	"	"	"	" (")	"	
麓郷	YR/YR	表層腐植層	"	"	粘質	粘質	" (")	非固結火成岩	
布礼別	YR/YR	"	あり	"	"	"	" (")	"	
上達布	YR/YR	全層腐植層	なし	"	壤質	壤質	" (")	非固結水成岩	
松井	YR/Y	表層腐植層	なし	あり	壤質	粘質	" (")	"	
伊勢	YR/YR	"	あり	なし	"	"	水積(扇状堆土)	固結水成岩・変成岩	
南島の下	YR/YR	"	なし	あり	強粘質	強粘質	崩積	非固結変成岩	
御料	YR/YR	"	"	"	"	"	"	"	
上御料	YR/Y	表層多腐植層	あり	"	"	粘質	"	"	
下御料	YR/YR	表層腐植層	"	なし	粘質	強粘質	"	"	
北山部	YR/YR	表層腐植層なし	なし	なし	強粘質	粘質	"	"	
山部	YR/YR	表層腐植層	"	"	"	強粘質	"	"	
西山部	YR/YR	"	あり	"	粘質	壤質	"	"	
上落合西	YR/YR	表層腐植層	なし	なし	壤質	壤質	崩積	変成岩	
上落合北	YR/YR	"	あり	"	"	"	"	固結水成岩	
西達布	YR/YR	表層腐植層なし	"	"	粘質	"	"	非固結火成岩	
落合南	YR/YR	表層腐植層	なし	なし	壤質	"	崩積/風積	変成岩・非固結水成岩混	
上落合	"/"	"	あり	"	"	"	風積	非固結水成岩	
北落合	"/"	"	なし	"	壤質	"	"	"	

土壤区一覽

水 田

土壤区名	簡略分級式	面 積 (㌥)			49年農林省農業統計(㌥)			備考
		富良野市	南富良野町	計	富良野市	南富良野町	計	
大 沼	Ⅱlrfnia	475		475				
北大沼	Ⅱlrfnia	360		360				
西鳥沼	Ⅱplrfnia	70		70				
東富良野	Ⅱpr	250		250				
達 布	Ⅲn Ⅱpf	310	11	321		71		
東 山	Ⅲn Ⅱrf	35		35				
東学田	Ⅱprfn	45		45				
寿	Ⅱtlrfn	120		120				
十梨別東	Ⅱprfn	—	4	4		29	29	
扇 山	Ⅱl	75		75				
富良野	(畑 Ⅱpl Ⅱpi)	畑(370 120)		370				
下金山東	Ⅱpln		10	10		65	65	
十梨別	Ⅱtplfn		21	21		142	142	
西学田	Ⅱlfn	130		130				
鳥 沼	(畑 Ⅱln Ⅱns)	畑(55 210)		55				

畑

土壤区分	簡略分級式	面 積 (㌥)			49年農林省農業統計(㌥)			備考
		富良野市	南富良野町	計	富良野市	南富良野町	計	
八 幡	Ⅱtdfnse	1,120		1,120				
南布礼別	Ⅲf Ⅱtpns	1,320		1,320				
平 沢	Ⅲw Ⅱtfns	110		110				
富 丘	Ⅱtwfn	240		240				
自由ヶ丘	Ⅱtpfns		170	170		173	173	
下金山	Ⅱtpwfns		129	129		132	132	
幾 寅	Ⅱf		183	183		186	186	
幾寅西	Ⅱtdf		76	76		77	77	
山畔南	Ⅱtgfn		20	20		20	20	
東麓郷	Ⅱn	150	15	165		15		
シソラチ	Ⅲf Ⅱn		40	40		41	41	
下学田	(畑 Ⅱp Ⅱi Ⅱp)	畑(160 110)		160				

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式	面 積 (ha)			49年農林省農業統計表			備 考
		富良野市	南富良野町	計	富良野市	南富良野町	計	
西扇山	(田 p)	180 (150)		180				
島の下	g tdp(w)	20		20				
麓 郷	IVg tp(w)n	484 (150)		484				
布礼別	(田 dgpfn gpfni)	270 (90)		270				
上達布	(田 f if)	40 (90)		40				
松 井	w tfn		71	71		72	72	
伊 勢	tdgfnse	60	401	461		408	408	
南島の下	p tgpws	50		50				
御 料	(田 tgpws gpw)	200 (60)		200				
上御料	dgpwnis	90		90				
下御料	(田 dgpis gpl)	120 (350)		120				
北山部	gpi	80		80				
山 部	(田 gpis gp)	310 (900)		310				
西山部	IVg di tp(w)fs	30 (35)		30				
上落合西	fs ne		30	30		31	31	
上落合北	dfn ie		39	39		40	40	
西達布	gfnse	1,310		1,310				
落合南	fs tdne		50	50		51	51	
上落合	se tdfn		294	294		300	300	
北落合	fn tse		1,176	1,176		1,197	1,197	
計								

2) 土壤統別説明

水 田

大 沼 統

(1) 土壤統の概要

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ14~16cmで腐植含量は7~11%、土性はL~CLである。色は10YRで明度、彩度ともに3~4である。発達弱度の細粒状構造で孔隙に富む。ち密度は1.0~1.5で疎~中、pH(H₂O)5.5前後。下層との境界平均明瞭、客土層。

第2層は厚さ4~10cmで腐植含量2以下、土性はL~CLである。色は7.5GYで明度4~6、彩

度1で、一部10YR、明度4~6、彩度4の場合もある。均質連結状で孔隙あり程度。粘着性はやゝ強。ち密度1.4~1.6で疎。酸化沈積物に富む。客土層で底盤。下層との境界平均明瞭。

第3層は厚さ60cm~100cm以上、ヨシを主体とし下部にハンノキを混在する低位泥炭。一般に分解は進み、かつ粘土の混入あり。ち密度は7~1.2で疎。70~80cmより湧水する場合が多い。

代表的断面形態

水田(転作:小豆)

(所在地):富良野市西島沼、試坑:102

第1層	0~15cm	腐植に頗る富む黄褐(10YR3/4)のCL。発達弱度の細粒状構造。小孔に富む。ち密度1.3で疎。粘着性中。透水性良。調査時の湿り半乾。層界平均明瞭。客土層
第2層	15~23cm	腐植を欠く青灰(7.5GY5/1)のCL。均質連結状で小孔あり。ち密度1.4で疎。粘着性やゝ大。調査時の湿り半乾。酸化沈積物に富む。層界平均明瞭。客土層
第3層	23~43cm	ヨシからなる低位泥炭。黄褐(10YR4/4)で粘土の混入多い。分解は良(7)。ち密度1.3で疎。調査時の湿り半乾。層界判然。
第4層	43~80cm	ヨシ、ハンノキからなる低位泥炭。黄褐(7.5YR3/3)で粘土の混入多い。分解は良(7)。ち密度9で甚だ疎。調査時の湿り湿。層界判然。
第5層	80cm以上	ヨシからなる低位泥炭。黄褐(7.5YR3/4)で粘土混入富む。分解はやゝ不良(3)。ち密度7で甚だ疎。調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~15	4.6	—	36.9	19.7	23.7	19.6	CL	6.13	0.48	12.8	10.6

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			塩 基 飽 和 度 %	磷酸吸 収係数	有効態 mg/100g P ₂ O ₅	30°C: NH ₄ -N 発生量 mg/100g 乾 土	遊 離 酸 化 鉄 %
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O					
1	5.5	4.6	1.5	2.04	8.5	2.22	0.35	5.43	1.380	15.9	15.4	0.87

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統に類似する統として北大沼統、西島沼統がある。北大沼統は泥炭層中に明瞭な粘土層が介在しており、西島沼統は上部がミズゴケからなる高位泥炭であることにより区分される。

A-3 母材 非固結火成岩(熔結凝灰岩粘土、客土)/ヨシ

A-4 堆積様式 集積(低位泥炭)

B 地形 平坦低地

C 気候 年平均気温 6.5℃、年降水量 845mm

D 植生および利用状況

水田であるが大部分転作し小豆が主に栽培されている。

E 農業上の留意事項

泥炭で客土は現在ほぼ15cm～20cm内外の厚さまで行われているが、排水系統が充分でなくかなり水位の高いところが多い。また地盤が軟弱で大型機械の導入が困難である。さらに客土と排水系統の完備を要しよう。

F 分布 北海道富良野市北部（北大沼、西島沼）

調査及び記載責任者 後藤計三（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和49年3月

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
大 沼 — 大 沼	II l r f n i a

② 土壌区別説明

大 沼 — 大 沼

示性分級式（水田）

土	表	有	表	耕	(表	(表	(表	湛	(作	(酸	(易	(遊	(グ	土	(透	(保	(自	(保	(養	(置	(有	(有	(微	障	(有	(災	(地	
壤	土	効	土	土	表	表	表	水	土	土	分	離	ラ	地	透	湿	然	固	土	換	効	効	酸	害	物	増	地	
生	土	土	の	の	土	土	土	透	下	化	解	酸	イ	の	水	水	肥	定	塩	の	苦	加	望	珪	害	理	す	
産	の	の	の	の	乾	乾	透	50	50	有	性	化	の	の	水	潤	沃	基	灰	土	里	酸	素	酸	物	的	の	
力	層	層	の	の	土	土	の	cm	cm	機	機	機	機	乾	沃	沃	状	状	含	含	含	含	含	害	障	害	の	
可	の	の	の	の	の	の	の	の	の	物	物	物	物	性	性	性	力	力	量	量	量	量	量	の	害	危	危	
能	厚	深	含	難	性	性	性	性	性	元	元	元	元	湿	度	度	度	度	否	否	否	否	素	害	害	險	險	
性	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等
等	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級
級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級
等	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級
等	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級
等	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級
等	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級
等	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級
等	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級
等	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級
等	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級
等	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級
等	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級
等	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級
等	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級
等	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級
等	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級
等	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級
等	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級
等	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級
等	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級
等	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級
等	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級
等	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級
等	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級
等	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級
等	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級
等	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級
等	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級
等	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級
等	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級
等	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級
等	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級
等	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級
等	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級
等	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級
等	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級
等	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級
等	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級
等	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級
等	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級
等	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級
等	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級
等	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級
等	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級
等	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級
等	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級
等	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級
等	級	級	級	級	級</																							

A 土壤区の特徴

この土壤区は大沼統に属する。表土は客土層で15～20cmで中庸、有効土層は1m以上で深い。表土の土性はL～CLで耕起碎土は容易である。保肥力中、固定力中、土層の塩基状態不良で自然肥決度は低い。作土の養分状態はやゝ良。障害性として軟弱地盤、災害性として冠水のおそれがある。

B 植生及び利用状況

水田、大部分転換畑

C 地力保全上の問題点

地耐力が弱く大型機械の導入が困難であり、さらに客土と系統的な暗渠、排水溝等の整備、農道の整備を要する。珪カルの施用、塩基の補給に留意。

D 分布

北海道富良野市北大沼、西烏沼。

記載責任者 後藤計三(北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和49年3月31日

北 大 沼 統

(1) 土壤統の概要

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15～23cmで腐植含量10～12%、土性はCL～Lである。色は10YRで明度2～4、彩度2～4である。発達弱度の粒状構造で小孔に富む。ち密度7～12で疎。pH(H₂O)5.3前後。下層との境界明瞭。客土層。

第2層は厚さ40～50cmでヨシからなる低位泥炭。分解中～良。粘土混入含む～富む。ち密度7～12で疎。pH(H₂O)5.0前後。下層との境界は判然。

第3層は厚さ40cm以上、腐植含量5%前後、土性はLiC～HCである。色は7.5～5.0GYで彩度1、明度4～6。均質連結状。ち密度10前後で疎。粘性強くグライ層。

代表的断面形態

水田(転換:小豆)

(所在地)富良野市西烏沼、試坑103

第1層	0～18cm	腐植に頗る富む黄褐(10YR2/3)のCL。発達弱度の粒状構造で小孔に富む。ち密度7で頗る疎。粘着性弱。pH(H ₂ O)5.3。調査時の湿り半乾。境界平坦明瞭。客土層
第2層	18～42cm	ヨシからなる低位泥炭。分解やゝ良(6)。色は10YRで彩度2～3、明度2～3。粘土の混入含む。ち密度12で疎。pH(H ₂ O)5.0。調査時の湿り湿。境界平坦判然。

第 3 層	42~60cm	ヨシおよび粘土がほぼ半々で、ヨシは分解やゝ不良(4)。色は10YR~2.5Yで彩度1~3、明度2~3。均質連結状で粘性強。ち密度17で疎。pH(H ₂ O)5.5。調査時の湿り湿。境界平坦判然。
第 4 層	60~71cm	ヨシからなる低位泥炭。分解不良(2)。色は10YRで彩度1~2、明度3~4。ち密度5で甚だ疎。pH(H ₂ O)5.4。調査時の湿り湿。境界平坦明瞭。
第 5 層	71cm以上	腐植を欠く青灰(5GY5/1)のSiC。均質連結状で粘性強。ち密度10で甚だ疎。調査時の湿り湿。グライ層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含 量重 量%	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~18	3.1	—	40.7	19.8	20.7	18.8	CL	6.79	0.55	12.4	11.8
2	18~42	7.4	—	34.2	25.7	24.7	15.5	CL	12.47	0.48	26.0	21.6
3	42~60	10.7	—	1.3	19.8	45.0	33.9	SiC	32.80	1.45	22.6	56.7
4	60~71	8.7	—	1.1	8.1	50.7	40.1	SiC	23.80	1.81	13.2	41.2

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容 量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g			塩 基 飽和度 %	燐酸吸 収係数	有効態 mg/100g P ₂ O ₅	30°C: NH ₄ -N 発生量 mg/100g 乾 土	遊離酸 化 鉄 %
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O					
1	5.3	4.5	1.5	21.2	8.7	2.47	0.25	53.9	960	11.1	18.2	0.79
2	5.0	4.3	2.3	59.5	6.7	1.51	0.06	13.9	1600	6.6	54.6	0.77
3	5.5	4.7	0.7	70.4	7.3	1.81	0.04	13.0	1450	3.2		0.80
4	5.4	4.7	0.9	64.5	12.0	4.11	0.10	25.1	1650	3.6		0.84

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統に隣接する統として大沼統、西鳥沼統がある。大沼統、西鳥沼統は何れも全層泥炭であることにより本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩(熔結凝灰岩=客土)ノヨシ

A-4 堆積様式 集積(低位泥炭)

B 地形 平坦な低地。

C 気候 年平均気温6.5°C 年平均降水量845mm

D 植生および利用状況

全域水田であるが転換畑が多い。転換畑は小豆の作付多い。

E 農業上の留意事項

泥炭であるが粘土の混入多く透水性が極めて不良であり、排水の完備を要する。現在地耐力小さく大型機械の導入が困難であり排水と併せて客土をさらにすることが望ましい。

さらに実施が望ましい。塩基、硅カルの施用に留意。

D 分布 北海道富良野市北大沼、西烏沼、扇山。

記載責任者 後藤計二（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和49年3月31日

西 烏 沼 統

(1) 土壌統の概要

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ12~23cmで腐植含量5~12%、土性はLiC~CLである。色は10YRで彩度2~4、明度2~5。発達弱度の粒状構造で小孔を含む~富む。ち密度10~17で疎。pH(H₂O) 5.8前後。下層との境界平坦明瞭。本層は客土層。

第2層は厚さ10~25cmで、ミズゴケ、ヌマガヤ、ツルコケモモ等からなる高位泥炭で分解は不良である。色は10YR~7.5YRで彩度2、明度2~4。ち密度10~15で疎。pH(H₂O) 5.3前後。下層との境界判然。

第3層は厚さ80cm以上で、ヨシにハンノキを混在する低位泥炭で分解は不良である。色は10YRで彩度3~4、明度2~3。ち密度10以下で甚だ疎。

代 表 的 断 面 形 態

水田（転換：大豆）

（所在地）富良野市西烏沼、試坑105

第 1 層	0~13cm	腐植に富む黄褐(10YR4/4)のLiC。発達弱度の粒状構造。小孔に富む。粘性弱。ち密度15で疎。pH(H ₂ O) 5.8。調査時の湿り半乾。層界平坦明瞭。客土
第 2 層	13~23cm	腐植に頗る富む灰褐(10YR4/2)のCL。均質連結状で細孔あり。ち密度17で疎。粘性中。pH(H ₂ O) 5.3。酸化沈積物含む。調査時の湿り半乾。層界平坦明瞭。客土
第 3 層	23~28cm	ミズゴケ、ヌマガヤ、ツルコケモモからなる高位泥炭。黄褐(10YR2/2)で分解は不良(2)。ち密度12で疎。pH(H ₂ O) 5.0。調査時の湿り湿。層界判然。
第 4 層	28~53cm	ヨシ、ハンノキからなる低位泥炭。黄褐(7.5YR2/3)で分解不良(2)。pH(H ₂ O) 3.3、ち密度9で甚だ疎。調査時の湿り湿。層界判然。
第 5 層	53cm以上	ヨシにハンノキが混在する低位泥炭。黄褐(10YR2/3)で分解不良(3)。ち密度8で甚だ疎。調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含 量重 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~13	4.5	—	32.7	16.6	19.1	31.6	LiC	3.63	0.25	14.5	6.3
2	13~23	3.5	—	42.4	18.2	22.5	16.9	CL	6.22	0.44	14.1	10.8
3	23~28	—	—					ミズゴケ	44.10	2.61	16.9	76.3
4	28~53	—	—					ヨシ・ハ ンノキ	29.44	2.24	13.1	50.9

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容 量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g			塩 基 飽 和 度 %	磷酸吸 収係数	有効態 mg/100g	30℃:NH ₄ -N 発生量 mg/100g	遊離酸 化 鉄 %
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O					
1	5.8	4.6	0.9	15.8	7.8	2.71	0.21	51.2	800	7.1	6.3	1.26
2	5.3	4.3	3.7	17.5	5.6	1.48	0.09	41.0	880	11.2	14.6	0.82
3	5.0	4.1	3.7	76.5	4.1	1.05	0.02	6.8	3000	3.4		2.14
4	3.3	3.2	55.0	76.6	3.0	0.76	0.00	4.9	540	3.4		0.93

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する或は類似する統として大沼統、北大沼統とがある。大沼統、北大沼統共にヨシ、ハンノキからなる低位泥炭でミズゴケがないことにより区別される。

A-3 母材 非固結火成岩（熔結凝灰岩：客土）／ミズゴケ

A-4 堆積様式 集積（高位泥炭）

B 地形 平坦低地

C 気候 年平均気温 6.5℃ 年降水量 845mm

D 植生および利用状況

全域水田であるが転換畑も多い。転換畑は主に小豆が多い。

E 農業上の留意事項

泥炭のうち本統は最も客入土量が少なく、また地耐力が弱い。また畦畔漏水多く、地下水位が高い。これらの改善に留意を要しよう。

F 分布 北海道富良野市西島沼

調査及び記載責任者 後藤計二（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和49年3月31日

(2) 土壌の細分

① 土壌区一覧

東 富 良 野 統

(1) 土壤統の概要

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20～30cmで腐植含量7～9%、土性はSCL～LiCである。色は10YRで彩度1～2、明度2～3である。作土は発達弱度の粒状構造、心土は均質連結状であることが多い。細孔、小孔に富む。ち密度1.4～1.7で疎。酸化沈積物を含む～富む。pH(H₂O) 5.8前後。下層との境界漸変。

第2層は厚さ10～30cmで腐植含量4～7%、土性はLiCである。色は2.5Y～Nで彩度1～2、明度4～5である。均質連結状で細孔、小孔を含む。ち密度1.7で疎。酸化沈積物に富む～頗る富む。pH(H₂O) 5.5前後。下層との境界判然。

第3層は厚さ50cm以上で腐植含量2%以下、土性はLiCである。色は10BGで彩度1、明度4～5である。均質連結状で小孔あり。pH(H₂O) 5.2前後。ち密度1.5内外で疎。グライ層。

代 表 的 断 面 形 態

水田

(所在地) 富良野市西扇山、試坑236

第 1 層	0～13cm	腐植に富む黒(10YR2/1)のSCL。発達弱度の粒状構造で小孔に富む。ち密度1.4で疎。粘性中。pH(H ₂ O) 5.8。酸化沈積物あり。調査時の湿り半乾。層界平坦判然。
第 2 層	13～24cm	腐植に富む黒(10YR2/2)のLiC。均質連結状で細孔あり。ち密度1.7で疎。粘性中。pH(H ₂ O) 5.5。酸化沈積物に富む。調査時の湿り半乾。層界判然。
第 3 層	24～35cm	腐植に富む灰(N-4)LiC。均質連結状で一部発達弱度の粒状構造を含む。小孔富む。粘性強。酸化沈積物に頗る富む。pH(H ₂ O) 5.2。調査時の湿り半乾。層界平坦明瞭。
第 4 層	35cm以上	腐植を欠く青灰(10BG5/1～4/1)のLiC。均質連結状で細孔、小孔あり。ち密度1.5で疎。粘性強。pH(H ₂ O) 5.2。調査時の湿り湿。グライ層。

代表的断面の分析成績

16.236

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 %	粒 径 組 成			%	土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
				粗砂	細砂	シルト						
1	0~13	9.2	—	21.0	39.7	14.7	24.6	SCL	4.42	0.36	12.3	7.7
2	13~24	16.7	—	23.0	22.4	23.4	31.2	LiC	5.09	0.42	12.1	8.8
3	24~35	8.5	—	27.0	17.2	25.5	30.3	LiC	3.95	0.27	14.6	6.8
4	35~	5.2	—	4.4	22.1	30.2	43.3	LiC	0.80	0.06	13.3	1.4

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容 量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g			塩 基 飽和度 %	磷酸吸 収係数	有効態 mg/100g P ₂ O ₅	30°C: NH ₄ -N 発生量 mg/100g 乾 土	遊離酸 化 鉄 %
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O					
1	5.8	4.5	1.8	27.3	12.3	2.88	0.27	56.6	1.220	14.3	7.7	1.43
2	5.5	4.3	2.9	28.8	11.2	3.41	0.26	51.6	1.240	12.7	4.9	1.26
3	5.2	3.9	10.0	34.1	8.6	4.69	0.28	39.8	1.500	5.8		2.26
4	5.2	3.6	17.4	27.6	5.7	11.35	0.22	62.6	1.040	5.0		1.25

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統に隣接あるいは類似する統として西扇山統、扇山統などがある。西扇山統は下層は黄褐色を呈し湿性を呈しないこと、扇山統は扇状土で、土壌母材は凝灰岩質であることにより区分される。

A-3 母材 変成岩

A-4 堆積様式 水積（河成堆積）

B 地形 平坦な低地

C 気候 年平均気温 6.5°C。 年降水量 845 mm

D 植生および利用状況

全域水田であるが、転換畑も多く主に小豆が栽培されている。

E 農業上の留意事項

全般に地下水位高く排水が完備されていない。これらの完備を要する。

F 分布 北海道富良野市扇山。

調査および記載責任者 後藤計二（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和49年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
東 富 良 野 - 東 富 良 野	llpr

第1層は厚さ13~17cmで腐植含量5~8%、土性はSCLである。色は10YRで彩度2、明度3~4である。発達弱度の粒状構造で小孔含む。ち密度12内外で疎。pH(H₂O)4.8前後。下層との境界平坦明瞭。

第2層は厚さ30~40cmで腐植含量5%前後、土性はCL~LiCである。色は7.5YR~10YRで彩度3、明度4~5である。発達弱度~中度の細塊状構で小孔富む。ち密度15~18で疎~中。pH(H₂O)5.1~5.4。下層との境界判然。

第3層は厚さ40~50cm以上で腐植含量2%以下、土性はSである。色は2.5Yで彩度3~4、明度6~7である。単粒状で小孔に富む。ち密度18前後で疎~中。酸化沈積物あり。湧水する場合多い。

代表的断面形態

水田(転作)

(所在地)富良野市しらはぎ 試坑167

第1層	0~15cm	腐植に富む黄褐(10YR4/2)のSCL。発達弱度の粒状構造で小孔に富む。ち密度12で疎。粘性中。pH(H ₂ O)4.8。調査時の湿り半乾。層界平坦明瞭。
第2層	15~27cm	腐植に富む黄褐(10YR5/3)のCL。発達弱度の細塊状構造で小孔あり。ち密度18で中。粘性中。酸化沈積物含む。pH(H ₂ O)5.1。調査時の湿り半乾。層界平坦判然。
第3層	27~50cm	腐植に富む黄褐(7.5YR5/3)のLiC。発達中度の細塊状構造で小孔、中孔に富む。ち密度15で疎。粘性中。酸化沈積物に頗る富む。pH(H ₂ O)5.4。調査時の湿り湿。
第4層	50cm以下	腐植を欠く灰(2.5Y7/3)のS。単粒状で小孔に富む。ち密度18で中。粘性なし。酸化沈積物あり。調査時の湿り潤。

代表的断面の分析成績

No.167

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 %	粒径組成%				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~15	2.6	—	48.1	16.7	16.8	18.4	SCL	3.79	0.34	11.2	6.6
2	15~27	2.4	—	32.3	22.6	20.4	24.7	CL	3.01	0.28	10.8	5.2
3	27~50	6.3	—	17.1	21.8	27.0	34.1	LiC	3.01	0.24	12.5	5.2

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			塩基飽和度 %	磷酸吸 収係数	有効態 mg/100g P ₂ O ₅	30°C: NH ₄ -N 発生量 mg/100g 乾土	遊離酸 化鉄 %
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O					
	1	4.8	4.3	4.6	14.5	2.2	0.16	0.11	17.0	620	36.6	4.2
2	5.1	4.5	2.4	11.6	4.2	0.37	0.26	41.6	800	8.5	13.3	1.11
3	5.4	4.4	2.1	16.8	6.0	0.45	0.14	39.2	1080	5.1		1.58

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統に類似あるいは隣接する統として東山統、東麓郷統がある。東山統は下層に泥炭が存在しており、東麓郷統は土性が粗く凝灰岩質であることにより区別される。

A-3 母材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 水積（河成堆積）

B 地形 平坦低地

C 気候 年平均気温 6.5℃。 年降水量 1,179mm

D 植生および利用状況

主に水田に利用されている。

E 農業上の留意事項

作土の塩基即ち石灰、苦土、加里に乏しい。このため、珪カル、熔燐、加里の施用さらに堆肥の施用を要する。

F 分布 北海道富良野市しらはぎ

調査および記載責任者 後藤計二、木村清（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和49年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
達 布 一 達 布	II n II pf

② 土壌区別説明

達 布 一 達 布

示性分級式（水田）

土	表	有	表	耕	(表	(表	湛	(作	(酸	(易	(遊	土	(透	(保	自	(保	(固	(養	(置	(有	(有	(微	(酸	障	(有	災	(増	(地							
壤	効	効	土	土	土	土	水	土	土	分	離	地	地	潤	然	肥	肥	層	換	効	効	量	害	害	冠	す	す								
生	土	土	の	の	の	の	透	50	化	性	酸	イ	水	水	肥	肥	の	の	苦	加	磷	窒	珪	質	的	の	の								
産	の	の	の	の	の	の	50	の	還	有	化	の	乾	沃	力	力	塩	石	土	里	酸	素	酸	の	障	害	の								
力	層	層	の	の	の	の	cm	の	元	機	含	乾	性	性	度	度	基	灰	含	里	酸	素	要	害	害	の	危								
可	の	の	の	の	の	の	の	の	含	物	量	性	性	度	度	状	量	量	量	量	量	素	性	無	性	性	危								
能	厚	厚	深	深	深	深	性	性	量	量	量	度	度	度	力	力	態	否	否	否	否	否	性	性	性	性	性								
性	等	等	等	等	等	等	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性							
等	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級							
級	t	d	g	p			l		r		w			f		n							i		a										
級	III	I	I	I	II	2	2	2	I	1	3	1	—	—	—	—	II	1	1	2	III	3	3	3	1	3	1	—	2	I	1	1	I	1	1
級	簡略分級式		III n		II p f																														

A 土壌区の特徴

この土壌区は達布統に属する。表土の厚さは1.3～1.5 cmで中、有効土層は1 m以上で深い。表土は粘性弱～中で耕起、砕土は容易である。保肥力大、固定力小、土層の塩基状態は中で自然肥沃度は中位である。作土の養分状態は塩基に乏しい。特殊な障害性、災害性はない。

B 植生および利用状況

水田になっている。休耕地も多い。

C 地力保全上の問題点

作土の塩基即ち石灰、苦土、加里に乏しい水田である。珪カル、熔磷、加里の施用、さらに堆肥の増施を図る必要がある。

D 分布 北海道富良野市しらはぎ

記載責任者 後藤計二（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和49年3月31日

東 山 統

(1) 土壌統の概要

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ3.0～5.0 cmで腐植含量4～6%、土性はSCL～CLである。色は7.5 YR～1.0 YRで彩度2、一部3で、明度3～4である。発達弱度の粒状、細塊状構造で犁底盤層は均質連結状が多い。ち密度1.0～1.8で疎～中。酸化沈積物を含む。pH(H₂O) 4.5～5.0。下層との境界平坦明瞭。

第2層は厚さ15~30cmで腐植含量10%以上、土性はLiCである。色は7.5YRで彩度1~2、明度2~4である。発達弱度の塊状構造あるいは均質連結状である。ヨシを含む~富みマツク状である。ち密度は1.0~1.5で疎。酸化沈積物あり。pH(H₂O)5.0前後。下層境界判然。

第3層は厚さ40cm以上で腐植含量2%以下、土性はCLである。色は2.5Yで彩度2~3で明度4~5である。均質連結状ち密度1.2前後で疎。湧水する場合が多い。グライ層

代表的断面形態

水田(転作)

(所在地)富良野市のぎく 試坑160

第1層	0~20cm	腐植に富む灰褐(7.5YR4/2)のSCL。発達中程度の細粒状構造で小孔に富む。ち密度1.0で疎。粘性弱。pH(H ₂ O)4.6。調査時の湿り半乾。層界平坦判然。
第2層	20~27cm	腐植を含む灰褐(7.5YR4/2)のSCL。発達弱度の塊状構造で小孔含む。ち密度1.8で疎。粘性弱。pH(H ₂ O)4.9。調査時の湿り半乾。層界平坦明瞭。
第3層	27~40cm	腐植に頗る富む灰褐(7.5YR4/2)のLiC。発達弱度の塊状構造で小孔含む。ち密度1.5で疎。粘性中。酸化沈積物含む。pH(H ₂ O)5.0。調査時の湿り湿。層界判然。
第4層	40~55cm	腐植に頗る富む灰褐(7.5YR4/2)のLiCで泥炭を含む。発達弱度の塊状構造で小孔含む。ち密度1.5で疎。粘性中。酸化沈積物あり。調査時の湿り潤。層界判然。
第5層	55cm以下	腐植を含む灰(2.5Y5/3)のCL。均質連結状で小孔あり。ち密度1.2で疎。粘性中。酸化沈積物あり。調査時の湿り潤。

代表的断面の分析成績

No.160

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~20	3.4	—	51.3	13.8	15.4	19.5	SCL	3.17	0.28	11.3	5.5
2	20~27	3.2	—	52.1	13.2	17.4	17.3	SCL	2.79	0.23	12.1	4.8
3	30~40	8.6	—	12.3	20.9	30.9	35.9	LiC	6.92	0.55	12.6	12.0

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			塩 基 飽和度 %	磷酸吸 収係数	有効態 mg/100g P ₂ O ₅	30°C: NH ₄ -N 発生量 mg/100g 乾 土	遊離酸 化 鉄 %
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O					
1	4.6	4.2	5.2	15.3	3.5	0.92	1.28	37.3	7.80	6.42	6.2	0.60
2	4.9	4.3	4.3	11.3	3.0	0.72	0.55	37.8	6.80	4.59	4.2	0.54
3	5.0	4.3	6.2	29.4	3.1	0.63	0.64	14.9	15.40	1.67		0.29

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統に隣接する統として達布統、東麓郷統がある。達布統は泥炭の混在なく、東麓郷統は下層湿性を呈さず凝灰岩質であることにより区別される。

A-3 母材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 水積（河成堆積）

B 地形 平坦低地

C 気候 年平均気温 6.5℃。年降水量 1,179mm

D 植生および利用状況

水田に利用

E 農業上の留意事項

下層に薄層の泥炭を夾在し地下水位が高い。明暗渠を完備要する。石灰、苦土の補給と堆肥の施用を図ること。

D 分布 北海道富良野市のぎく

調査および記載責任者 後藤計二、木村清（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和49年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
東 山 一 東 山	⊕ In Irf

② 土壌区別説明

東 山 一 東 山

示性分級式（水田）

土	表	有	表	耕	(表	(表	(表	湛	(作	(酸	(易	(遊	(土	(透	(保	(自	(保	(養	(置	(有	(有	(微	(酸	障	(有	(物	災	(地
壤	効	効	土	土	土	土	土	水	土	土	分	離	地	地	湿	然	固	土	換	効	効	量	害	害	害	冠	す	
生	土	土	の	の	の	の	の	透	下	化	解	酸	の	の	潤	肥	定	塩	の	苦	加	磷	窒	珪	素	の	の	
産	層	層	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	
力	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	
可	厚	厚	含	難	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	
能	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	
性	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	
等	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	
級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	
	(稻)	t	d	g	p			l		r		w		f		n								i		a		
	III	I	I	I	I	2	1	1	I	1	2	II	1	3	3	--	--	II	2	2	3	III	3	2	1	1	3	
	簡	略	分	級	式																							

A 土壤区の特徴

この土壤区は東山統に属する。表土の15cm内外で厚く有効土層も1m以上で深い。表土の土性は細粒質であるが耕起、砕土は容易である。保肥力中、固定力も中であるが土層の塩基状態は不良で自然肥沃度は低い。作土の養分状態は石灰、苦土に乏しく養分も少ない。特殊の障害性、災害性はない。

B 植生および利用状況

水田になっているが、転換畑も多い。

C 地力保全上の問題点

地下水位が一般に高く湿性である。排水の完備を要する。また石灰、苦土含量が低く転換畑にあつては炭カルあるいは苦土入り炭カル、また熔磷の施用により石灰、苦土の補給を要する。

D 分布 北海道富良野市のぎく

記載責任者 後藤計二（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和49年3月31日

東 学 田 統

(1) 土壤統の概要

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15～30cmで腐植含量5～8%、土性はCL～LiCである。色は10YRで彩度1～2、明度3～4である。発達弱度の粒状および細塊状構造である。ち密度1.0～1.2で疎。pH(H₂O) 5.1～5.2。酸化沈積物含む～富む。下層との境界明瞭。

第2層は厚さ10～20cmで腐植含量10～17%、土性はLiCである。色は10YRで彩度1～2、明度2～3である。発達弱度の粒状構造でち密度10前後で疎。pH(H₂O)4.8前後。酸化沈積物を含む。下層との境界平坦明瞭。

第3層は厚さ25～50cmで腐植含量2%以下、土性はLiC～CLである。色は10Yで彩度1、明度6～7である。均質連結状。ち密度10前後で疎。pH(H₂O)4.8前後。酸化沈積物あり。グライ層。

代表的断面形態

水田

(所在地)富良野市西学田 試坑128

第1層	0～17cm	腐植に富む灰褐(10YR3/2)のLiC。発達弱度の粒状構造で小孔含む。ち密度10で疎。粘性中。pH(H ₂ O)5.2。酸化沈積物を含む。調査時の湿り半乾。層界判然。
第2層	17～32cm	腐植に富む灰褐(10YR4/2)のLiC。均質連結状で小孔富む。ち密度12で疎。粘性中。pH(H ₂ O)5.1。酸化沈積物に頗る富む。調査時の湿り半乾。層界平坦明瞭。
第3層	32～45cm	腐植に頗る富む黒(10YR2/1)のLiC。発達弱度の粒状構造で小孔に富む。ち密度10で疎。粘性中。pH(H ₂ O)4.8。酸化沈積物を含む。調査時の湿り半乾。層界平坦明瞭。
第4層	45～70cm	腐植を欠く青灰(10Y6/1)のLiC。均質連結状で小孔を含む。ち密度10で疎。粘性弱。pH(H ₂ O)4.8。酸化沈積物あり。調査時の湿り湿。層界平坦明瞭。グライ層。
第5層	70cm以上	腐植に頗る富む黒(10YR1.7/1)のCL。発達中度の粒状構造。小孔に富む。ち密度7で甚だ疎。粘性中。75cmより湧水。調査時の湿り潤

代表的断面の分析成績

№128

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成%				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0～17	4.8	—	11.6	30.1	29.7	28.6	LiC	4.33	0.33	13.1	7.5
2	17～32	8.5	—	13.7	33.0	24.4	28.9	LiC	4.60	0.34	13.5	8.0
3	32～45	15.0	—	0.7	18.0	38.7	42.6	LiC	9.67	0.53	18.3	16.7
4	45～70	4.1	—	0.8	44.2	27.5	27.5	LiC	1.05	0.08	13.1	1.8

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			塩基飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態 P ₂ O ₅ mg/100g	30°C: NH ₄ -N 発生量 mg/100g	遊離酸化鉄 %
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O					
1	5.2	4.3	4.6	2.20	6.1	1.36	0.23	3.50	1.100	6.8	9.7	1.98
2	5.1	4.3	5.2	2.26	5.1	0.86	0.18	2.72	1.140	8.7	4.8	2.40
3	4.8	4.0	10.4	43.2	8.6	1.27	0.24	2.34	1.760	3.7		2.60
4	4.8	3.8	15.6	18.7	8.1	1.73	0.26	5.40	5.00	5.6		0.63

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似あるいは隣接する統として西学田統、中富良野統がある。西学田統は堆積様式が類似するが下層にはグライ層がなく、中富良野統は腐植含量少なくまた下層に埋没腐植層がないことにより区分される。

A-3 母材 非固結火成岩（凝灰岩質）

A-4 堆積様式 水積（河成堆積）

B 地形 平坦低地

C 気候 年平均気温 6.5 °C 年降水量 845 mm

D 植生および利用状況 全域水田となっている。

E 農業上の留意事項

先づ本土壌統を含めて富良野川流域の排水系統を完備する必要がある。

F 分布 北海道富良野市西学田

調査および記載責任者 後藤計二（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和49年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
東学田 - 東学田	llprfn

② 土壌区別説明

東学田 - 東学田

示性分級式(水田)

土	表	有	表	耕	(表)	(表)	湛	(作)	(酸)	(易)	(遊)	(グ)	土	(透)	(保)	自	(保)	(固)	(土)	(養)	(置)	(有)	(有)	(微)	(酸)	障	(有)	(物)	災	(増)	(地)			
壤	表	効	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土			
生	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土				
産	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土				
力	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土				
可	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土				
能	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土				
性	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土				
等	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土				
級	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土				
	稲	t	d	g	p		l		r		w		f		n		i		a															
	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅲ	—	—	—	—	—	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	—	—	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ
簡略分級式		Ⅱ prfn																																

A 土壤区の特徴

この土壤区は東学田統に属する。表土の厚さは15cm以上で厚く有効土層も1m以上で深い。表土は微粒質であるが粘性は中庸で耕起、砕土はやゝ容易である。保肥力大、固定力中であるが土層の塩基状態が低く自然肥沃度は中位。作土は石灰、加里、磷酸がやゝ少なく養分状態は中位。特殊な障害性は無い。また災害性のおそれは少ない。

B 植生および利用状況

全域水田

C 地力保全上の問題点

先づ排水系統の完備を要する。作土の養分は中位で、珪カル、熔燐による磷酸、苦土の富化、さらに堆肥の施用を図る必要がある。

D 分布 北海道富良野市西学田

記載責任者 後藤計二(北海道立中央農業試験場)

日付 昭和48年3月31日

寿 統

(1) 土壤統の概要

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ9~12cmで腐植含量2~3%、土性はL~SCLである。色は10YRで彩度2~3、明度4~6である。発達弱度の粒状、細塊状構造。ち密度1.1~1.4で疎。酸化沈積物に富む。pH(

H₂O)4.9前後。下層との境界平坦明瞭あるいは判然。

第2層は厚さ8~12cmで腐植含量2%以下、土性はSLである。色は2.5Yで彩度1~2、明度4~5である。単粒状あるいは発達弱度の粒状構造。ち密度1.4前後で疎。酸化沈積物に富む~含む。

pH(H₂O)5.0前後。下層との境界平坦明瞭。

第3層は厚さ20~40cmで腐植含量2~5%、土性はLである。色は1.0YR~2.5Yで彩度1~2、明度5である。均質連結状あるいは発達弱度の塊状構造で小孔に富む。ち密度9~1.1で疎。酸化沈積物を含む。pH(H₂O)4.8前後。下層境界判然あるいは明瞭。

第4層は厚さ40cm以上。腐植含量2%以下で、色は2.5Y-1.0YRで彩度1~2、明度4~5、土性はSLが主であるが、CLとSとの互層である場合もある。構造は均質連結状である場合が多く、小孔に富む。ち密度は1.0前後で疎。酸化沈積物を含み湧水する場合が多くグライ層。

代 表 的 断 面 形 態

水 田

(所在地)中富良野町 試坑98

第 1 層	0~12cm	腐植を含む黄褐(1.0YR4/3)のSCL。発達弱度の塊状構造。小孔あり。ち密度1.4で疎。pH(H ₂ O)4.9。粘性中。酸化沈積物富む。グライ斑あり。調査時の湿り半乾。層界明瞭。
第 2 層	12~21cm	腐植を欠く灰(2.5Y5/2)のSL。単粒状で小孔に富む。ち密度1.1で疎。pH(H ₂ O)4.9。粘性弱。酸化沈積物含む。調査時の湿り半乾。層界明瞭。
第 3 層	21~35cm	腐植を含む灰(2.5Y5/2)のL。均質連結状。小孔に富む。ち密度1.0で疎。pH(H ₂ O)4.8。粘性やゝ強。酸化沈積物に富む。調査時の湿り半乾。層界判然。
第 4 層	35~45cm	腐植を欠く灰(2.5Y5/1)のSiCL(触感)。均質連結状で小孔含む。粘性中。ち密度1.1で疎。酸化沈積物あり。調査時の湿り半乾。層界平坦明瞭。
第 5 層	45~63cm	腐植を欠く青灰(1.0Y5/1)のSとCとの互層。均質連結状で小孔含む。粘性弱~中。ち密度1.1で疎。酸化沈積物あり。調査時の湿り湿。層界漸変。
第 6 層	63cm以上	腐植を欠く青灰(1.0YR5/1)のSとCとの互層。均質連結状。ち密度1.0で疎。調査時の湿り湿。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

1698

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含 重量 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~12	4.2	—	33.5	33.5	16.5	16.5	SCL	1.31	0.12	10.9	2.3
2	12~21	4.9	—	1.9	71.6	15.9	10.6	SL	0.57	0.05	11.4	1.0
3	21~35	6.2	—	0.9	47.9	36.4	14.8	L	1.28	0.09	14.2	2.2

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容 量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g			塩 基 飽和度 %	磷酸吸 収係数	有効態 mg/100g P ₂ O ₅	30℃:NH ₄ -N 発生量 mg/100g 乾 土	遊離酸 化 鉄 %
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O					
1	4.9	3.9	1 0.5	2 3.9	5.6	3.6	0.6 2	4 1	1.2 6 0	1 5.5	6.7 2	1.0 7
2	4.9	3.9	1 4.4	2 3.0	6.2	3.6	0.3 4	4 4	1.2 8 0	6.5	0.8 4	1.1 5
3	4.8	3.9	9.8	1 4.9	6.0	0.6	0.2 4	4 6	1.7 6 0	2.5		2.1 0

A-2 他の土壌統との関係

本土壌に隣接あるいは類似する統として西学統、東学田統とがある。西学田統は下層が黄褐を呈してグライ層がなく、東学田統は埋没腐植層が存在することによりそれぞれ区分される。

A-3 母材 非固結火成岩（凝灰岩質）

A-4 堆積様式 水積（河成堆積）

B 地形 平坦低地

C 気候 年平均気温 6.5℃ 年降水量 845mm

D 植生および利用状況 全域水田

E 農業上の留意事項

東学田統も含めて排水系統を完備し、さらに暗渠の施行を要する。また塩基の補給、堆肥の施用を図ること。

F 分布 北海道富良野市、中富良野町の富良野川流域

調査および記載責任者 後藤計二、水元秀彰（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和49年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
寿 一 寿	llt1rfn

② 土壌区別説明

寿 一 寿

示性分級式(水田)

土	表	有	表	耕	(表	(表	(表	湛	(作	酸	(易	(遊	(グ	土	(透	(保	自	(保	(固	(養	(置	(有	(有	(微	障	(有	(物	災	(増	(地
壤	効	効	土	土	土	土	土	水	土	土	分	離	ラ	地	透	湿	然	固	層	換	効	効	酸	害	害	害	冠	す		
生	土	土	の	の	の	の	透	下	下	化	性	酸	イ	の	水	水	肥	定	の	石	苦	加	望	珪	害	物	理	水	の	
産	の	の	の	の	の	の	水	50	50	有	機	化	乾	乾	潤	沃	力	塩	基	灰	土	里	酸	素	酸	質	的	の	危	
力	厚	厚	含	粘	粘	硬	土	最	高	元	物	含	化	湿	性	性	力	力	状	豊	含	酸	素	要	の	障	害	險	度	
可	深	深	易	性	性	性	性	密	度	性	量	量	度	性	度	度	力	力	否	量	量	量	量	性	性	性	性	性	性	
能	さ	さ	量	易	性	性	性	度	性	性	量	量	度	性	度	度	力	力	否	量	量	量	量	性	性	性	性	性	性	
性	さ	さ	量	易	性	性	性	度	性	性	量	量	度	性	度	度	力	力	否	量	量	量	量	性	性	性	性	性	性	
等	さ	さ	量	易	性	性	性	度	性	性	量	量	度	性	度	度	力	力	否	量	量	量	量	性	性	性	性	性	性	
級	さ	さ	量	易	性	性	性	度	性	性	量	量	度	性	度	度	力	力	否	量	量	量	量	性	性	性	性	性	性	
	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	
	t	d	g	p			l		r			w		f		n								i		a				
簡	略	分	級	式			Ⅱ	t	l	r	f	n																		

A 土壤区の特徴

この土壤区は寿統に属する。表土の厚さは9~12でやゝ薄いが有効土層は1m以上で深い。表土の土性は細粒質であるが粘性中庸で耕起、砕土は容易である。湛水透水性は中庸であるが地下水位は高く下層グライ層が40~50cmで出現する。保肥力大、固定力中、土層の塩基状態は不良で自然肥沃度は中位である。作土の養分は中位である。特殊な障害性、災害性はない。

B 植生および利用状況 全域水田

C 地力保全上の問題点

明渠、暗渠の完備を要する。また石灰に乏して強酸性を呈し、珪カルの施用を図ること、また堆肥の施用を図ることが必要。

D 分布 北海道富良野市、中富良野町の富良野川流域

記載責任者 後藤計二(北海道立中央農業試験場)

日付 昭和49年3月31日

十 梨 別 東 統

(1) 土壤統の概要

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ18cm内外で腐植4~5%、土性はCLが主である。色は2.5Yが主で彩度3~4、明度4~6。粒状構造で発達程度は弱~中度である。未風化、半風化小、中、大円礫を含む、膜状酸化沈積を含み、ち密度1.0前後で疎。pH(H₂O)5.6前後。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ20cm内外で腐植含量3%前後、土性はLiCが主である。塊状構造で発達程度は弱度のものが多い。細孔あり、色は7.5Yが主で彩度1~2、明度4~6。ち密度2.0前後で中、pH(H₂O)6.0前後、雲状の酸化沈積物あり。下層との境界は漸変である。

第3層は厚さ20~30cmで腐植含量2%以下、土性はLiCが主である。色は5Y~7.5Yで彩度2以下、明度5~6。塊状構造で発達程度は弱度のものが多い。細孔あり、雲状の酸化沈積物に富む。ち密度1.8で疎である。下層との境界は明瞭である。

第4層は地表下おおむね70cm以下で、未風化細小中大円礫からなり、砂を含む礫層である。

代表的断面形態

(所在地)空知郡南富良野町十梨別 No.MF77

第1層	0~18cm	腐植を含む黄褐(2.5Y5/3)のSCL、未風化小中円礫を含む、発達中度の粒状構造、膜状の酸化沈積物含む、ち密度1.0で疎、pH(H ₂ O)5.6、調査時の湿り湿、境界平坦明瞭(Ta-a火山灰を混入)。
第2層	18~41cm	腐植を含む灰色(7.5Y5/1)のLiC、発達弱度の塊状構造、細孔あり、雲状の酸化沈積物あり、グライを呈し、ち密度2.0で中、pH(H ₂ O)6.0、調査時の湿り湿、境界漸変。
第3層	41~70cm	腐植を欠く灰褐(5Y6/2)のC、発達弱度の塊状構造、細孔を含み、雲状の酸化沈積物あり、ち密度1.8で疎、調査時の湿り湿、境界明瞭。
第4層	70cm以上	未風化小、中、大円礫からなる礫層。

代表的断面の分析成績

No.77

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含 量 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~18	3.1		50.1	19.2	12.8	17.9	SCL	2.82	0.22	13	4.9
2	18~41	4.8		13.1	30.4	27.2	29.3	LiC	2.33	0.22	11	4.0

層位	pH		置換酸 度 Y _i	塩基置換 容 量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g			塩 基 飽和度 %	磷酸吸 収係数	有効態 mg/100g P ₂ O ₅	30°C: NH ₄ -N 発生量 mg/100g 乾 土	遊離酸 化 鉄 %
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O					
1	5.6	4.5	2.5	14.3	5.5	2.2	0.2	55	1.073	7.2	9.0	0.74
2	6.0	4.7	2.3	21.1	9.8	5.8	0.4	76	1.302	tr	17.8	0.97

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としては、下金山東統、松井統がある。下金山東統は礫層、グライ層をもたないし、

松井統は畑で礫層が存在しないので本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩（砂岩風化物が主体）

A-4 堆積様式 水積（河成堆積）

B 地形 河川流域の平坦地。

C 気候

冬期積雪多く、夏季冷涼。農期間平均気温 13.3～14.5℃、年平均気温 5.5～6.5℃、年間降水量 845～1179mm、無霜期間 132～142日。

D 植生および利用状況

大部分耕地に利用され、水稲が栽培されている。

E 農業上の留意事項

有機物の施用、燐酸の増施用が必要である。

F 分布

北海道空知郡南富良野町十梨別の一部。

調査および記載責任者 高尾欽弥（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和49年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
十 梨 別 東	llprfn

② 土壌区別説明

十 梨 別 東 統 一 十 梨 別 東 区

示性分級式（水田）

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表 土 の 厚 さ	有 効 土 層 の 深 さ	表 土 の 粘 着 性	耕 起 土 の 易 し さ	(表土の風乾土の硬さ)	(表土の透水性)	(作土下50cmの最高密度)	(酸化還元性)	(易分解性有機物含量)	(遊離酸化鉄含量)	土 地 乾 湿	(透水性)	(保水性)	自 然 沃 土	(保肥力)	(固定力)	養 分 の 状 態	(置換性)	(苦土里)	(有効態)	(望素)	(珪素)	障 害 の 有 無	(物理的障害性)	災 害 の 危 険 度	(増冠水の危険度)	(地すべりの危険度)							
(縮)	t	d	g	p		l		r			w			f			n						i		a									
Ⅱ	I	I	I	Ⅱ	2	2	2	Ⅱ	1	3	2	—	—	—	—	Ⅱ	2	2	1	Ⅱ	2	1	2	2	3	—	—	2	I	1	1	I	1	1
簡略分級式		Ⅱ prfn																																

A 土壤区の特徴

この土壤区は十梨別東統に属する。表土の厚さは15cm以上、有効土層は50cm以上でいずれも深い。表土の土性は細粒質で粘着性中庸、耕起砕土はやや困難である。湛水透水性は小さく、還元化は進むが根系障害のおそれは少ない。

保肥力、固定力ともに中で、土層の塩基状態良好で自然肥沃度は中位である。作土、心土とも有効態磷酸が少く、有効態窒素も少ない。特殊の障害性はなく増冠水の危険も少ない。

ほ場整備を実施したところは切土部分で特に有効態磷酸、有機物に不足している。

B 植生および利用状況

大部分耕地に利用され、水稻が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

堆厩肥等有機物の施用、磷酸の増施が必要であり、ほ場整備田の切土部分には重点的に堆厩肥、磷酸施用をはかる必要がある。

D 分布

北海道空知郡南富良野町十梨別の一部。

記載責任者 高尾欽弥（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和49年3月31日

扇 山 統

(1) 土壤統の概要

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ35～45cmで腐植含量6～10%、土性はSCL～SLである。半風化小半角礫（熔結凝灰岩）を含む～富む。色は10YRで彩度1～2、明度1～3。発達中～弱度の粒状構造。ち密度10～20で疎～中。pH(H₂O) 5.9前後。酸化沈積物含む。下層との境界判然。

第2層は厚さ30～40cmで腐植含量2～4%、土性はSLが多い。半風化小半角礫（熔結凝灰岩）を含む～富む。色は10YRで彩度2～3、明度3～5。発達弱度の粒状構造。ち密度17～20で中。pH(H₂O) 6.0前後。酸化沈積物を含む。下層との境界判然。

第3層は厚さ30cm内外で腐植6～10%、土性はL～SL。色は10YRで彩度1～2、明度2～3。半風化小半角礫（熔結凝灰岩）に富む～頗る富む。ち密度中。酸化沈積物を含む。pH(H₂O) 6.0前後。湧水する場合が多い。

代表的断面形態

水田

(所在地)富良野市南扇山 試坑231

第1層	0～15cm	腐植に富む黒(10YR 1.7/1)のSCL。半風化小半角礫を含む。発達弱度の粒状構造で小孔富む。ち密度17で疎。粘性弱。グライ斑含む。pH(H ₂ O) 5.9。調査時の湿り湿。層界漸変。
第2層	15～37cm	腐植に富む黒(10YR 1.7/1)のSL。半風化小半角礫に富む。発達中度の粒状構造で小孔を含む。ち密度20で中。粘性弱。酸化沈積物を含む。pH(H ₂ O) 6.0。調査時の湿り湿。層界判然。
第3層	37～70cm	腐植を含む黄褐(10YR 3/2)のSL。半風化小半角礫に富む。発達弱度の粒状構造で小孔富む。ち密度20で中。粘性弱。酸化沈積物を含む。pH(H ₂ O) 6.1。調査時の湿り半乾。層界判然。
第4層	70cm以下	腐植に富む黒(10YR 2/1)のSL。半風化小半角礫層。湧水しグライ層。

代表的断面の分析成績

No.231

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含 量重 量%	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0～15	4.6	—	39.0	31.0	14.0	16.0	SCL	4.09	0.30	13.6	7.1
2	15～37	4.5	35	47.9	27.0	13.2	11.9	SL	3.84	0.28	13.7	6.6
3	37～70	3.7	35	44.1	31.4	13.0	11.5	SL	2.24	0.08	28.0	3.9

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			塩基飽和度 %	燐酸吸収係数	有効態 mg/100g P ₂ O ₅	30℃: NH ₄ -N 発生量 mg/100g 乾土	遊離酸化鉄 %
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O					
1	5.9	4.8	1.1	20.6	10.3	1.81	0.37	60.6	960	25.5	5.6	0.72
2	6.0	4.9	1.3	15.8	7.7	1.56	0.48	61.6	860	23.4	2.5	0.60
3	6.1	4.9	0.9	11.9	5.4	1.07	1.06	63.3	1020	12.5	—	0.64

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似あるいは隣接する統として烏沼統、東富良野統がある。烏沼統は堆積様式は同一であるがグライ層がなく、東富良野統は礫がなく土性細かいことにより本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩（熔結凝灰岩）

A-4 堆積様式 崩積（扇状土）

B 地形 ほぼ平坦な低地

C 気候 年平均気温 6.5℃。年降水量 845mm

D 植生および利用状況 全域水田であるが転換もあり主に小豆が栽培されている。

E 農業上の留意事項

本統は土層自体は小礫を混在し孔隙も多く透水性はやや大きいが台地からの滲透水の影響をうけることがある。滲透水をしや断し湿性を防止する必要がある。堆肥等有機物の施用を要する。

F 分布 北海道富良野市南扇山、扇山。

調査および記載責任者 後藤計二（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和49年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
扇 山 - 扇 山	Ⓔ II1 Ⓔ IIw

② 土壌区別説明

扇 山 - 扇 山

示性分級式（水田）

土	表	有	表	耕	(表	(表	(表	湛	(作	酸	(易	(遊	土	(透	(保	自	(保	(養	(置	(有	(有	(微	(障	(有	(災	(増	(地												
壤	効	効	土	土	表	表	表	水	土	土	分	離	地	水	水	然	固	土	換	効	効	酸	害	物	増	地													
生	土	土	の	の	土	土	土	透	下	化	解	離	の	水	水	肥	定	層	の	石	苦	加	燐	窒	珪	害	冠												
産	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の												
力	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚												
可	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深											
能	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量											
性	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易											
等	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ										
級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級										
	t	d	g	p				l		r		w		f		n							i		a														
	I	I	I	I	2	1	1	I	3	2	I	1	3	2	II	1	1	3	I	2	2	1	I	1	1	1	3	—	—	1	I	1	1	I	1	1			
簡略分級式		(田) II 1		(畑) II w																																			

A 土壤区の特徴

この土壤区は扇山統に属する。表土は40cm前後で厚く、有効土層も1m以上で深い。表土の土性は細粒質で粘性弱く礫も混在するが半風化礫であり、耕起、砕土は容易である。水田の湛水透水性は中庸、還元による根系障害はない。保肥力中、固定力中で土層塩状態は良く自然肥沃度は高い。作土の養分状態も良い。特殊な障害性はない。また災害性のおそれもない。

B 植生および利用状況 全域水田であるが転換も多く主に小豆が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

本統は土層自体は透水性がやゝ大きい、台地よりの滲透水が多く湿性である。滲透水をしや断する排水が必要である。堆肥の施用を要する。

D 分布 北海道富良野市扇山

記載責任者 後藤計二（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和49年3月31日

富 良 野 統

(1) 土壤統の概要

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15～20cmで腐植含量2～3%、土性はCL～Lである。色は10YR～5Yで彩度1～2、明度3～4である。発達弱度の粒状構造で小孔に富む。ち密度1.4で疎。pH(H₂O) 5.5～6.5。下層との境界平坦判然。

第2層は厚さ10～30cmで腐植含量2%以下、土性はCL～Lである。色は10YR～5Yで彩度1～2、明度4～5である。発達弱度の粒状あるいは均質連結状である。小孔あり。ち密度1.8～2.2で中。pH(H₂O) 6.0前後。下層境界平坦明瞭。

第3層は厚さ60cm以上で腐植含量2%以下、土性はSLとS(細砂)との偽層をなす。地表より70～80cmで砂礫層となる場合もある。色は10YRで彩度3、明度4～5である。発達弱度の粒状あるいは単粒状を呈す。小孔に富む。ち密度1.5で疎。pH(H₂O) 6.3～6.5前後。

代表的断面形態

水田(転換:野菜)

(所在地)富良野市山部 (試坑67)

第1層	0～13cm	腐植を含む灰(2.5Y3/2)のCL。発達弱度の粒状構造。小孔に富む。ち密度1.4で疎。粘性や>強。pH(H ₂ O) 5.5。調査時の湿り半乾。層界判然。
第2層	13～22cm	腐植をかく灰(2.5Y4/1)のCL。均質連結状で小孔あり。ち密度2.2で中。粘性や>強。pH(H ₂ O) 6.0。調査時の湿り半乾。層界平坦明瞭。
第3層	22cm以下	腐植をかく黄褐(10YR5/3)でSLとS(細砂)とが偽層となる。発達弱度の粒状構造および単粒状をなす。小孔に富む。ち密度1.5で疎。粘性弱。pH(H ₂ O) 6.3。調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

No.67

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0～13	2.8	—	26.5	36.0	20.6	16.9	CL	1.36	0.13	10.5	2.4
2	13～22	3.1	—	22.3	36.5	24.0	17.1	CL	1.09	0.11	9.9	1.9
3	22～	3.1	—	27.8	45.7	18.1	8.5	SL	0.56	0.04	14.0	1.0

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容 量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g			塩 基 飽和度 %	磷酸吸 収係数	有効態 mg/100g	30°C: NH ₄ -N 発生量 mg/100g	遊離酸 化 鉄 %
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O					
1	5.5	4.6	0.6	18.5	9.3	6.58	0.77	90.0	640	42.0	3.5	1.10
2	6.0	5.2	0.4	18.7	11.4	6.83	0.71	101.2	720	29.6	2.2	0.93
3	6.3	5.3	0.3	15.4	9.6	7.90	0.40	116.2	760	2.7		0.86

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接あるいは類似する統として西扇山統、東富良野統などがある。西扇山統は表土が腐植含量多く黒褐色を呈すること、東富良野統は湿性を呈し酸化沈積物があることにより区別される。

A-3 母材 非固結水成岩（変成岩の混入多し）

A-4 堆積様式 水積（河成堆積）

B 地形 平坦低地（微波状を呈す）

C 気候 年平均気温6.5℃、年降水量845mm

D 植生および利用状況

主に水田となっているが、永久転作、一時転作がかなり多い。永久転作は“たまねぎ”食用ゆり、一時転作も同様の作物および豆類が多い。

E 農業上の留意事項

本土壌は物理性は良く塩基も多く特に苦土含量が多いの特徴である。水田では漏水もなく生産性は高い。永久転作畑は食用ゆりにおいて亜鉛欠乏による生育障害が見られ、葉面散布、亜鉛入肥料施用による回避が明らかになっており、これらの対策が漸次進められている。腐植含量少なく堆肥の施用につとめるべきである。

F 分布 北海道富良野市の山部より富良野市街に亘る空知川流域

調査および記載責任者 後藤計二（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和49年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
富 良 野 一 富 良 野	田 p1 畑 p

② 土壌区別説明

富 良 野 一 富 良 野

示性分級式（水田）

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表 土 の 厚 さ	有 効 土 層 の 深 さ	表 土 の 粘 土 含 量	耕 土 の 難 易	(表土の風乾土の硬さ)	(表土の透水性)	(作土下50cmの最高密度)	(酸化還元性)	(易分解性有機物含量)	(遊離酸化鉄含量)	(グラー地の乾燥度)	(透水性)	(保水性)	自 然 沃 沃	(保肥力)	(固定力)	(養分塩基状態)	(置換性)	(苦土里素)	(加酸)	(望素)	(珪酸)	(微量元素)	(微酸)	(酸害)	(物理的障害)	(災害性)	(増冠すべりの危険度)	(地すべりの危険度)		
(稲)	t	d	g	p		l		r			w			f			n								i		a				
II	I	I	I	II	2	2	2	II	3	2	I	1	2	1	I	2	2	1	I	1	1	1	3	1	-	1	I	1	I	1	1
簡略分級式		(稲) II p1		(畑) II p																											

A 土壤区の特徴

この土壤区は富良野統に属する。表土は20～40cmで厚く、有効土層は70cmから1m以上で深い。表土は耕起、砕土はやゝ容易である。保肥力中、固定力小、土層の塩基状態は良く自然肥沃度は高い。作土の養分状態は豊富である。畑地ではニッケル含量多く、亜鉛に乏しい。災害性は少ない。

B 植生および利用状況

主に水田となつているが、永久転作あるいは一時転作地も多い。転作地は食用ゆり、たまねぎが多い。

C 地力保全上の問題点

土壤の物理性は良く塩基も多く特に苦土含量が多い。水田では漏水も少なく落水後の田面の乾きも良く生産性は高い。畑で食用ゆりにおいては亜鉛欠乏による生育障害が見られ、亜鉛の葉面撒布および施用による改良が漸次進められている。堆肥の施用を図るべきである。

D 分布 北海道富良野市、山部より富良野市街に亘る空知川流域。

記載責任者 後藤計二（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和49年3月31日

下 金 山 東 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm内外で腐植含量6%前後、土性はCLが主である。色は10YRが主で彩度2、明度2のものが多い。粒状構造で発達程度は弱度のものが多い。地表に大、巨礫の存在するところが多

く、ち密度 1.5 前後で疎、pH(H₂O) 5.6 前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第 2 層は厚さ 1.5 cm 内外で腐植含量 6% 前後、土性は CL が主である。色は 10 YR が主で彩度 1、明度 2 のものが多く、均質連結状、孔げき殆んどなく、ち密度 2.4 前後で中である。pH(H₂O) 5.9 前後、下層との境界はやや明瞭である。

第 3 層は厚さ 2.0 ~ 2.5 cm で腐植含量 2 ~ 3%、土性は CL が主である。色は 10 YR ~ 2.5 Y で彩度 2 ~ 3、明度 5 前後。均質連結状で細孔を含む、ち密度 2.0 前後で中、pH(H₂O) 5.5 前後、下層との境界はやや明瞭である。

第 4 層は地表下おおむね 5.0 cm 以下で腐植含量 2% 以下、土性は CL が主である。色は 10 YR が主で彩度 1 ~ 2、明度 5 前後。細塊状構造で発達程度は弱度のものが多く、細孔を含む。ち密度 1.7 前後で疎である。

代 表 的 断 面 形 態

水田

(所在地) 空知郡南富良野町下金山 No. MF 60

第 1 層	0~15cm	腐植に富む黒色(10 YR 2/2)の SCL、地表に大、巨円礫あり、発達弱度の粒状構造、ち密度 1.6 で疎、pH(H ₂ O) 5.6、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第 2 層	15~32cm	腐植に富む黒色(10 YR 2/1)の SCL、均質連結状、細孔あり、ち密度 2.4 で中、pH(H ₂ O) 5.9、調査時の湿り湿、境界やや明瞭。
第 3 層	32~50cm	腐植を含む灰色(2.5 Y 5/2)の CL、均質連結状、細孔を含む、ち密度 2.2 で中、pH(H ₂ O) 5.5、調査時の湿り湿、境界やや明瞭。
第 4 層	65cm 以下	腐植を含む灰褐(10 YR 5/1)の CL、発達弱度の細塊状構造、細孔を含む、雲状の酸化沈積物あり、ち密度 1.7 で疎、調査時の湿り湿。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

No. 60

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含 量 %	粒 径 組 成 %				土 性	現地容 積重%	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~15	1.0		42.8	18.9	16.7	21.6	SCL	105.2	2.57	3.88	0.32	12	6.7
2	15~32	4.4		45.6	18.1	19.9	16.4	SCL	126.5	2.62	3.89	0.31	12	6.7
3	32~50	4.5		10.5	40.1	27.4	22.0	CL	138.3	2.66	1.64	0.13	13	2.8

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容 量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g			塩 基 飽 和 度 %	磷酸吸 収係数	有効態 mg/100g P ₂ O ₅	30°C: NH ₄ -N 発生量 mg/100g 乾 土	遊離酸 化 鉄 %
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O					
1	5.6	4.8	0.9	23.4	12.5	2.7	0.5	67	1.375	16.7	3.7	0.83
2	5.9	4.7	1.5	21.8	13.6	3.0	0.4	78	1.276	22.5	5.1	0.77
3	5.5	4.1	20.9	22.1	6.7	2.1	0.2	41	1.319	4.2	—	1.08

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としては山畔南統、シイソラブチ統その他があるが、いずれも畑土壌なので区別される。

A-3 母材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 水積（河成堆積）

B 地形 河川流域の平坦地。

C 気候

冬期積雪多く、夏季冷涼、農期間平均気温 13.3～14.5℃、年平均気温 5.5～6.5℃、年降水量 845～1179mm 無霜期間 132～142日

D 植生および利用状況

大部分水田に利用され、水稻が栽培されている。

E 農業上の留意事項

燐酸の増施、珪カルの施用。

F 分布 北海道空知郡南富良野下金山の一部。

調査および記載責任者 高尾欽弥（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和49年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
下 金 山 東	llp1n

② 土壌区別説明

下金山東統 一下金山東区

示性分級式(水田)

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の粘着性	耕土の粘性	(表土の風乾土の硬さ)	湛水透過水性	(作土下50cmの最高密度)	(酸化還元性)	(易分解性有機物含量)	(遊離酸化鉄含量)	(グランドイオン化度)	土壌の乾燥性	(透水性)	(保水性)	(自然肥力)	(固定力)	(養分塩基状態)	(置換性)	(苦土里)	(加酸)	(望素)	(珪酸)	(微酸量)	(酸害)	(障害物質の有無)	(物理的障害)	(災害)	(増冠すべりの危険度)							
(稲)	t	d	g	p		l		r			w				f		n								i		a								
II	I	I	I	II	2	2	II	2	2	I	1	3	1	—	—	—	I	1	2	1	II	1	1	1	1	3	—	—	1	I	1	1	I	1	1
簡略分級式		II pln																																	

A 土壌区の特徴

この土壌区は下金山東統に属する。表土の厚さは2.5 cm以上、有効土層は5.0 cm以上でともに深い。表土の上性は細粒質で粘着性中庸で耕起碎土はやや困難である。湛水透水性中庸で還元化はあまり進まず根系障害のおそれは少ない。

保肥力大、固定力中、土層の塩基状態良好で自然肥沃度は高い。作土は有効態窒素含量がごく少い。他の養分は比較的ある。特殊の障害性はなく、侵蝕のおそれもない。

B 植生および利用状況

大部分水田に利用され、水稻が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

有効態窒素含量が低いから堆肥、稲わら等有機物の施用をはかり、地力の維持に努める必要がある。磷酸の増肥、珪カルの施用が望ましい。

D 分布 北海道空知郡南富良野町下金山の一部。

記載責任者 高尾欽弥 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和49年3月31日

十 梨 別 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ1.5 cm内外で腐植含量5%以下、土性はCLが主である。未風化小、中円礫を含む場合

が多い。色は 2.5 Y で彩度 3~4、明度 3~5。細粒状構造で発達程度は弱度のものが多い。ち密度 10~15 で中である。pH(H₂O) 5.5 前後、下層との境界は直線明瞭である。

第 2 層は厚さ 20 cm 内外で腐植含量 2% 以下、土性は LiC が主である。半風化、未風化小、中、大円礫を含む、色は 2.5~5 Y で彩度 3~4、明度 4~6。均質連結状である。ち密度 20 前後で中、pH(H₂O) 5.5 前後、下層との境界は判然である。

第 3 層は厚さ 20 cm 内外で腐植含量 2% 以下、土性は CL が主である。色は 10 YR が主で彩度 3~4、明度 4~6。塊状構造で発達程度は弱度のものが多い。細孔を含む。ち密度 20 前後で中、pH(H₂O) 5.5 前後、下層との境界は判然である。

第 4 層は地表下 50~60 cm 以下で、未風化小、中、大円礫かなる礫層の場合が多い。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 北海道空知郡南富良野町金山 試坑 No. 76 (区画拡大工事中)

第 1 層	0~15cm	腐植を含む黄褐(2.5 Y 4/3)の SCL、発達弱度の粒状構造、未風化小、中円礫を含む、ち密度 15 で中、pH(H ₂ O) 5.5、調査時の湿り半乾、境界判然。
第 2 層	15~35cm	腐植を欠く黄褐(2.5 Y 5/3)の LiC、均質連結状、未風化小、中円礫を含む、ち密度 22 で中、pH(H ₂ O) 5.5、調査時の湿り湿、境界判然。
第 3 層	35~60cm	腐植を欠く黄褐(10 YR 5/4)の SCL、発達弱度の塊状構造、細孔を含む、ち密度 18 で中、pH(H ₂ O) 5.6、調査時の湿り湿、境界判然。
第 4 層	60cm 以下	未風化小、中、大円礫からなる礫層。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

No. 76

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 %	粒 径 組 成 %				土 性	現地容 積重%	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~15	3.4		47.0	19.7	14.3	19.0	SCL	62.6	2.60	23.0	0.19	12	3.9
2	15~35	4.2		15.5	32.2	21.6	30.7	LiC	63.0	2.55	1.82	0.15	12	—
3	35~60	3.1		33.2	36.2	12.0	18.6	SCL	69.2	2.75	—	—	—	—

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容 量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g			塩 基 飽 和 度 %	磷酸吸 収係数	有効態 mg/100g P ₂ O ₅	30°C: NH ₄ -N 発生量 mg/100g 乾 土	遊離酸 化 鉄 %
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O					
1	5.5	4.4	4.4	13.4	5.2	3.7	0.2	68	1,159	12.4	6.8	0.70
2	5.5	4.3	7.9	17.0	6.5	3.4	0.3	60	1,379	4.2	3.2	0.92
3	5.6	4.2	6.9	19.5	9.4	5.7	0.2	78	1,190	2.6	—	0.88

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては、十梨別東統、内藤統、幾寅西統があるが、十梨別西統はグレイ層を有し、内藤統は扇状堆土であり、幾寅西統は母材、堆積様式とも類似であるが知のためそれぞれ本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 水積（河成堆積）

B 地形

空知川及びその支流域の平地、標高200～300m。

C 気候

冬期積雪寒冷で、夏季冷涼。年平均気温5.5～6.5℃、農期間平均気温（4～10月）13.3～14.5℃、年降水量845～1179mm、無霜期132～142日。

D 植生及び利用状況

大部分水田で、水稻が栽培されている。

E 農業上の留意事項

稲わらや堆肥の施用による地力増強が必要である。

F 分布 北海道空知郡南富良野町金山の一部。

調査及び記載責任者 高尾欽弥（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和51年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
十 梨 別 一 十 梨 別	ll t p l f n

② 土壌区別説明

十 梨 別 統 一 十 梨 別 区

示性分級式(水田)

土	表	有	表	耕	(表	(表	(表	湛	(作	(酸	(易	(遊	土	(透	(保	自	(保	(固	(養	(置	(有	(有	(微	(酸	障	(有	(災	(増	(地
壤	土	効	土	土	土	土	土	水	土	土	分	離	地	地	潤	然	肥	肥	層	換	効	効	量	害	害	冠	す		
生	土	土	の	の	の	の	透	50	50	化	性	酸	イ	水	水	沃	定	塩	石	苦	加	磷	窒	珪	害	物	理	水	
産	の	層	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
力	厚	深	量	易	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
可	さ	さ	量	量	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
能	さ	さ	量	量	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
性	さ	さ	量	量	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
等	さ	さ	量	量	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
級	さ	さ	量	量	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
	t	d	g	p				l		r			w		f			n						i		a			
II	II	I	I	II	2	2	2	II	2	2	I	1	3	1	-	-	-	II	2	2	1	II	2	1	2	1	3	-	-
簡略分級式		II t p l f n																											

A 土壤区の特徴

この土壤区は十梨別統に属する。表土の厚さは15 cm内外で中庸、有効土層は50 cm以上で深い。表土の土性は細粒質で粘着性中庸、耕起碎土がやや困難である。湛水透水性中庸で、還元化が弱く水稻の根系障害が殆んどない。

保肥力中、磷酸固定力中庸、土層の塩基状態良好で自然肥沃度は中位である。作土は置換性石灰、加里がやや少なく、有効態窒素が少なく、やや酸性を呈する。特殊の障害性及び災害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分水田に利用され、水稻が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

腐植に乏しいので、稲わらや堆肥施用による地力増強を図る必要がある。

D 分布 北海道空知郡南富良野町金山の一部。

記載責任者 高尾欽弥 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和51年3月31日

西 学 田 統

(1) 土壤統の概要

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15~20 cmで腐植含量3~5%、土性はL~CLである。色は10 Y Rで彩度1~2、明度3~4である。発達弱度の粒状構造。ち密度1.5~1.9で疎~中。pH(H₂O) 5.4前後。酸化沈積

物含む。下層との境界平坦明瞭。

第2層は厚さ10～20cmで腐植含量10%前後、土性はL～CLである。色は10YRで彩度1～2、明度2である。発達弱～中度の粒状構造である。ち密度1.7～2.0で疎～中。pH(H₂O) 5.7前後。酸化沈積物含む～含む。下層との境界平坦明瞭。

第3層は厚さ50～70cm以上で腐植含量1～3%、土性はSLである。色は10YRで彩度2～4、明度6～8。均質連結状であるが小孔に含む。ち密度1.0～1.9で疎～中。pH(H₂O) 5.2前後。酸化沈積物あり～含む。

代 表 的 断 面 形 態

水田

(所在地) 富良野市西学田 試坑125

第1層	0～16cm	腐植を含む灰黄(10YR4/1)のCL。発達弱度の粒状構造で小孔含む。ち密度1.8で中。粘性中。pH(H ₂ O) 5.4。酸化沈積物含む。調査時の湿り半乾。層界平坦明瞭。
第2層	16～35cm	腐植に頗る含む黒(10YR2/1)のL。発達中度の粒状構造で小孔に含む。ち密度2.0で中。粘性弱。pH(H ₂ O) 5.7。酸化沈積物あり。調査時の湿り半乾。層界平坦明瞭。
第3層	35～70cm	腐植を含む黄褐(10YR7/4)のSL。均質連結状であるが小孔に含む。ち密度1.9で中。粘性弱。pH(H ₂ O) 5.2。酸化沈積物あり。調査時の湿り半乾。層界判然。
第4層	70cm以上	腐植を欠く黄褐(10YR7/3)のSL。均質連結状で小孔に含む。ち密度1.5で疎。粘性弱。酸化沈積物含む。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

No.125

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0～16	6.0	—	10.4	36.1	24.5	29.0	CL	2.76	0.21	13.1	4.8
2	16～35	11.7	—	5.7	49.8	30.1	14.4	L	5.85	0.34	17.2	10.1
3	35～70	5.7	—	34.7	47.7	10.3	7.3	SL	1.32	0.10	13.2	2.3

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容 量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g			塩 基 飽和度 %	磷酸吸 収係数	有効態 mg/100g P ₂ O ₅	30°C: NH ₄ -N 発生量 mg/100g 乾 土	遊離酸 化 鉄 %
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O					
1	5.4	4.3	4.9	16.8	4.6	1.07	0.24	35.2	880	8.2	4.9	1.48
2	5.7	4.6	2.1	17.7	5.5	1.40	0.26	40.5	1840	3.5	0.7	1.70
3	5.2	4.7	1.6	9.1	0.9	0.29	0.19	15.2	1040	4.3		0.61

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統として東学田統、中富良野統などがある。東学田統、中富良野統とも下層にグライ層が存在していることにより区分される。

A-3 母材 非固結火成岩（凝灰岩質）

A-4 堆積様式 水積（河成堆積）

B 地形 平坦低地

C 気候 年平均気温 6.5℃。年降水量 845 mm

D 植生および利用状況

全域水田に利用されている。

E 農業上の留意事項

作土の養肥分が何れもやゝ乏しい。塩基の補給、堆肥の施用を図つて地力の維持を図る必要がある。

F 分布 北海道富良野市西学田

調査および記載責任者 後藤計二（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和49年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
西学田 - 西学田	II1fn

② 土壌区説明

西学田 - 西学田

示性分級式（水田）

土	表	有	表	耕	(表	(表	湛	(作	酸	(易	(遊	(グ	土	(透	(保	自	(保	(養	(置	(有	(有	障	(有	(災	(増
壤	効	効	土	土	土	土	水	土	分	離	ラ	地	透	湿	然	固	土	置	効	効	酸	害	災	地	
生	土	土	の	の	の	の	透	下	解	化	イ	の	水	潤	肥	定	の	石	苦	加	望	珪	害	冠	
産	層	層	の	の	の	の	50	50	性	有	鐵	乾	水	肥	肥	塩	灰	土	里	酸	素	酸	物	す	
力	の	の	の	の	の	の	cm	cm	機	物	化	性	性	性	力	力	基	含	土	土	要	質	べ		
可	厚	厚	の	の	の	の	の	の	物	含	度	性	性	性	力	力	状	量	土	土	素	の	り		
能	さ	さ	含	含	含	含	密	密	量	量	度	度	度	度	度	態	否	量	量	量	素	障	の		
性	易	易	性	性	性	性	度	度	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	害	危		
等	量	量	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	
級	さ	さ	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	
(稻)	t	d	g	p			l		r		w		f		n						i	a			
II	I	I	I	I	2	2	1	II	3	2	I	1	2	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
簡略分級式		II lfn																							

A 土壤区の特徴

この土壤区は西学田統に属する。表土の厚さは15cm内外で厚く有効土層も1m以上で深い。表土の土性は細粒質であるが耕起、砕土は容易である。保肥力中、土層の塩基状態中で自然肥沃度は中位。作土の養分はやゝ乏しい。特殊な障害性はない。また災害性のおそれも少ない。

B 植生および利用状況

全域水田になっている。

C 地力保全上の問題点

作土の養分が何れも乏しく、珪カル、熔磷による苦土の補給と堆肥の施用を図つて地力の増進を図る必要がある。

D 分布 北海道富良野市西学田

記載責任者 後藤計二（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和49年3月31日

鳥 沼 統

(1) 土壤統の概要

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm前後で腐植含量2~5%、土性はSCLである。色は7.5YRで彩度1~4、明度3~4である。礫（熔結凝灰岩）を含む場合が多い。発達弱度の粒状構造。ち密度10前後で疎。pH(H₂O) 6.1前後。下層との境界判然。

第2層は厚さ20～40cmで腐植含量2%以下、土性はSL～Lである。色は10YR～7.5YRで彩度4～6、明度5～6である。礫（熔結凝灰岩礫）を富む～頗る富む場合が多い。ち密度1.9～2.4で一般に密であるが小孔多く透水は良い。

代表的断面形態

水田（転作：大豆）

（所在地）富良野市東烏沼新生、試坑225

第1層	0～20cm	腐植を含む黄褐（7.5YR4/4）のSCL。発達中度の粒状構造で小孔に富む。小半角礫を含む。ち密度1.0で疎。粘性弱。pH(H ₂ O)6.1。調査時の湿り湿。下層境界判然。
第2層	20～40cm	腐植を含む黄褐（7.5YR4/4）のSL。発達中度の粒状構造で小孔含む。ち密度1.5で疎。粘性弱。pH(H ₂ O)5.8。調査時の湿り湿。層界判然。
第3層	40cm以下	腐植を欠く黄褐（7.5YR5/4）のLS。半風化小半角礫（熔結凝灰岩）を含む。均質連結状で小孔含む。ち密度1.9で中。調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

No.225

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0～20	1.7	—	53.7	20.3	10.8	15.2	SCL	1.82	0.12	15.2	3.2
2	20～40	1.8	—	56.7	19.9	8.7	14.7	SL	1.50	0.10	15.0	2.6

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容 量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g			塩 基 飽和度 %	磷酸吸 収係数	有効態 mg/100g	30℃:NH ₄ -N 発生量mg/100g	遊離酸 化 鉄 %
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O					
1	6.1	4.9	0.4	9.1	5.6	1.23	0.32	78.6	480	15.4	2.1	0.54
2	5.8	4.7	1.0	8.1	5.0	0.90	0.34	76.9	420	12.8	1.4	0.57

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似あるいは隣接する統として扇山統、北大沼統がある。扇山統は同一堆積様式であるが腐植含量多く湿性を呈し、北大沼統は泥炭が出現するのでそれぞれ区分される。

A-3 母材 非固結火成岩（熔結凝灰岩質）

A-4 堆積様式 崩積（扇状土）

B 地形 低地の3～5度の緩傾斜地

C 気候 年平均気温6.5℃。年降水量845mm

D 植生および利用状況 大部分が水田であるが畑も一部ある。また水田は転作が多く大豆、小豆、てん菜、一部西瓜等が栽培されている。

E 地力保全上の問題点

本土壤統は保肥力や、小さく養肥分は流亡しやすい。極力有機物の補給と塩基の補給に留意すべきである。また水田の場合漏水気味であり、粘土客土等により防止すべきである。

F 分布 北海道富良野市東鳥沼、扇山

調査および記載責任者 木村清、後藤計二（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和49年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
鳥 沼 一 鳥 沼	田 II n 畑 II n

② 土壤区別説明

鳥 沼 一 鳥 沼

示性分級式（水田）

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表 土 の 厚 さ	有 効 土 層 の 深 さ	耕 転 の 難 易 量	(表土の粘性)	(表土の風乾土の硬さ)	湛 水 透 水 性	(作土下50cmの最高密度)	酸 化 還 元 性	(易分解性有機物含量)	(遊離酸化鉄含量)	グ ラ 地 化 乾 湿	(透水性)	(保水性)	自 然 肥 沃 度	(固定力)	(養分層の塩基状態)	(置換性)	(苦土里)	(有効性)	(微酸量)	(酸量)	障 害 性	(物理的障害性)	災 害 性	(増冠水の危険度)	(地すべりの危険度)							
(稻)	t	d	g p		l		r		w		f		n		i		a																
II	I	I	I	2	1	1	II	2	2	I	1	3	1	I	1	2	1	1	II	2	2	2	1	3	-	-	1	I	1	1	I	1	1
簡略分級式		(田) II n		(畑) II n																													

A 土壤区の特徴

この土壤区は鳥沼統に属する。表土は20cm内外で中庸、有効土層は1m以上で深い。表土は細粒質であるが粘性中庸で耕起、砕土は容易である。湛水、透水性は中庸あるいはやや漏水気味である。還元による根系障害はない。保肥力中、固定力小、土層の塩基状態は良く自然肥沃は高い。作土の養分はやや中庸である。特殊な障害性、災害性はない。

B 植生および利用状況 大部分が水田であるが畑も一部ある。また水田の転作も多く大豆、小豆、てん菜、一部西瓜も栽培されている。

C 地力保全上の問題

水田ではやや漏水気味であり、また土壌の保肥力もやや小さく、養肥分の流亡しやすい土壌である。堆肥など有機物の施用、塩基の補給に留意すべきである。粘土客土も効果的である。

D 分布 北海道富良野市烏沼、扇山。

記載責任者 後藤計二（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和49年3月31日

畑

八 幡 統

(1) 土壌統の概要

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層の厚さ15～20cmで腐植含量3～5%、土性SCL～Lである。色は10YRで彩度3～4、明度2～3。発達弱度の粒状構造。ち密度1.3～1.7で疎。pH(H₂O) 5.9前後、下層との境界判然。

第2層は厚さ15～30cmで腐植含量1～3%、土性SLである。色は10YRで彩度4、明度4～6。発達弱度の粒状、塊状構造。ち密度1.8～2.2で中。pH(H₂O) 6.0前後、下層との境界判然～漸変。

第3層は厚さ50cm以上、腐植含量2%以下、土性はSLである。色は10YRで彩度4、明度6～7である。均質連結状。ち密度2.5～2.7で密。熔結凝灰岩の半風化母岩層。

代 表 的 断 面 形 態

畑

(所在地) 富良野市八幡丘 試坑24

第 1 層	0～15cm	腐植を含む黄褐(10YR 3/3)のSCL。発達弱度の粒状構造で小孔に富む。ち密度1.3で疎。粘性弱。pH(H ₂ O) 5.9。調査時の湿り半乾。層界判然。
第 2 層	15～45cm	腐植を含む黄褐(10YR 5/4)のSL。発達弱度の塊状構造で小孔とむ。半風化小半角礫(熔結凝灰岩)を含む。ち密度1.8で中。粘性弱。pH(H ₂ O) 6.0。調査時の湿り半乾。層界漸変。
第 3 層	45cm以下	腐植を欠く黄褐(10YR 7/4)のS。半風化角礫(熔岩凝灰岩母岩)層。ち密度2.7で密。

代表的断面の分析成績

No. 24

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~15	2.1	—	48.3	18.0	14.8	18.9	SCL	2.72	0.18	15.0	4.7
2	15~45	3.1	10	40.4	30.6	15.5	13.4	SL	1.39	0.09	15.4	2.4

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容 量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 収 係 数	有 効 態 磷 酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.9	4.8	0.8	9.1	4.4	0.77	0.69	48.4	710	15.2
2	6.0	4.8	0.6	7.3	3.0	0.33	0.15	41.1	950	0.8

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統に類似あるいは隣接する統として南布礼別統がある。南布礼別統は熔結凝灰岩の母岩は1 m 以下で、土性細かいことにより区別される。

A-3 母材 半固結火成岩(熔結凝灰岩)

A-4 堆積様式 残積

B 地形 標高400~450 mの馬の背状の丘陵性台地

C 気候 年平均気温5.5℃。年降水量1002 mm

D 植生および利用状況

畑で主にばれいしよ、甜菜の他人参、ニンニク、アスパラガスまた酪農経営は牧草となっている。

E 農業上の留意事項

傾斜地で土壌侵蝕が見られ、この地域は特に夏に集中豪雨があり侵蝕に対する防止施設を要する。また腐植含量少なく養肥分も流亡しやすくまたやゝ少ない。堆厩肥、ライ麦等の緑肥作物の鋤込み、塩基特に石灰、苦土の補給に留意を要する。

F 分布 北海道富良野市八幡丘、麓郷

調査および記載責任者 後藤計二(北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和49年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 一 覧	簡 略 分 級 式
八 幡 一 八 幡	lltdfnse

② 土壤区別説明

八 幡 一 八 幡

示性分級式(畑)

土壤生産力可能性等級	(表土の風乾の硬さ)	(表土の粘土着性)	(表土の乾燥)	(水の潤)	(自然肥)	(固定力)	(養分)	(置換性)	(苦加)	(微酸)	(障害)	(物理的障害)	(増冠)	(地すべりの危険)	(傾斜)	(自傾)	(他人傾)	(侵入)	(耐蝕)	(耐風蝕)										
t	d	g	p	w	f	n				i	a	s			e															
II	II	I	I	2	1	1	I	1	2	1	II	2	1	1	-	2	I	1	1	I	1	1	II	2	-	-	II	2	2	1
簡略分級式 II tdfnse																														

A 土壤区の特徴

この土壤区は八幡統に属する。表土の厚さは15～20 cmで中庸、有効土層は1 m以上で深い。表土の土性は細粒質であるが粘性弱く耕起、砕土は容易である。保肥力中、固定力小で自然肥沃度は中庸、作土の養分はやゝ塩基に乏しい。傾斜地で土壤侵蝕に留意する外は特殊な障害性はない。

B 植生および利用状況

畑で主にばれいしよ、甜菜の他人参、ニンニク、アスパラガス、牧草が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

傾斜地で土壤侵蝕に対し特に防止対策が必要である。また腐植含量少なく養肥分も流亡しやすくまた少ない。堆肥、ライ麦等の緑肥作物の鋤込み、塩基の補給に留意を要する。

D 分布 北海道富良野市八幡丘、麓郷。

記載責任者 後藤計二(北海道立中央農業試験場)

日付 昭和49年3月31日

南 布 礼 別 統

(1) 土壤統の概要

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20~25cmで腐植含量3~5%、土性L~LiCである。色は7.5YR~10YRで彩度2~3、明度3~4。発達弱度の粒状、塊状構造。ち密度1.0~1.5で疎。pH(H₂O) 5.4前後。下層との境界判然。

第2層は厚さ10~20cmで腐植含量2~3%、土性はCL~HCである。色は7.5YR~10YRで彩度3~4、明度4~5。発達中度の塊状構造。ち密度1.7~2.0で疎~中。pH(H₂O) 5.2前後。下層境界判然~漸変。

第3層は厚さ60cm以上で腐植含量2%以下、土性はCL~HCである。色は7.5YR~10YRで彩度6~8、明度4~5。発達弱度の塊状構造。ち密度2.0~2.2で密。pH(H₂O) 5.2前後。

代表的断面形態

(畑)

(所在地)富良野市東山 試坑172

第1層	0~15cm	腐植を含む黄褐(10YR 5/4)のLiC。発達中度の粒状構造で小孔に富む。ち密度1.3で疎。粘性中。pH(H ₂ O) 5.4。調査時の湿り半乾。層界平坦明瞭。
第2層	15~60cm	腐植を含む黄褐(7.5YR 5/6)のLiC。発達中度の細塊状構造で小孔に富む。ち密度1.8で中。粘性中。pH(H ₂ O) 5.1。調査時の湿り半乾。
第3層	60~cm	腐植を欠く黄褐(7.5YR 6/6)のSC。発達弱度の塊状構造で小孔を含む。ち密度2.2で中。粘性中。pH(H ₂ O) 5.2。調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

172

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 %	粒径組成%				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~15	2.4	—	34.5	15.6	21.3	28.6	LiC	1.93	0.16	12.1	3.3
2	15~60	5.8	—	12.2	16.1	28.5	43.2	LiC	1.19	0.09	13.2	2.1
3	60~	3.0	—	39.7	22.0	12.8	25.5	SC	0.32	0.02	16.0	0.6

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰 飽和度 %	磷 酸 吸収係数	有効態 磷 酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.1	4.2	3.4	10.7	4.6	3.78	0.45	43.0	420	6.0
2	5.1	4.0	11.3	15.2	5.0	2.80	0.14	32.9	1000	tr
3	5.2	4.1	6.7	6.3	2.1	6.00	0.12	33.3	300	tr

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統に類似あるいは隣接する統として八幡統、富丘統がある。八幡統は上性が粗く下層が母岩となり、富丘統は下層がやゝ湿性を呈し酸化沈積物があることによりそれぞれ区分される。

A-3 母材 非固結火成岩（熔結凝灰岩）

A-4 堆積様式 残積

B 地形 標高250～500mの段丘

C 気候 年平均気温5.5℃。年降水量1,008mm

D 植生および利用状況

畑に利用され、ばれいしよ、甜菜などの外最近になつて玉ねぎの栽培が著るしく多くなつてゐる。またその外カボチャ、シャクヤク人蔘、ユリ、ニンニク、エンドウ、小豆、菜豆等各種作物が栽培されている。

E 農業上の留意事項

腐植含量少なく堆肥あるいは緑肥作物の鋤込み等有機物の施用を図りながら漸次深耕する必要がある。尚深耕に際しては下層が塩基に乏しく、磷酸吸収係数もやゝ大きいことから熔燐の施用などが必要である。

F 分布 北海道富良野市東山、老節布、平沢、布礼別、富丘

調査および記載責任者 木村清、後藤計二（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和49年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
南布礼別一南布礼別	II f II t p n s

② 土壌区別説明

南布礼別一南布礼別

示性分級式(畑)

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表 土 の 厚 さ	有 効 土 層 の 深 さ	表 土 の 粘 土 含 量	耕 起 の 難 易	(表土の風乾土着性)	(表土の粘土の硬さ)	(土地の水乾湿性)	(透水性)	(保湿性)	自然肥沃度	(自保肥力)	(固定力)	(養分塩基状態)	(置換性)	(石灰含量)	(苦土量)	(加酸素)	(磷要素)	(微酸要素)	(障害の有無)	(物理的障害)	(災害の危険性)	(増冠水の危険度)	(地すべりの危険度)	(傾斜)	(自然傾斜)	(人為傾斜)	(侵入)	(侵蝕)	(耐水性)	(耐風蝕性)				
	t	d	g	p		w		f		n									1		a		s												
III	II	I	I	II	3	2	2	I	I	I	III	2	2	3	II	2	1	1	1	-	2	I	1	1	I	1	1	II	2	-	-	I	1	1	1
簡略分級式		III t		II t p n s																															

A 土壤区の特徴

この土壤区は南布礼別統に属する。表土の厚さは2.0～2.5cmで中庸、有効土層は1mで深い。表土の土性は微粒質であるが粘性は中庸で耕起、碎土はさして困難でない。保肥力、固定力ともに中庸であるが土層の塩基状態は不良で自然肥沃度は低い。作土の養分は中庸で特殊な障害性、災害性はない。傾斜2～3度であるが侵蝕はごく一部を除いては殆んどない。

B 植生および利用状況

畑ではれいしよ、甜菜の外カボチャ、シャクヤク、人参、ユリ、ニンニク、エンドウ、小豆、菜豆など各種作物が栽培されている。また最近タマネギの栽培が多くなっている。

C 地力保全上の問題点

堆肥あるいは緑肥作物の鋤込み等有機物の施用を図りながら漸次深耕をして根圏域の拡大を必要とする。尚深耕に際しては塩基、燐酸の施用もゆるがせはできない。

D 分布 北海道富良野市東山、老節布、平沢、布礼別、富丘。

記載責任者 後藤計二(北海道立中央農業試験場)

日付 昭和49年3月31日

平 沢 統

(1) 土壤統の概要

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ2.0cm前後で腐植含量5～7%、土性はSCである。色は1.0YR～7.5YRで彩度2

～3、明度3～4。発達中程度の粒状構造。ち密度10～13で疎。pH(H₂O) 5.2前後。下層との境界平坦明瞭。

第2層は厚さ15～20cmで腐植含量2～4%、土性はLiC～HCである。色は2.5Yで彩度2、明度5～7。均質連結状でち密度15～20で疎～中。酸化沈積物あり～含む。pH(H₂O) 4.8前後。下層との境界判然。

第3層は厚さ60cm以上で腐植含量2%以下、土性はSC～LiCである。色は2.5Yで彩度2、明度6～7。均質連結状でち密度15～22で疎～中。酸化沈積物を含む。pH(H₂O) 5.3前後。

代表的断面形態

(畑)

(所在地)富良野市老節市 試坑197

第1層	0～20cm	腐植に富む灰褐(7.5YR4/2)のSC。発達中程度の粒状構造で小孔富む。ち密度13で疎。粘性中。pH(H ₂ O) 5.2。調査時の湿り半乾。層界平坦明瞭。
第2層	20～35cm	腐植を含む灰(2.5Y6/2)のHC。均質連結状で小孔あり。ち密度15で疎。粘性強。酸化沈積物頗る富む。pH(H ₂ O) 4.8。調査時の湿り湿。層界判然。
第3層	35cm以下	腐植を欠く灰(2.5Y7/2)のSC。均質連結状で小孔あり。ち密度15で疎。粘性中。酸化沈積物あり。pH(H ₂ O) 5.3。調査時の湿り潤。

代表的断面の分析成績

No.197

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0～20	5.1	—	44.9	12.8	8.9	33.4	SC	3.45	0.27	12.8	6.0
2	20～35	11.2	—	1.9	5.5	14.7	77.9	HC	2.02	0.21	9.6	3.5
3	35～	3.4	—	43.0	26.0	5.4	25.6	SC	0.49	0.04	12.3	0.9

層位	pH		置換酸 度Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	有 効 態 磷 酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.2	4.2	2.6	15.9	6.7	0.99	0.50	42.1	700	25.0
2	4.8	3.6	18.1	27.6	9.6	1.64	0.64	34.8	1,320	3.0
3	5.3	4.0	3.7	8.4	3.6	0.99	0.13	42.9	460	3.0

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統に類似あるいは隣接する統として八幡統、南布礼別統、富丘統などがある。八幡統、南布礼別統は下層に酸化沈積物がないことにより区別され、富丘統は酸化沈積物は存在するが土色は黄褐色で

あることにより区別される。

A-3 母材 非固結火成岩（熔結凝灰岩）

A-4 堆積様式 残積

B 地形 標高360m内外の凹地状段丘

C 気候 年平均気温5.5℃。年降水量1,008mm

D 植生および利用状況 畑に利用され、ばれいしよ、豆類、甜菜等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

地形が凹地状のため周辺よりの滲透水が集まる場所である。明渠、暗渠により排水を完備することが必要である。また心土破碎により下層土の亀裂の増加を凶り、堆肥の施用、塩基の補給につとめる必要がある。

F 分布 北海道富良野市老節布、平沢

調査および記載責任者 木村清、後藤計二（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和49年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
平 沢 ー 平 沢	llw ll t f n

② 土壌区別説明

平 沢 ー 平 沢

示性分級式(畑)

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表 効 七 の 層 の 厚 深 さ	有 効 土 の 層 の 厚 深 さ	表 土 の 粘 土 含 量	耕 土 の 粘 土 含 量	(表土の風乾の硬さ)	(表土の風乾の硬さ)	土 地 の 乾 湿	(透水性)	(保湿度)	自 然 沃 度	(保肥力)	(固定力)	(養分塩基状態)	(置換性)	(苦土量)	(加酸量)	(微酸量)	(酸要素)	障 害 物 質 の 有 無 性	(物理的障害)	(増冠水の危険度)	(地すべりの危険度)	傾 斜 の 傾 方	(自然傾斜)	(人為傾斜)	侵 蝕 度	(耐蝕性)	(耐風蝕性)
	t	d	g	p			w			f			n						i		a		s			e		
Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	3	2	Ⅲ	2	1	3	Ⅱ	2	1	2	Ⅱ	2	2	1	—	2	Ⅰ	1	1	Ⅰ	1	1	1	1
簡略分級式		Ⅲw		Ⅱtfn																								

A 土壌区の特徴

この土壌区は平沢統に属する。表土の厚さは20cm内外で中庸、有効土層は1m以上で深い。表土の土性は微粒質であるが粘性中庸で耕起、砕土は容易である。透水性は中庸であるが過湿のおそれが多い。保肥力中庸、固定力小さいが土層の塩基状態はやゝ低く自然肥沃度は中位である。作土の養分のうち塩基にはやゝ乏しい。特殊な障害性、災害性はない。緩傾斜地であるが凹地状で侵蝕のおそれはない。

B 植生および利用状況 全域畑地でばれいしよ、豆類、甜菜などが栽培されている。

C 地力保全上の問題点

地形が凹地状のため周辺よりの滲透水が集まるところで、明渠、暗渠を完備する必要がある。また作土直下から構造が均質連結状で心土破碎による亀裂の増加を図ること、堆肥の施用、塩基の補給につとめる必要がある。

D 分布 北海道富良野市老節布、平沢

記載責任者 後藤計三(北海道立中央農業試験場)

日付 昭和49年3月31日

富 丘 統

(1) 土壌統の概要

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ17~25cmで腐植含量5%前後で土性はLiCが主である。色は10YRで彩度2~3、明度3~4である。発達中度の粒状構造。ち密度1.0~1.2で疎。pH(H₂O)5.0前後。下層境界

判然。

第2層は厚さ30～50cmで腐植含量1.5%前後。土性はLiCが主である。色は7.5YR～10YRで彩度3～4、明度5～6。発達中度の塊状構造。ち密度1.5～2.0で中。雲状の酸化沈積物あり～富む。pH(H₂O)5.0前後、下層境界判然。

第3層は厚さ40cm以上で腐植を欠く。土性はLS～L。色は10YRで彩度3～4、明度6～7。均質連結状でち密度2.2で中。マンガン斑あり。

代表的断面形態

畑

(所在地)北海道富良野市西富丘 試坑No.212

第1層	0～17cm	腐植を含む黄褐(10YR4/3)のLiC。粒状構造で小孔富む。ち密度1.2で疎。粘着性中。透水性良。pH(H ₂ O)5.0。湿り半湿。境界判然。
第2層	17～33cm	腐植を含む黄褐(7.5YR5/3)のLiC。塊状構造で発達中度。小孔含む。ち密度1.5で疎。粘着性中。透水性良。pH(H ₂ O)5.0。マンガン斑含む。湿り湿。境界判然。
第3層	33～55cm	腐植あり灰褐(10YR6/4)のLiC。塊状構造で発達弱。小孔含む。ち密度2.0で中。粘着性弱。透水性やゝ不良。雲状の斑紋富む。pH(H ₂ O)5.2。湿り湿。境界判然。
第4層	55cm	腐植を欠く灰褐(10YR6/4)のLS(触感)。均質連結状で小孔あり。ち密度2.2で中。粘着性中。透水性不良。マンガン斑あり。湿り湿。

代表的断面の分析成績

No.212

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含 量 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0～17	3.2	—	29.2	16.2	19.9	34.7	LiC	2.85	0.21	13.6	4.9
2	17～33	2.9	—	21.1	18.7	30.7	29.5	LiC	1.22	0.08	15.3	2.1
3	33～55	3.6	—	19.0	17.2	32.1	31.7	LiC	0.70	0.05	14.0	1.2

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容 量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	有 効 態 磷 酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
	1	5.0	4.2	2.3	16.2	6.3	1.64	1.42	39	680
2	5.0	4.0	5.3	9.9	2.8	0.54	0.32	28	620	tr
3	5.2	3.9	7.6	11.7	4.1	1.22	0.18	35	740	tr

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統に類似する統として南布礼別統、平沢統がある。南布礼別統は下層に酸化沈積物はなく、平沢統はグライ斑が多くより湿性を呈するので夫々本土壌統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩（熔結凝灰岩）

A-4 堆積様式 残積

B 地形 標高360m内外の平坦状台地

C 気候 年平均気温5.5℃。年降水量1,008mm

D 植生および利用状況 畑に利用され、ばれいしよ、甜菜、豆類などが栽培されている。

E 農業上の留意事項

地形はほぼ平坦で多雨時および时期的にやゝ湿性を呈するところであり、暗渠の施行を要する。塩基に乏しくその補給と有機物の施用を図るべきである。

F 分布 北海道富良野市老節布、平沢

調査および記載責任者 木村清、後藤計二（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和49年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
富 丘	II twfn

② 土壌区別説明

富 丘 統 - 富 丘 区

示性分級式(畑)

土	表	有	表	耕	(表)	(表)	土	(透)	(保)	自	(保)	(固)	養	(置)	(有)	(微)	(障)	(災)	(増)	(地)	傾	(自)	(傾)	(人)	侵	(耐)
壤	生	効	土	土	土	土	地		然			層	換	"	"	効	害	物	冠	す	然	斜	為		水	
産	力	の	の	の	の	の	の	水	水	潤	肥	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷		の	危	傾		蝕	
可	能	厚	深	難	性	性	乾	乾		沃		力	力	基	状	豊	含	"	"	"	素	度	無	性	蝕	
性	等	級	さ	さ	量	易	性	性	度	度	力	力	態	量	"	"	"	素	度	性	度	度	斜	向	蝕	
			t	d	g	p		w		f		n					i	a		s		e				
II	II	I	I	I	3	2	1	II	2	1	2	II	2	1	1	1	-	2	I	1	1	I	1	1	1	
簡略分級式		II twfn																								

A 土壤区の特徴

本土壤区は富丘統に属する。表土の厚さは20前後、有効土層は1m以上で深い。表土は細粒質であるが粘着性は中庸で風乾土の硬さはやゝ軟かく耕転は容易である。下層土はち密で透水性もやゝ小さく、さらに地形的要因もあつて一時的過湿のおそれが多い。保肥力中庸、固定力小さいがやや塩基未飽和で自然肥沃度は中位である。作土は石灰を除きやゝ富んでいる。特殊の障害性はない。地形はほぼ平坦で侵蝕は認められない。

B 植生および利用状況

畑に利用され、ばれいしよ、甜菜、豆類などが栽培されている。

C 地力保全上の問題点

多雨時にやゝ湿性を呈し、暗渠の施行を要す。また塩基の補給、堆肥を図るべきである。

D 分布 北海道富良野市老節布、平沢

記載責任者 後藤計二(北海道立中央農業試験場)

日付 昭和49年3月31日

自由ヶ丘統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外で腐植含量3～5%、土性はCLが主である。色は10YRが主で彩度3～4、明度3～6。礫なく、細粒状構造で発達程度は弱度のものが多い。ち密度1.5前後で、pH(H₂O)5.4前後、下層との境界は平坦明瞭である。(本層は大部分がTa-a火山灰層からなっている)

第2層は厚さ20～30cmで腐植含量2%内外、土性はSiC～LiCである。色は10～7.5YRで彩度4～6、明度4～6。礫なく、細塊状構造で発達程度は中～強度である。細孔を含む、ち密度2.0～2.3で中、pH(H₂O)5.1前後、下層との境界はやや明瞭である。

第3層は厚さ25cm内外で腐植含量2%以下、土性はLiC～HCである。礫なく、色は2.5Yが主で彩度3～4、明度6～7。細塊状構造で発達程度は中度のものが多い。細孔あり、ち密度1.9前後で中、pH(H₂O)5.1前後、下層との境界はやや明瞭である。

第4層は地表下おおむね70cm以下で、腐植含量2%以下、土性はLiCが主である。礫なく、色は5～7.5Yで彩度2以下、明度6～8。均質連結状で孔げきなし、ち密度2.0前後で中である。

代表的断面形態

所在地 空知郡南富良野町下金山 ㊦ MF68

第1層	0～20cm	腐植を含む黄褐(10YR4/4)のScL、礫なく、発達弱度の細粒構造、ち密度1.5で疎、pH(H ₂ O)5.4、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭(作土層、大部分がTa-a火山灰層よりなっている)。
第2層	20～45cm	腐植を含む黄褐(7.5YR5/6)のSiC、礫なく、発達強度の細塊状構造、細孔を含む、ち密度2.3で中、pH(H ₂ O)5.1、調査時の湿り半乾、境界やや明瞭。
第3層	45～73cm	腐植を欠く黄褐(2.5Y7/4)のHC、発達強度の細塊状構造、細孔あり、ち密度1.9で中、pH(H ₂ O)5.1、調査時の湿り湿、境界やや明瞭。
第4層	73～	腐植を欠く灰色(7.5Y8/2)のC、礫なく、均質連結状、孔げき殆んどなし、ち密度2.0で中、調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

層位	彩取部位 cm	水分 %	礫含量 %	粒 径 組 成 %				土 性	現 地 容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
				粗 砂	細 砂	シルト	粘 土							
1	0~20	3.4		50.8	10.3	18.3	20.6	ScL	101.1	2.60	2.30	0.13	17	3.9
2	20~45	7.8		6.2	17.4	48.3	28.1	SiC	113.8	2.70	1.49	0.12	13	2.6
3	45~73	5.6		2.0	10.9	40.7	46.4	HC	135.6	2.70	-	-	-	-

層位	pH		置換酸度 Y1	塩 基 置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石 飽 和 度 %	灰 度 %	磷 酸 吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O				
1	5.4	4.3	3.8	12.2	4.9	1.9	0.4	40	93.2	21.0	
2	5.1	4.0	18.8	21.3	5.9	2.6	0.2	28	160.6	tr	
3	5.1	3.8	15.5	18.7	5.4	2.8	0.2	29	118.6	tr	

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統は台地土壌では存在しない。隣接する統はいずれも堆積様式が異なる。

A-3 母 材 非固結水成岩(粘土層)

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地 形 台地上の緩波状地。

C 気 候

冬期積雪多く、夏期冷涼。農期間平均気温 13.3~14.5℃、年平均気温 5.5~6.5℃、年間降水量 845~1,179mm、無霜期間 132~142日。

D 植生および利用状況

大部分耕地に利用され、牧草その他の飼料作物が栽培されている。

E 農業上の留意事項

堆 肥等の有機物施用による地力の維持増強が必要である。

F 分 布

北海道空知郡南富良町下金山の一部。

調査および記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和49年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
自 由 ケ 丘	II tpfns

② 土壤区別説明

自由ヶ丘統 —— 自由が丘区

示 性 分 級 式 (畑)

土	表	有	表	耕	(表	(表	(表	土	(透	(保	(自	(固	(土	(養	(置	(有	(微	(酸	障	(有	(物	災	(増	(地	傾	(自	(傾	(人	(侵	(耐	(耐
壤	生	効	土	土	表	表	表	地	透	保	然	固	層	置	有	微	酸	障	有	物	災	増	地	傾	自	傾	人	侵	耐	耐	
産	土	土	の	の	の	の	の	水	水	潤	肥	肥	定	塩	石	苦	加	燐	害	理	物	冠	す	す	然	斜	為	水	風		
力	の	層	の	の	粘	土	乾	水	水	沃	沃	力	力	基	灰	土	里	酸	害	質	障	害	の	危	傾	傾	蝕	蝕			
可	能	性	厚	深	含	性	性	性	性	度	度	態	態	状	量	量	量	素	無	性	性	性	度	度	斜	斜	斜	蝕	蝕		
性	等	級	さ	さ	量	易	性	性	性	度	度	態	態	状	量	量	量	素	無	性	性	性	度	度	斜	斜	斜	蝕	蝕		
			t	d	g	p			w		f			n				i		a		s				e					
II	II	I	I	II	2	2	2	I	2	2	1	II	2	2	2	II	2	1	1	1	-	2	I	1	1	I	1	1	1	1	1
簡略分級式			II t p f n s																												

A 土壤区の特徴

この土壤区は自由ヶ丘統に属する。表上の厚さは20cm内外で中庸、有効上層は1m以上で深い。表土の土性は細粒質で粘着性中庸、耕起碎土はやや困難である。保水性、透水ともに中庸で過湿、過乾のおそれは少ない。

保肥力、燐酸固定力ともに中庸、土層の塩基状態も中庸で自然肥沃度は中位である。作土は石灰、燐酸が少く、有機物が不足している、心土は燐酸が少い。特殊の障害性はなく、地形は緩傾斜を呈するが侵蝕のおそれは少ない。

B 植生および利用状況

大部分畑地に利用され、牧草その他の飼料作物が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

堆肥等有機物の積極的施用と、燐酸、石灰の増施を要する。

D 分布

北海道空知郡南富良野町下金山の一部。

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和49年3月31日

越 中 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外で腐植含量5%内外、土性はCLが主である。礫なく、色は10YRが主で彩度3～4、明度3～5。粒状構造で発達程度は中度のものが多い。ち密度10前後で疎、pH(H₂O)5.0前後。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ20cm内外で腐植含量5%以下、土性はCL～LICである。礫なく、色は10YRが主で彩度3～4、明度4～6。細塊状構造で発達程度は弱度のものが多い。細小孔を含む。ち密度は20前後で中である。pH(H₂O)5.5前後、下層との境界は判然としている。

第3層は厚さ15cm内外で腐植含量2%以下、土性はCLが主である。礫なく、色は10YR～2.5Yで彩度3～4、明度5～7。細塊状構造で発達程度は弱～中度である。細小孔を含む、ち密度20～24で中である。pH(H₂O)5.5～5.7、下層との境界は判然としている。

第4層は厚さ20～30cmで腐植含量2%以下、土性はCL～Cである。半風化細小礫あり、色は2.5Yが主で彩度2以下、明度5～7。塊状構造で発達程度は弱度の場合が多い。細小孔あり、雲状の酸化沈積物を含む、ち密度20～24で中である、下層との境界は判然としている。

第5層は地表下おおむね80cm以下で腐植含量2%以下、土性はCL～Cである。半風化細小礫を含む、色は2.5～5Yで彩度2以下、明度5～7。均質連結状で細孔を含み、雲状の酸化沈積物を含む。ち密度20～23で中である。

代 表 的 断 面 形 態

所在地 北海道空知郡南富良野町字幾寅 試坑No20

第 1 層	0～18cm	腐植に富む黄褐(10YR4/4)のCL、礫なく発達中度の粒状構造、ち密度10で疎、pH(H ₂ O)5.1、調査時の湿り湿、境界平坦明瞭。
第 2 層	18～30cm	腐植を含む黄褐(10YR5/3)のLIC、礫なく発達弱度の細塊状構造、細小孔あり、ち密度20で中、pH(H ₂ O)5.5、調査時の湿り湿、境界判然。
第 3 層	30～50cm	腐植を欠く黄褐(2.5Y5/3)のCL、礫なく発達中度の細塊状構造、細小孔に富む、ち密度20で中、pH(H ₂ O)5.7、調査時の湿り湿、境界判然。
第 4 層	50～80cm	腐植を欠く灰色(2.5Y7/2)のC、半風化細小礫を含む、発達弱度の塊状構造、細孔含む、雲状の酸化沈積物を含む、ち密度23で中、調査時の湿り湿、境界判然。

第 5 層	80～	腐植を欠く灰色(5Y6/2)のC、半風化細小礫を含む、均質連結状で細孔を含む、ち密度23で中。調査時の湿り湿。
-------	-----	---

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 %	粒 径 組 成 %				土 性	現 地 容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
				粗 砂	細 砂	シルト	粘 土							
1	0～18	4.0		28.1	21.7	28.7	21.5	CL	104.6	2.58	2.93	0.24	12	5.1
2	18～30	5.3		10.3	22.3	37.0	30.4	LiC	102.9	2.39	2.28	0.21	11	3.9
3	30～50	4.6		14.2	29.6	36.1	20.1	CL	126.3	2.76	—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y1	塩 基 置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石 飽 和 度 %	灰 度 %	磷 酸 吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O				
1	5.1	4.1	6.4	16.2	4.7	0.4	0.5	29	5.42	22.9	
2	5.5	4.3	4.5	16.4	5.3	0.3	1.1	32	1.246	4.2	
3	5.7	4.4	2.1	12.9	1.0	4.7	0.5	8	9.64	tr	

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては、幾寅西統、松井統、内藤統等があるが、幾寅西統は河成堆積で酸化沈積物がなく、松井統は河成堆積でグライ層を有する。また内藤統は堆積様式を同じくするが酸化沈積物を持たないのでそれぞれ本統と区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 水積(扇状堆土)

B 地 形

丘陵地裾の緩傾斜を呈する扇状地。

C 気 候

年間を通じて比較的冷涼。年平均気温 5.5～6.5℃、農期間平均気温(4～10月) 13.3～14.5℃、年降水量 845～1,179mm、無霜期間 132～142日。

D 植生及び利用状況

主に畑地に利用され、馬鈴薯、てん菜、その他の作物が栽培されているが、一部は原野及び林地になっている。

E 農業上の留意事項

下層の透水性がやや悪く、また斜面上部からの滲透水等によりやや排水不良を呈するところが多いから軽度の暗渠排水を要する。

F 分 布

北海道空知郡南富良野町幾寅の一部。

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覽

土壤区名	簡略分級式
越中 - 越中	II t p w f n s

② 土壤区別説明

越中統 —— 越中区

示性分級式 (畑)

土壤生産力可能性等級	表効土の層の厚さ	有効土の層の深さ	表土の粘着性	耕起の易さ	(表土の乾燥)	(表土の粘着性)	(透水性)	(保水性)	(自然肥沃度)	(自保肥力)	(固肥力)	(土層の塩基状態)	(養分交換性)	(置換性)	(苦土含量)	(加酸)	(微酸)	(酸量)	(障害物質の有無)	(物理的障害)	(災害の危険度)	(増冠水の危険度)	(地すべりの危険度)	(傾斜)	(自然傾斜)	(人為傾斜)	(侵入)	(耐蝕性)	(耐風蝕性)					
	t	d	g	p		w		f		n									1		a													
II	II	I	I	II	2	2	2	2	2	II	2	1	3	II	2	3	1	1	-	2	I	1	1	I	1	1	II	2	-	-	I	1	1	1
簡略分級式		II t p w f n s																																

A 土壤区の特徴

この土壤区は越中統に属する。表土の厚さは25cm以上で深く、有効土層も1m以上で深い。表土の土性は細粒質、粘着性中庸で耕起碎土はやや困難である。保水性中庸で、下層の透水性がやや悪く、滲透水の影響も加っているため過湿のおそれがある。

保肥力中、磷酸固定力小、土層の塩基状態不良で自然肥沃度は中位である。作土は置換性苦土に欠乏し、石灰含量がやや少く、やや酸性を呈する。下層土は石灰、苦土、磷酸がともに少く、やや酸性を呈する。地形は緩傾斜を呈するが侵蝕のおそれは少ない。特殊の障害性、災害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

主として畑地に利用され、馬鈴薯、てん菜、その他の作物が栽培されている。一部は原野または林地になっている。

C 地力保全上の問題点

下層の透水性がやや悪いいため過湿のおそれがあるから軽度の暗渠排水を要し、苦土、石灰等の塩基に不足しているから補給の要がある。

D 分布

北海道空知郡南富良野町幾寅の一部

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和50年3月31日

幾 寅 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ25cm内外で腐植含量3~5%、土性はSLが主である。色は10YRが主で彩度3~4、明度3~5、礫なく、細粒状構造で発達程度は弱度のものが多い。ち密度は10~15で疎、pH(H₂O)6.2前後。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ20~25cmで腐植含量2~3%、土性はSL~Lである。色は10YRが主で彩度4~6、明度4~5。礫なく、細塊状構造で発達程度は弱度である。細孔を含むものが多い。ち密度20前後で中、pH(H₂O)6.4前後。下層との境界はやや明瞭である。

第3層は厚さ20~30cmで腐植を欠き、土性はSLが主である。色は10YR~2.5Yで彩度5~6、明度4~5。礫なく、塊状構造で発達程度は弱度のものが多い。細孔に富むものが多い。ち密度15前後で疎、pH(H₂O)6.6前後。下層との境界は平坦明瞭である。

第4層は20~30cmで腐植含量3~5%、土性はCL(手触)が主である。色は10YRが主で、彩度4~5、明度3~5のものが多い。礫を含む場合がある。塊状構造で発達程度は中度のものが多く細小孔に富む。ち密度18前後で疎、下層との境界は漸変である。

第5層は地表下おおむね80cm以下で腐植を欠き、土性はL~cL、時にはSL~Sである。色は10YRが主で彩度4~6、明度4~6。礫に富む場合がある。塊状構造で発達程度は弱度のものが多く細孔に富む。ち密度18前後で疎である。

代表的断面形態

所在地 空知郡南富良野町幾寅 16MF3

第 1 層	0~25cm	腐植を含む黄褐(10YR4/4)のSL、礫なく、発達弱~中度の粒状構造、ち密度15で疎、pH(H ₂ O)6.2、調査時の湿り湿、境界平坦明瞭。
第 2 層	25~38cm	腐植を含む黄褐(10YR4/6)のSL、発達弱度の細塊状構造、

		細孔を含む、礫なく、ち密度2.0で中、pH(H ₂ O)6.4、調査時の湿り湿、境界やや明瞭。
第3層	3.8~6.3cm	腐植を欠く黄褐(2.5Y4/6)のSL、発達弱度の塊状構造、細孔に富む、礫なく、ち密度1.5で疎、pH(H ₂ O)6.6、調査時の湿り湿、境界平坦明瞭。
第4層	6.2~8.5cm	腐植を含む黄褐(1.0YR4/5)のcL、発達中度の細塊状構造、細小孔にすこぶる富む、礫なく、ち密度1.8で疎、調査時の湿り湿、境界やや明瞭。
第5層	8.5~	腐植を欠く黄褐(1.0YR5/5)のL、発達中度の細塊状構造、細小孔に富む、礫なく、ち密度1.8で疎、調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 %	粒 径 組 成 %				土 性	現 地 容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植
				粗 砂	細 砂	シルト	粘 土							
1	0~2.5	2.8		34.7	35.5	21.7	8.1	SL			2.24	0.21	11	3.9
2	2.5~3.8	3.8		8.3	61.0	22.7	8.0	SL			1.55	0.15	11	2.7
3	3.8~6.2	3.3		16.3	66.6	14.5	2.6	SL			—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y1	塩 基 配換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石 飽 和 度 %	灰 度 %	燐 酸 吸収係数	有効態燐酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O				
1	6.2	5.0	0.4	15.2	10.1	1.3	0.4	6.6	5.56	2.26	
2	6.4	5.3	0.3	13.5	9.7	5.4	0.4	7.2	7.90	6.2	
3	6.6	5.3	0.4	9.2	6.2	1.0	0.3	6.7	6.00	4.1	

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としては、幾寅西統、山畔統、十梨別統、シイソラプチ統、山畔南統、下金山東統がある。幾寅西統、山畔統、十梨別統は礫層が出現し、山畔南統は表層に礫を含み、またシイソラプチ統、下金山東統は表層腐植層のためそれぞれ本統と区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩(砂岩風化物)

A-4 堆積様式 水積(河成堆積)

B 地 形 河川流域の平坦地

C 気 候

冬期積雪多く、夏期冷涼。農期間平均気温13.3~14.5℃、年平均気温5.5~6.5℃、年降水量845~1,179mm、無霜期間132~142日。

D 植生および利用状況

大部分畑地に利用され、馬鈴薯、てん菜、にんじん、豆類が栽培されている。

E 農業上の留意事項

有機物の施用による地力の維持増進が必要である。

F 分布

北海道空知郡南富良野町幾寅の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
幾 寅	II f

② 土壌区別説明

幾 寅 統 —— 幾 寅 区

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤	表 生	有 効	表 土	耕 土	(表 土)	(表 土)	(土 地)	(透 水)	(保 湿)	自 然	(自 保)	(固 土)	(養 分)	(置 換)	(有 効)	(微 酸)	障 害	(有 物 理 的 障 害)	災 害	(地 冠 水)	(傾 す べ り)	(自 然 傾 斜)	(人 為 傾 斜)	(侵 蝕)	(耐 水 性)	(耐 風 蝕 性)		
土 産	土 層	の 厚 さ	の 厚 さ	の 厚 さ	の 厚 さ	の 厚 さ	の 厚 さ	の 厚 さ	の 厚 さ	の 厚 さ	の 厚 さ	の 厚 さ	の 厚 さ	の 厚 さ	の 厚 さ	の 厚 さ	の 厚 さ	の 厚 さ	の 厚 さ	の 厚 さ	の 厚 さ	の 厚 さ	の 厚 さ	の 厚 さ	の 厚 さ	の 厚 さ	の 厚 さ	
可 能 性 等 級	の 厚 さ	の 厚 さ	の 厚 さ	の 厚 さ	の 厚 さ	の 厚 さ	の 厚 さ	の 厚 さ	の 厚 さ	の 厚 さ	の 厚 さ	の 厚 さ	の 厚 さ	の 厚 さ	の 厚 さ	の 厚 さ	の 厚 さ	の 厚 さ	の 厚 さ	の 厚 さ	の 厚 さ	の 厚 さ	の 厚 さ	の 厚 さ	の 厚 さ	の 厚 さ	の 厚 さ	
	t	d	g	p		w		f			n					i	a	s										
II	I	I	I	I	I	I	I	I	2	1	II	2	1	1	I	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
簡略分級式	II f																											

A 土壌区の特徴

この土壌区は幾寅統に属する。表土の厚さは25cm以上でやや深く、有効土層は1m以上で深い。表土は中粒質で粘着性弱く耕起砕土は容易である。透水性良好、保水性中庸で過湿、過乾のおそれはない。

保肥力中、固定力小で土層の塩基状態良好で自然肥沃度は高い。作土の養分含量は比較的多い。特殊の障害性はなく、地形平坦で侵蝕のおそれもない。

B 植生および利用状況

大部分耕地に利用され、馬鈴薯、てん菜、にんじんその他の畑作物が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

土性やや粗く腐植含量少ないので有機物施用による地力の維持増強が必要である。

D 分布

北海道空知郡南富良野町幾寅の一部

記載責任者 高尾 欽 弥

日 付 昭和49年3月31日

幾 寅 西 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ18～20cmで腐植含量2～5%、土性はLが主である。色は2.5 Y Rが主で、彩度2～3、明度5～7。礫なく、細粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度1.5前後で疎、pH(H₂O) 6.3前後。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ20cm内外で腐植含量2%以下、土性はLが主である。色は2.5 Yが主で彩度2～3、明度4～6。礫なく、細塊状構造で発達程度は中度であり、細孔に富む。ち密度2.0前後で中、pH(H₂O) 5.8前後。下層との境界は平坦明瞭である。

第3層は厚さ10～15cmで腐植含量2～5%、土性はc L(手触)が主である。色は2.5 Yが主で彩度3～4、明度3～5。礫なく、細塊状構造で発達程度は中度のものが多い。細孔を含む、ち密度2.2前後で中である。下層との境界は波状明瞭である。

代表的断面形態

所在地 空知郡南富良野町幾寅 16 FM 14

第1層	0～18cm	腐植を含む灰褐(2.5 Y 6/2)のL、発達弱度の細粒状構造、ち密度1.5で疎、pH(H ₂ O) 6.3、調査時の湿り湿、境界平坦明瞭。
第2層	18～45cm	腐植を欠く黄褐(2.5 Y 5/3)のL、発達中度の細塊状構造、細孔に富む、ち密度2.0で中、pH(H ₂ O) 5.8、調査時の湿り湿、境界平坦明瞭。
第3層	45～58cm	腐植を含む黄褐(2.5 Y 4/3)のc L、発達中度の細塊状構造、細孔を含む、ち密度2.2で中、調査時の湿り湿。
第4層	58～	未風化小中大円礫からなる礫層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 %	粒 径 組 成 %				土 性	現 地 容積量 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
				粗 砂	細 砂	シルト	粘 土							
1	0~18	3.5		31.9	26.0	30.0	12.1	L			2.42	0.21	12	4.2
2	18~45	4.4		11.5	42.5	41.2	4.8	L			—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y1	塩 基 置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石 飽 和 灰 度 %	磷 酸 吸収係数	有効態磷酸 me/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.3	5.3	0.4	14.0	10.2	0.7	0.4	73	497	20.7
2	5.8	4.6	2.8	11.1	1.3	0.3	0.9	11	920	16.7

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としては山畔統、シソラブチ統、山畔南統、下金山東統がある。山畔統は火山性起源の母材よりなり、シソラブチ統、山畔南統、下金山東統は表層腐植層であるためそれぞれ本統と区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 水積（河成堆積）

B 地 形 河川流域の平担地

C 気 候

冬期積雪多く、夏期冷涼。農期間平均気温 13.3~14.5℃、年平均気温 5.5~6.5℃、年降水量 845~1,179mm、無霜期間 132~142日。

D 植生および利用状況

大部分耕地に利用され、馬鈴薯、てん菜、豆類その他の畑作物が栽培されている。

E 農業上の留意事項

有機物の施用をはかり地力維持に努める必要がある。

F 分 布

北海道空知郡南富良野町幾寅の一部。

調査および記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和49年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
幾 寅 西	II tdf

② 土壤区別説明

幾寅西統——幾寅西区

示 性 分 級 式 (畑)

土	表	有	表	耕	((土	((自	((養	((((障	(災	(傾	((侵	((
壤	生	効	土	土	表	表	土	透	保	然	固	土	置	有	微	酸	有	物	理	冠	地	傾	自	傾	人	侵	耐	耐
産	土	土	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
力	可	能	厚	深	含	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
等	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級
級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級
t	d	g	p			w				f			n				i			a			s			e		
II	II	II	I	I	2	1	1	I	1	2	1	II	2	1	2	I	1	2	1	1	-	1	I	1	1	I	1	1
簡略分級式 II tdf																												

A 土壤区の特徴

この土壤区は幾寅西統に属する。表土の厚さは18cm内外、有効土層は50～80cmでいずれも中庸である。表土の土性は中粒質で粘着性弱く耕起碎土は容易である。透水性良好、保水性中庸で過湿過乾のおそれは少ない。

保肥力中、磷酸固定力小、土層の塩基状態中庸で自然肥沃度は中位である。作土は苦土がやや少いが他の養分は比較的ある。下層は保肥力やや小さく、石灰、苦土が少い。特殊の障害性は存在せず、侵蝕のおそれもない。

空知川上流域とその支流に分布する比較的新しい沖積地で一般に土性粗く、礫層の浅いところが不規則に存在する。

B 植生および利用状況

大部分耕地に利用され、馬鈴薯、てん菜、豆類その他畑作物が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

土性やや粗く、不規則に礫層が浅く出現し、腐植に乏しいので、積極的な有機物施用による地力の増進が必要である。

D 分布

北海道空知郡南富良野町幾寅の一部。

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和49年3月31日

山 畔 南 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20～25cmで腐植含量8%内外、土性はSL～Lである、色は10YRが主で彩度2～3、明度2～3。中、巨礫を含むところがある。細粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度1.5～1.8で疎である。pH(H₂O) 5.8前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ20cm内外で腐植含量2～3%、土性はSL～Lである。色は2.5Y～10YRで彩度5～7、明度5～7。塊状構造で発達程度は弱度である。細孔を含む、ち密度1.5～1.8で疎、pH(H₂O) 5.8前後、下層との境界はやや明瞭である。

第3層は厚さ20cm内外で腐植含量2%以下、土性はSLとCの互層の場合がある。色は2.5Yが主で彩度6前後、明度4～6。単粒構造、ち密度1.5前後で疎、下層との境界は不規則である。

第4層は地表下おおむね6.5cm以下で腐植を欠き土性はSが主である。色は2.5Yが主で彩度4～6、明度5～7。単粒状、ち密度1.5前後で疎である。

代 表 的 断 面 形 態

所在地 空知郡南富良野町山畔 16MF22

第1層	0～25cm	腐植に富む黄褐(10YR2/3)のSL、中、大、巨礫を含む、発達弱度の細粒状構造、ち密度1.8で疎、pH(H ₂ O) 5.8、調査時の湿り湿、境界平坦明瞭。
第2層	25～42cm	腐植を含む黄褐(2.5Y6/6)のSL、発達弱度の塊状構造、細孔を含む、ち密度1.8で疎、pH(H ₂ O) 5.8、調査時の湿り湿、境界やや明瞭。
第3層	42～65cm	腐植を欠く黄褐(2.5Y5/6)のSLとCの互層、単粒状、ち密度1.5で疎、調査時の湿り湿、境界不規則。
第4層	65～	腐植を欠く黄褐(2.5YR6/4)のS、単粒状、ち密度1.4で疎、調査時の湿り湿。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重%	粒 径 組 成 %				土 性	現 地 容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植
				粗 砂	細 砂	シルト	粘 土							
1	0～25	5.9		39.0	26.6	24.1	10.3	SL			5.19	0.38	14	8.9
2	25～42	3.7		40.2	28.3	25.7	5.8	SL			1.74	0.13	13	3.0

層位	pH		置換酸度 Y1	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.8	4.8	1.1	20.9	7.8	1.2	0.8	3.7	1.552	25.5
2	5.8	4.8	1.5	10.3	1.9	1.0	0.5	18	1.308	4.2

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としては下金山東統、シイソラブチ統、山畔統、幾寅西統がある。山畔統、幾寅西統は礫層があり、シイソラブチ統は表層多腐植層であり、下金山東統は水田のためそれぞれ本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 水積（河成堆積）

B 地形 河川流域の平坦地

C 気候

冬期積雪多く、夏期冷涼。農期間平均気温 13.3～14.5℃、年平均気温 5.5～6.5℃、年降水量 845～1,179mm、無霜期間 132～142日。

D 植生および利用状況

大部分耕地に利用され、馬鈴薯、てん菜、その他の畑作物が栽培されている。

E 農業上の利用状況

有機物の施用をはかり漸次深耕すること。

F 分布

北海道空知郡南富良野町山畔の一部。

調査および記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和49年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
山 畔 南	II t g f n

② 土壌区別説明

山畔南統——山畔南区

示 性 分 級 式 (畑)

土	表	有	表	耕	(表	(表	土	(透	(保	自	(保	(固	(養	(置	(有	(微	障	(有	(物	災	(增	(地	傾	(自	(傾	(人	侵	(侵	(耐	(耐			
壤	表	効	土	土	表	表	地	透	保	然	固	土	層	換	効	量	障	害	害	冠	す	傾	斜	斜	為	水	風	風	風				
生	土	土	の	の	の	の	水	水	潤	肥	肥	定	塩	の	苦	加	害	害	害	水	の	の	の	の	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕				
産	層	の	の	の	粘	乾	水	水	沃	沃	沃	基	灰	石	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土			
力	の	の	の	の	土	土	乾	乾	乾	乾	乾	乾	乾	乾	乾	乾	乾	乾	乾	乾	乾	乾	乾	乾	乾	乾	乾	乾	乾	乾	乾		
可	厚	深	含	難	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性		
能	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	
性	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	
等	t	d	g	p			w			f			n				i		a		s				e								
級	II	I	II	I	1	2	1	I	1	2	1	II	2	2	3	II	2	1	1	1	1	2	I	1	1	I	1	1	1	1	1	1	1
式	II t g f n																																

A 土壤区の特徴

この土壤区は山畔南統に属する。表土の厚さは25cm内外でやや深く、有効土層は1m内外で深い。表土の土性は中粒質で粘着性弱く耕起砕土が容易である。保水性中、透水性大で過湿、過乾のおそれはない。

保肥力中、燐酸固定力中で土層の塩基状態不良のため自然肥沃度は中位である。作土の養分状態はおむね良好であるが、心土は石灰、燐酸が少い。特殊の障害性はなく、侵蝕のおそれもない。

本土壤区は比較的新しい河成堆積物層からなるが表層が暗色を呈するのが特徴である。

東 麓 郷 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ25~40cmで腐植含量3~4%、土性はSCL~CL、色は10YRで彩度3、明度3~4。細粒状~塊状構造で発達は弱度である。ち密度1.6~2.2で疎~中。可溶性、粘着性は弱で透水性は良。pH(H₂O)5.5~6.0。下層えは漸変する。

第2層は厚さ20~30cmで腐植含量は2%以下、土性はCL~LでSLの場合もある。色は10YRで彩度4~6、明度6前後。単一状で細粒状構造の場合もあり発達は弱度である。ち密度は2.2~2.5で中。可溶性、粘着性は弱度で透水性は良。pH(H₂O)5.2前後。下層えは漸変する。

第3層は厚さ40cm以上で腐植含量は2%以下、土性はSL。色は10YRで彩度5~6、明度7~8。単一状、ち密度2.5で中。可溶性、粘着性は弱度で透水性は良。

代表的断面形態

所在地 北海道富良野市東麓郷(畑)

第 1 層	0～28cm	腐植を含む黄褐(10YR3/3)のSCL、発達弱度の細粒状構造。孔隙とむ。ち密度16で疎。pH(H ₂ O)5.9。粘性弱。透水性良。調査時の湿り半乾。境界判然。
第 2 層	28～42cm	腐植を含む黄褐(10YR4/3)のCL、発達弱度の細塊状構造。孔隙とむ。ち密度22で中。pH(H ₂ O)6.0。粘性中。透水性良。調査時の湿り半乾。境界漸変。
第 3 層	42～60cm	腐植を欠く黄褐(10YR6/4)のCL、単一状で孔隙含む。ち密度25で中。pH(H ₂ O)5.2。粘性弱。透水性良。調査時の湿り半乾。境界漸変。
第 4 層	60cm以下	腐植を欠く黄褐(10YR5/8)のSL、単一状で孔隙とむ。ち密度25で中。粘性弱。透水性良。調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 %	粒 径 組 成 %				土 性	現 地 容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
				粗 砂	細 砂	シルト	粘 土							
1	0～28	2.1	—	37.9	21.5	16.0	24.6	SCL			1.80	0.13	13.9	3.1
2	28～42	2.7	—	32.3	23.2	23.3	21.2	CL			2.31	0.09	25.7	4.0
3	42～60	3.1	—	22.2	30.7	30.9	16.3	CL			1.49	0.03	49.7	2.6

層位	pH		置換酸度 Y1	塩 基 置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石 飽 和 度 %	磷 酸 吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.9	4.7	0.6	16.0	6.9	1.15	0.56	53.8	5.40	12.0
2	6.0	4.7	0.6	10.6	7.1	0.44	0.27	73.7	7.80	tr
3	5.2	4.0	10.2	8.6	3.3	0.49	0.56	50.6	6.40	tr

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統に隣接する統として麓郷統、布礼別統などがある。麓郷統、布礼別統は何れも礫が多くかつ腐植含量が多いので本統と区別される。

A-3 母 材 非固結火成岩(凝灰岩質)

A-4 堆積様式 水積(河成堆積)

B 地 形 低地で平坦

C 気 候 年平均気温5.5℃、年降水量1,002mm

D 植生および利用状況

畑地に利用され、麦類、ばれいしょ、人参、タマネギ、ユリ、等各種作物が栽培。

E 農業上の留意事項

腐植が乏しいので有機物の施用を図ること、また透水性が良く塩基やや不足しており、石灰、苦土等の施用を図ることが必要。

F 分布

北海道富良野市麓郷、南扇山

調査および記載責任者 後 藤 計 二 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和49年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
東 麓 郷	II n

② 土壌区別説明

東麓郷統——東麓郷区

示 性 分 級 式 (畑)

土	表	有	表	耕	((土	((自	(((((((障	((災	(傾	((侵	((
壤	生	効	土	土	表	表	透	保	湿	然	保	固	土	置	有	微	酸	障	有	物	災	増	地	傾	自	傾	人	侵	耐
産	土	土	の	の	の	の	水	水	潤	肥	肥	定	塩	石	苦	加	燐	害	質	的	害	冠	す	然	斜	為	水	風	
力	の	層	の	の	粘	土	乾	沃	力	力	状	基	灰	土	里	酸	要	害	障	害	危	危	傾	傾	方	蝕	蝕		
可	能	厚	深	含	性	性	性	性	度	度	力	力	態	量	"	"	"	素	度	無	性	性	度	度	斜	斜	蝕	性	
性	等	級	さ	さ	量	易	((((((((((((((((((((((
厚	深	含	性	性	性	性	性	度	度	力	力	態	量	"	"	"	素	度	無	性	性	度	度	斜	斜	蝕	性		
等	級	さ	さ	量	易	((((((((((((((((((((((
級	t	d	g	p		w		f		n		i	a	s		e													
II	I	I	I	I	2	1	1	I	1	2	1	I	2	1	1	II	2	2	1	1	-	2	I	1	1	I	1	1	
簡略分級式	II n																												

A 土壌区の特徴

この土壌区は東麓郷統に属する。表土の厚さは25~40cmで厚く、有効土層も1m以上で深い。表土は細粒質であるが粘性弱く耕起、碎土は容易である。保水性中庸、透水性は良好で過湿、過干のおそ

れはない。保肥力中、固定力小さく土層塩基状態は良好で自然肥沃度は高い。作土は塩基に欠乏しやすく、補給に留意、特殊な障害性はない。地形平坦で、侵蝕、災害性はない。

B 植生および利用状況

畑に利用され、ばれいしょ、人参、麦類、タマネギ、カボチャ等各種作物が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

透水性は良く保肥力も中庸で塩基に欠乏しやすい。石灰、苦土、加里等塩基の補給と有機物の施用を図ることが必要。

D 分布

北海道富良野市麓郷、南扇山

記載責任者 後藤 計二（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和49年3月31日

シイソラプチ統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外で腐植含量10%内外、土性はLが主である。色は10YRが主で彩度2～3、明度2～3。礫なく、粒状構造で発達程度は弱度のものが多い。ち密度20前後で中、pH(H₂O)5.7前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ20cm内外で、腐植含量10%内外、土性はLが主である。色は10YR～7.5YRで彩度1～2、明度1.7～2。礫なく、粒状構造で発達程度は弱度のものが多い。細孔に富む、ち密度20前後で中、pH(H₂O)5.8前後、下層との境界はやや明瞭である。

第3層は厚さ15～20cmで腐植含量6～8%、土性はSL～Lである。色は10YRが主で彩度3～5、明度3～5。礫なく、細塊状構造で発達程度は弱度のものが多い。細孔に富む、ち密度15～18で疎、pH(H₂O)5.7前後、下層との境界はやや明瞭である。

第4層は厚さ15～20cmで、腐植含量2%以下、土性はSL～Lである。色は10YRが主で彩度3～4、明度4～6。礫なく、塊状構造で発達程度は弱度のものが多い。細孔を含む、ち密度18前後で疎、pH(H₂O)5.8前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第5層は地表下おおむね70cm以下で、腐植を欠き、土性はCL(手触)が主である。色は10YRが主で彩度4～5、明度4～5。均質連結状で細小孔を含む、雲状の酸化沈積物あり、ち密度15前後で疎である。

代表的断面形態

所在地 空知郡南富良野町北落合 46MF39

第1層	0～18cm	腐植にすこぶる富む黒色(10YR2/2)のL、発達弱度の細粒状
-----	--------	---------------------------------

		構造、ち密度20で中、pH(H ₂ O) 5.7、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第2層	18~40cm	腐植にすこぶる富む黒色(7.5YR1.7/1)のL、発達弱度の粒状構造、細孔に富む、ち密度20で中、pH(H ₂ O) 5.8、調査時の湿り湿、境界やや明瞭。
第3層	40~55cm	腐植に富む黄褐(10YR4/4)のSL、発達弱度の塊状構造、細孔に富む、ち密度17で疎、pH(H ₂ O) 5.7、調査時の湿り湿、境界やや明瞭。
第4層	55~70cm	腐植あり黄褐(10YR5/4)のL、発達弱度の塊状構造、細孔を含む、ち密度18で疎、pH(H ₂ O) 5.8、調査時の湿り湿、境界平坦明瞭。
第5層	70~	腐植を欠く黄褐(10YR5/4)のCL、均質連結状、細小孔を含む、雲状の酸化沈積物あり、ち密度15で疎、調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 %	粒 径 組 成 %				土 性	現 地 容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植
				粗 砂	細 砂	シルト	粘 土							
1	0~18	7.0		42.9	21.4	22.2	13.5	L	84.8	2.61	7.05	0.51	14	12.1
2	18~40	12.4		20.1	40.1	28.5	11.3	L	60.8	2.32	7.49	0.51	15	12.9
3	40~55	10.8		30.1	47.9	18.6	3.4	SL	66.8	2.45	5.12	0.40	13	8.9
4	55~70	7.6		21.0	57.7	21.3	0	SL	79.2	2.74	-	-	-	-

層位	pH		置換酸度 Y1	塩 基 置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石 飽 和 灰 度 %	磷 酸 吸収係 数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.7	4.6	2.9	24.7	7.6	0.8	0.3	31	1,656	10.8
2	5.8	4.7	2.8	39.6	5.9	0.5	0.4	15	2,375	4.6
3	5.7	4.7	1.9	27.4	2.5	0.6	0.2	9	2,466	5.6
4	5.8	5.0	0.9	13.0	1.8	0.9	0.1	14	1,969	4.3

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統として幾寅西統、山畔統、山畔南統、下金山東統があるが、本統は表層多腐植層なので、これら各統と区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩(浮石質火山流物に由来)

A-4 堆積様式 水積(河成堆積)

B 地 形 河川流域の低平地。

C 気 候

冬期積雪多く、夏季冷涼、農期間平均気温 13.3～14.5℃、年平均気温 5.5～6.5℃、年降水量 845～1,179mm、無霜期間 132～142日。

D 植生および利用状況

馬鈴薯、豆類、牧草等の畑作物、飼料作物が栽培されているが、荒廃放任されているところもある。

E 農業上の留意事項

燐酸、塩基の増施が必要。酸性矯正を要す。

F 分布

北海道空知郡南富良野町上落合の一部。

調査および記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和49年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
シイソラブチ	III f II n

② 土壌区別説明

シイソラブチ統——シイソラブチ区

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表 土 の 層 の 厚 深 さ	有 効 土 の 層 の 厚 深 さ	表 土 の 粘 土 含 量	耕 転 土 の 粘 土 着 性	(表 土 の 乾 硬 さ)	(透 水 性)	(保 湿 性)	自 然 沃 土 力	(保 固 力)	(土 層 の 基 状)	(養 分 の 豊 富 性)	(置 換 性)	(有 効 態 量)	(微 酸 要 素)	障 害 物 質 の 有 無	(災 害 的 障 害 の 危 険 性)	(増 冠 水 の 危 険 度)	(地 す べ り の 危 険 度)	傾 斜 の 傾 斜 度	(自 然 傾 斜)	(人 為 傾 斜)	(侵 蝕 度)	(耐 風 蝕 性)												
	t	d	g	p	w		f		n					i	a	s		e																	
III	I	I	I	I	I	I	I	2	1	III	I	3	3	II	2	2	1	1	—	2	I	1	1	I	1	1	I	1	1	—	—	I	1	1	1
簡略分級式		III f II n																																	

A 土壌区の特徴

この土壌区はシイソラブチ統に属する。表土の厚さは30cm以上、有効土層は1m以上でともに深い。表土の土性は中粒質で粘着性弱く耕起碎土は容易である。透水性やや良好で保水性中庸であり、過湿、過乾のおそれは少ない。

保肥力大であるが、磷酸固定力大で土層の塩基状態不良のため自然肥沃度は低い。作土は酸性を呈し、石灰、苦土含量がやや低く、心土は石灰、苦土、磷酸ともに少なく酸性を呈する。

本土壌区はシイソラブチ川の水積によるいわゆる沖積土壌であるが、母材が浮石質火山流物に由来するため磷酸吸収係数が強大で、かつ粗膨であり、火山性土壌の特徴が強い土壌である。特殊の障害性は存在せず、侵蝕のおそれもない。

B 植生および利用状況

耕地には馬鈴薯、豆類、牧草その他の飼料作物が栽培されているが、離農等により耕地の荒廃化が一部にみられる。

C 地力保全上の問題点

磷酸資材の増施、塩基の施用、酸性矯正を要する。

D 分布

北海道空知郡南富良野町上落合の一部。

記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

日 付 昭和49年3月31日

下 学 田 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ25～35cmで腐植含量3%前後、土性はLiCである。色は10YRで彩度2、明度4～5、粒状、細塊状構造で発達程度は中～強度。ち密度1.2～1.7で疎。pH(H₂O)6.7前後。下層えは漸変。

第2層は厚さ30～35cmで腐植含量2%以下、土性はCL～LiCである。色は10YRで彩度2～3、明度5～6。細塊状構造で発達程度は中度。ち密度1.2で疎。pH(H₂O)6.9前後。下層境界は判然。

第3層は厚さ15～40cmで腐植含量2%以下、土性はSL～L。色は10YRで彩度3～4、明度5～6、細塊状構造で発達程度は弱度。ち密度1.0で疎。下層境界明瞭。

第4層は厚さ30cm以上で腐植含量2%以下、土性はS。一部砂礫層の場合もある。

代表的断面形態

所在地 北海道富良野市下五区(タマネギ畑)

第 1 層	0 ~ 19 cm	腐植を含む灰褐色(10YR 4/2)のLiC、発達中度の細塊状、粒状構造。孔隙に富む。ち密度1.2で疎。粘性強。透水性良。pH(H ₂ O) 6.7。調査時の湿り半乾。境界漸変。
第 2 層	19 ~ 30 cm	腐植を含む灰褐色(10YR 5/2)のLiC、発達強~中度の細塊状、塊状構造で孔隙含む。ち密度1.7で疎。粘性強。透水性は中。pH(H ₂ O) 6.7。調査時の湿り半乾。境界漸変。
第 3 層	30 ~ 60 cm	腐植を欠く灰褐色(10YR 5/2)のCL、細塊状構造で発達中~強度。孔隙富む。ち密度1.2で疎。粘性強。透水性良。pH(H ₂ O) 6.9。調査時の湿り半乾。境界判然。
第 4 層	60 ~ 80 cm	腐植を欠く黄褐色(10YR 5/3)のSL、発達弱度の細塊状構造で孔隙富む。ち密度1.5で疎。粘性中~弱。透水性良。調査時の湿り半乾。下層境界明瞭。
第 5 層	80 cm以下	腐植を欠く砂層(粗砂)。透水性良。湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 %	粒 径 組 成 %				土 性	現 地 容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
				粗 砂	細 砂	シルト	粘 土							
1	0~19	3.9	—	6.4	32.9	34.0	26.7	LiC			1.76	0.17	10.4	3.0
2	19~30	4.4	—	5.3	31.9	33.5	29.3	LiC			1.76	0.17	10.4	3.0
3	30~60	3.3	—	0.7	38.1	36.6	24.6	CL			1.00	0.11	9.1	1.7

層位	pH		置換酸度 Y1	塩 基 置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石 飽 和 灰 度 %	磷 酸 吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.7	5.7	0.3	19.7	1.44	5.35	0.48	102.7	7.20	2.40
2	6.7	5.7	0.3	19.8	1.44	6.25	0.24	105.5	7.80	1.80
3	6.9	5.8	0.3	18.1	11.6	9.87	0.26	120.0	7.20	7.0

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統に隣接する統としては西扇山統、富良野統などがある。西扇山統は土色が黒色で腐植含量が多く、富良野統は土性がやや粗かつ50cm以内には砂層或は砂礫層が出現することにより区分される。

A-3 母 材 非固結変成岩(蛇紋岩混合)

A-4 堆積様式 水積(河成堆積)

B 地 形 微波状の平坦地

C 気 候 年平均気温 6.5℃、年降水量 845mm

D 植生および利用状況

畑および水田に利用されている。畑はタマネギが最も多い。

E 農業上の留意事項

土壌は粘質でかつ重い。従って大型機械の踏圧、ねりにより表面排水が不良となる場合が多く、心土破碎、心土耕の施行に留意。また極力有機物の施用を図り固結度の低下を図る必要がある。ユリでは亜鉛欠乏による生育障害の発生する恐れがあり、これらの栽培を避けるか、栽培の場合は適量の施用、葉面撒布を要する。

F 分布

北海道富良野市五区、市部、学田三区

調査および記載責任者 後 藤 計 二、木 村 清 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和49年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
下 学 田	畑 III p II i 田 III p

② 土壌区別説明

下学田統 —— 下学田区

示 性 分 級 式 (畑)

土	表	有	表	耕	(表	(表	土	(透	(保	自	(保	(固	(土	養	(置	(有	(微	(酸	障	(有	(物	災	(増	(地	傾	(自	(傾	(人	侵	(耐
壤	表	効	土	土	表	表	土	透	保	然	固	固	層	置	有	微	酸	障	有	物	災	増	地	傾	自	傾	人	侵	耐	
生	土	土	土	土	土	土	土	水	水	潤	肥	肥	定	塩	石	苦	加	磷	害	質	障	害	水	の	の	然	斜	為	水	
産	の	の	の	の	の	の	の	乾	乾	沃	沃	状	基	灰	土	里	酸	要	害	障	害	危	危	傾	傾	傾	傾	蝕	蝕	
力	層	の	の	の	の	の	の	性	性	度	力	力	態	量	量	量	量	素	性	無	性	性	度	度	斜	斜	斜	度	性	
可	の	の	の	の	の	の	の	性	性	度	力	力	態	量	量	量	量	素	性	無	性	性	度	度	斜	斜	斜	度	性	
能	の	の	の	の	の	の	の	性	性	度	力	力	態	量	量	量	量	素	性	無	性	性	度	度	斜	斜	斜	度	性	
性	厚	深	含	難	性	性	性	性	性	度	力	力	態	量	量	量	量	素	性	無	性	性	度	度	斜	斜	斜	度	性	
等	深	含	難	性	性	性	性	性	性	度	力	力	態	量	量	量	量	素	性	無	性	性	度	度	斜	斜	斜	度	性	
級	さ	さ	量	易	性	性	性	性	性	度	力	力	態	量	量	量	量	素	性	無	性	性	度	度	斜	斜	斜	度	性	
	t	d	g	p			w			f			n					i		a			s				e			
III	I	I	I	III	3	3	3	I	2	1	1	I	2	2	1	I	1	1	1	1	1	1	I	1	1	I	1	1	1	
簡略分級式	(畑)	III p	II i	(田)	III p																									

A 土壌区の特徴

この土壌区は下学田統に属する。表土の厚さは25～30cmで深く、有効土層も1m以上で深い。表土は微粒質で重く粘性強く耕起、砕土は困難である。保水性は大きく、透水性は中庸で過干、過湿のおそれはない。保肥力、固定力ともに中庸であるが土層の塩基状態は飽和が高く自然肥沃度は高い。作土の養分は何れも富んでいる。特殊な障害性として畑では垂鉛欠乏による障害が出現する場合が多い。水田においては無い。地形はほぼ平坦で侵蝕はない。

B 植生および利用状況

畑および水田に利用され、畑はタマネギが主体である。

C 地力保全の問題点

土壌は粘質で重い。大型機械の踏圧、ねり等により表面排水が不良となる場合が多く、畑では心土破碎、心土耕を、水田にあっては暗渠、心土破碎を要するところが多い。また極力有機物の施用による土壌の膨軟化を図ること。畑ではユリにおいて垂鉛欠乏による生育障害の発現が多く適量の施用、葉面散布の必要がある。

D 分布

北海道富良野市下五区、市部、学田三区

記載責任者 後 藤 計 二 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和49年3月31日

西 扇 山 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は25～35cmで腐植含量12～6.5%、土性はLiCが主である。色は10YRで彩度1～2、明度2。未風化小円礫を含む場合が多い。細塊状構造で発達程度は弱～中である。ち密度は15～18で疎。pH(H₂O)6.5～5.5。下層えは漸変する。

第2層は厚さ30～40cmで腐植含量2～4%、土性はSiL～SLが主である。色は10YRで彩度2～3、明度3～4。未風化小円礫を含む場合が多い。細塊状構造で発達中度的の場合が多い。ち密度18～20で中。pH(H₂O)6.0～6.2。下層とは平坦明瞭。

第3層は厚さ40cm以上で腐植を欠く礫層である。礫層中の土性はSLで、ち密度は中～疎。

代表的断面形態

所在地 北海道富良野市西扇山2 (水田)

第 1 層	0～18cm	腐植に頼る富む黒(10YR2/1)のLiC、発達弱度の細塊状構造で孔隙含む。ち密度17で疎。粘性中で透水性良。酸化沈積物あり。
-------	--------	---

		pH (H ₂ O) 5.5。調査時の湿り半乾。境界漸変。
第 2 層	1.8 ~ 3.2 cm	腐植に富む黒 (10 Y R 2 / 2) の LiC、発達中程度の細塊状構造で孔隙富む。ち密度 1.8 で疎で透水性良。粘性やや強。pH (H ₂ O) 6.0。調査時の湿り半乾。境界漸変。
第 3 層	3.2 ~ 5.0 cm	腐植を含む灰褐 (10 Y R 3 / 2) の SiL、発達中程度の細塊状構造で孔隙に富む。ち密度 1.8 で中で透水性良。粘性中。pH (H ₂ O) 6.2。調査時の湿り半乾。境界漸変。
第 4 層	5.0 ~ 6.7 cm	腐植を含む黄褐 (10 Y R 4 / 3) の SL、発達弱度の細塊状構造で孔隙に富む。ち密度 2.0 で中で透水性良。粘性中。pH (H ₂ O) 6.0。調査時の湿り半乾。境界平坦。
第 5 層	6.7 cm ~	礫層、礫層中に砂壤土混合。黄褐 (10 Y R 4 / 3)。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 %	粒 径 組 成 %				土 性	現 地 容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植
				粗 砂	細 砂	シルト	粘 土							
1	0~1.8	8.2	—	14.3	21.0	32.1	32.6	LiC			6.68	0.36	19	11.6
2	1.8~3.2	6.9	—	11.0	23.2	27.0	38.8	LiC			3.85	0.28	14	6.7
3	3.2~5.0	5.5	—	31.3	9.1	48.5	11.1	SiL			1.64	0.12	14	2.8
4	5.0~6.7	—	—	27.6	40.3	20.9	11.2	SL			1.21	0.09	13	2.1

層位	pH		置換酸度 Y1	塩 基 置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石 飽 和 度 %	磷 酸 吸 収 係 数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.5	4.3	3.0	2.64	1.16	1.77	0.29	51.7	1,180	11.1
2	6.0	4.7	1.1	28.1	12.8	2.92	0.77	58.7	1,340	5.5
3	6.2	4.5	2.0	19.0	10.3	3.37	0.61	75.2	1,040	4.5
4	6.0	4.3	2.6	17.7	8.7	4.60	0.44	77.6	960	4.4

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統に隣接する統として下学田統、富良野統がある。両土壌統とも表土の腐植含量少ないことにより区分される。

A-3 母 材 非固結変成岩 (蛇紋岩混合)

A-4 堆積様式 水積 (河成堆積)

B 地 形 平坦低地

C 気 候 平均気温 6.5℃、年降水量 845mm

D 植生および利用状況

畑および水田に利用されている。畑はタマネギが栽培されている。畑転換地は小豆が多い。

Ⅲ 農業上の留意事項

生産性は高いところであるが、有機物の施用につとめ地力維持につとめること。

Ⅳ 分布

北海道富良野市下五区、西扇山、学田一区、五区。

調査および記載責任者 後 藤 計 二 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和49年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
西 扇 山	畑 II p 田 II p

② 土壌区別説明

西扇山統——西扇山区

示 性 分 級 式 (水田)

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表 効 土 の 層 の 厚 さ	有 効 土 の 層 の 深 さ	表 土 の 粘 土 含 量	耕 土 の 粘 土 含 量	(表土の風乾土の硬さ)	(表土の風乾土の硬さ)	湛 水 透 水 性	(作土下50cmの最高密度)	酸 化 還 元 性	(易分解性有機物含量)	(遊離酸化鉄含量)	(グ ラ イ 化 乾 湿 性)	土 地 の 水 分 持 力	(透 水 性)	(保 水 性)	自 然 肥 力	(固 定 力)	(土 層 の 塩 基 状 態)	養 分 の 含 量	(置 換 性 苦 土 里 酸 素 量)	(有 効 態 量)	(微 酸 量)	(酸 性 度)	障 害 物 質 の 有 無	(有 理 的 障 害 性)	災 害 の 危 険 度	(增 冠 水 の 危 険 度)	(地 す べ り の 危 険 度)				
	t	d	g	p		l		r		w		f		n		i		a														
II	I	I	I	II	3	2	2	I	1	2	I	1	1	I	1	1	I	1	I	1	1	1	2	1	-	1	I	1	1	I	1	1
簡略分級式			(畑) II p				(田) II p																									

A 土壌区の特徴

この土壌区は西扇山統に属する。表土の厚さは2.5～3.0cmで厚く、有効土層も1m以上で深い。表土は未風化小円礫を含む場合が多く、微粒質であるが粘性中庸で腐植含量は多く耕起、砕土はやや困難な程度である。水田では湛水性中庸で、還元性中庸で根系障害はない。畑は保水性大きく過干、過湿のおそれはない。保肥力大きく固定力中庸、土層の塩基状態は良好で自然肥沃度は高い。作土の養分は多

い。特殊な障害性として垂鉛欠乏の発生する恐れがある。地形は平坦で侵蝕は認められない。

B 植生および利用状況

畑、水田に利用されている。

C 地力保全上の問題点

生産性は高いが有機物の施用で地力維持を図ること。尚作物によっては垂鉛欠乏の発現する場合があります。かかる場合は適量の施用、或は葉面撒布を行うこと。

D 分布

北海道富良野市下五区、西扇山、学田

記載責任者 後 藤 計 二 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和49年3月31日

島 の 下 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15～20cmで腐植含量2～4%前後、土性はLiCである。未風化小、中円礫に富むが、一部凸状部は礫層となる場合があり、かかるところは土性はL～SLの場合が多い。色は10YRで彩度2～3、明度3～4。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度17で疎。pH(H₂O)6.0前後。下層境界は明瞭。

第2層は厚さ30～50cmで腐植含量2%以下、土性はSCLでSLの場合もある。未風化小、中円礫に富む～頗る富む。色は10YRで彩度3～4、明度4～6。細塊状構造で発達程度は弱度である。ち密度17～24で疎～中。pH(H₂O)5.5～6.0。下層境界判然。

第3層は厚さ40cm以て腐植含量2%以下、土性はSLでSの場合もある。未風化小、中、大円礫を含む～頗る富む。色は10YRで彩度4、明度4～6。単粒状。

代表的断面形態

所在地 北海道富良野市島の下 (畑)

第 1 層	0～20cm	腐植を含む灰褐(10YR3/2)のLiC、未風化小、中円礫に富む。発達弱度の粒状構造で孔隙に富む。ち密度17で疎。粘性中。pH(H ₂ O)6.0。透水良。調査時の湿り半乾。下層境界明瞭。
第 2 層	20～43cm	腐植を含む黄褐(10YR6/4)のLiC、未風化小、中円礫に富む。発達弱度の塊状構造で孔隙に富む。ち密度24で中、粘性やや強。pH(H ₂ O)、透水性良。調査時の湿り半乾。下層境界明瞭。
第 3 層	43～65cm	腐植を欠く黄褐(10YR4/3)のSCL、未風化小、中円礫に富む。

		む。単粒状で孔隙含む。ち密度1.7で疎。粘性弱。pH(H ₂ O) 5.5。透水性良。調査時の湿り半乾。下層境界判然。
第4層	6.5cm以下	腐植を欠く黄褐(10YR4/4)のSL、未風化小、中円礫を含む。単粒状で孔隙含む。粘性弱～なし、透水性良。調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量 %	粒 径 組 成 %				土 性	現 地 容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
				粗 砂	細 砂	シルト	粘 土							
1	0~20	2.3	30	18.5	30.2	26.0	25.3	LiC			2.35	0.10	23.5	4.1
2	20~43	3.0	30	15.4	26.5	32.8	25.3	LiC			1.24	0.10	12.4	2.2
3	43~65	4.3	30	33.2	31.7	16.8	18.1	SCL			0.80	0.06	13.3	1.4

層位	pH		置換酸度 Y1	塩 基 置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	有 効 態 磷 酸 mg/100g
	H ₂ O	KCL			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.0	4.8	0.5	16.5	12.4	1.64	0.82	90.1	590	46.4
2	6.0	4.5	1.0	16.0	12.8	1.37	0.38	90.9	770	2.4
3	5.5	4.0	10.6	16.7	8.5	2.88	0.10	68.7	830	0.8

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統に隣接する統として南島の下統がある。南島の下統は礫含量少なくかつ小さいこと、下層堅密で酸化沈積物があることにより区別される。

A-3 母 材 非固結変成岩(片岩、珪岩類)

A-4 堆積様式 水積(河成堆積)

B 地 形 波状を呈する低地。

C 気 候 年平均気温 6.5℃、年降水量 845mm

D 植生および利用状況

畑に利用され、西瓜、メロン等に全面利用されている。

E 農業上の留意事項

除礫を要する。また施設園芸が行われており、灌漑施設が望ましい。有機物の施用を図ること。

F 分 布

北海道富良野市島の下

調査および記載責任者 後 藤 計 二 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和49年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覽

土壤区名	簡略分級式
島の下	III g II t d p(w) i

② 土壤区別説明

島の下統——島の下統

示性分級式（畑）

土壤生産力可能性等級	有効土層の厚さ	表土の礫含量	耕土の難易	(表土の粘着力)	(表土の乾硬さ)	(土の透水性)	(水の潤滑度)	(自然肥力)	(固定力)	(土層の塩基状態)	(置換性)	(苦土里素)	(微酸量)	(物理的障害)	(増冠水の危険度)	(傾すべりの危険度)	(自然斜傾)	(人為斜傾)	(耐蝕性)	(耐風蝕性)	
t	d	g	p		w		f		n				i	a	s	e					
III	II	III	II	3	2	2	(II)	2	2	1	I	2	2	1	I	1	1	1	1	1	1
簡略分級式 III g II t d p(w) i																					

A 土壤区の特徴

この土壤区は島の下統に属する。表土の厚さは20cm前後で、有効土層は50～90cmでやや浅い。表土の礫含量は多く、土性は微粘質で農具は破損多く使いにくい。保水性中庸、透水性中庸で過干の恐れが多い。保肥力、固定力中庸、土層の塩基状態は良好で自然肥沃度は高い。作土の養分は多い。礫多く物理的障害がある。地形は波状平担、侵蝕は認められない。

B 植生および利用状況

畑に利用され、西瓜、メロン等に主に利用されている。

C 地力保全上の問題点

帯状に石礫が極めて多く除礫を要する。西瓜、メロン等施設園芸が行われており、灌漑施設が今後必要としよう。

D 分布

北海道富良野市島の下

記載責任者 後藤 計二 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和49年3月31日

麓 郷 統

(I) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ18~25cmで腐植含量2~5.5%前後、土性はCL~L、SLの場合もある。色は10YR~5Yで彩度1~3、明度2~4。未風化小、中、大円礫層。単一状および発達弱度の粒状構造。ち密度2.0~2.3で中。酸化沈積物あり。pH(H₂O)6.2~6.5。下層境界明瞭。

第2層は厚さ20~30cmで腐植含量2%以下、土性はCL~Lである。色は10YRで彩度3~6明度4~6。未風化小、中、大円礫を含む~礫層。発達弱度~中度の細塊状構造。ち密度1.6で疎。マンガ班あり、腐朽礫あり。pH(H₂O)5.5前後。下層境界明瞭。

第3層は厚さ30cm以上で腐植含量2%以下、土性はSLである。色は10YRで彩度3~4、明度4~6。未風化小、中、大円礫を含む~礫層。単粒状。ち密度2.4~2.8で中~密。腐朽礫あり。

代表的断面形態

所在地 北海道富良野市麓郷 (畑)

第1層	0~15cm	腐植に富む黄褐(10YR3/3~2/3)のCL、発達弱度の粒状構造或は単一状で孔隙含む。ち密度2.3で中。粘性弱。透水良。酸化沈積物あり。未風化小、中、大円礫層。pH(H ₂ O)6.2。調査時の湿り半乾。下層境界平坦明瞭。
第2層	15~20cm	腐植を含む灰褐(10YR4/1)のCL、単一状で孔隙あり。未風化小、中、大円礫層。ち密度2.0で中。粘性中。透水良。酸化沈積物あり。pH(H ₂ O)6.2。調査時の湿り半乾。境界明瞭。
第3層	20~50cm	腐植を欠く黄褐(10YR6/3)のCL、発達中度の塊状構造で孔隙とむ。未風化小、中円礫を含む。ち密度1.6で疎。粘性弱。透水やや不良。酸化沈積物含み、マンガ班あり。pH(H ₂ O)5.5。調査時の湿り半乾。境界明瞭。
第4層	50cm以下	腐植を欠く黄褐(10YR4/4~6/3)のSL、単粒状で孔隙あり、ち密度2.8で密。未風化小、中円礫を含む。粘性弱。透水性やや不良。調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 %	粒 径 組 成 %				土 性	現 地 容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
				粗 砂	細 砂	シルト	粘 土							
1	0~15	3.0	55	37.1	19.7	23.4	19.7	CL			3.09	0.24	12.9	5.4
3	20~50	3.8	10	30.7	22.8	26.8	19.7	CL			1.39	0.12	11.6	2.4
4	50	5.5	10	23.6	31.1	27.2	18.1	CL			0.68	0.05	13.6	1.2

層位	pH		置換酸度 Y1	塩 基 置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石 飽 和 度 %	磷 酸 吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.2	5.2	0.6	14.1	11.6	0.81	0.20	89.4	810	16.0
3	6.5	5.4	0.4	12.1	10.0	0.49	0.18	88.2	850	1.6
4	5.5	4.2	4.2	11.1	5.4	0.90	0.45	60.3	850	0.8

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統に隣接する統として東麓郷統、布礼別統がある。東麓郷統は石礫がなく、布礼別統は堆積様式を異にし、腐植含量が多いことにより夫々区別される。

A-3 母 材 非固結火成岩（凝灰岩質、安山岩質）

A-4 堆積様式 崩積（扇状土）

B 地 形 標高340~400mの平坦ならびに緩傾斜地。

C 気 候 年平均気温5.5℃、年降水量1,008mm

D 植生および利用状況

大部分畑に利用されているが、水田ともなっている。豆類、麦類、南瓜、タマネギ、ばれいしょ、てん菜、ブドウ等各種作物が栽培されている。

E 農業上の留意事項

石礫が多いため地温が上昇し、各種作物が栽培されているが、有機物の施用、塩基の補給を図るべきである。

F 分 布

北海道富良野市麓郷

調査および記載責任者 後 藤 計 二 木 村 清（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和49年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
麓 郷	畑IV g II tp(w)n 田III g II pln

② 土壤区別説明

麓 郷 統 —— 麓 郷 区

示 性 分 級 式 (畑)

	土	表	有	表	耕	(表	(表	土	(透	(保	(湿	自	(保	(固	(土	養	(置	(有	(微	(酸	障	(有	(物	災	(増	(地	傾	(自	(傾	(人	(侵	(耐	(耐
	壤	表	効	土	土	表	表	土	透	保	湿	然	保	固	土	養	置	有	微	酸	障	有	物	災	増	地	傾	自	傾	人	侵	耐	耐
	生	土	土	の	の	の	の	の	水	水	潤	肥	肥	塩	の	石	苦	加	効	量	害	理	害	冠	す	の	然	斜	為	水	風		
	産	の	の	の	の	の	の	の	性	性	度	力	力	状	豊	含	里	酸	要	害	質	障	害	の	危	の	傾	方	傾	蝕	蝕		
	力	層	層	の	の	の	の	の	性	性	度	力	力	状	豊	含	里	酸	要	害	質	障	害	の	危	の	傾	方	傾	蝕	蝕		
	可	能	性	厚	深	含	性	性	湿	度	度	力	力	状	豊	含	里	酸	要	害	質	障	害	の	危	の	傾	方	傾	蝕	蝕		
	能	性	厚	深	含	性	性	湿	度	度	力	力	状	豊	含	里	酸	要	害	質	障	害	の	危	の	傾	方	傾	蝕	蝕			
	等	級	さ	さ	量	易	性	性	湿	度	度	力	力	状	豊	含	里	酸	要	害	質	障	害	の	危	の	傾	方	傾	蝕	蝕		
	級	さ	さ	量	易	性	性	湿	度	度	力	力	状	豊	含	里	酸	要	害	質	障	害	の	危	の	傾	方	傾	蝕	蝕			
		t	d	g	p			w		f			n							i		a		s			e						
IV	II	I	IV	II	2	2	2	(II)	2	2	(2)	I	2	2	1	II	1	2	2	1	-	1	I	1	1	I	1	1	I	1	1	1	1
簡略分級式		(畑)IV g II tp(w)n (田)III g II pln																															

A 土壤区の特徴

この土壤区は麓郷統に属する。表土の厚さは18～20cmでやや薄い。有効土層は1m以上で深い。表土は小、中、大円礫に富む～礫層で細粒質であるが粘性は中～弱、農具の消耗多く使いにくい。畑は保水性中庸、透水性中庸であるが、礫多く過干の恐れがある。水田は湛水性があり、還元も中度で根系障害の恐れはない。保肥力、固定力中庸で土層の塩基状態はやや良好で自然肥沃度はやや高い。表土の養分はやや塩基少なく、石灰、苦土、加里の補給を要する。除礫を要する。地形はほぼ平坦で侵蝕は認められない。

B 植生および利用状況

農地に利用され、畑が大部分で一部水田にも利用されている。

C 地力保全上の問題点

水田にあっては灌漑水は河川がやや急流で水温低い。水温上昇施設を要する。

畑にあっては塩基にやや乏しく石灰、苦土、加里等の施用につとめること、堆肥等有機物の施用を図ることが必要である。

D 分布

北海道富良野市麓郷

記載責任者 後藤 計二 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和49年3月31日

布 礼 別 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ25～35cmで腐植含量5～7%、土性はCLである。色は10YRで彩度2～3、明度2～3。未風化小、中円礫を含む～富む。粒状構造で発達中～弱度である。ち密度12～23で疎～中。pH(H₂O)5.5～6.0。下層境界判然～漸変。

第2層は厚さ20～30cmで腐植含量3～5%、土性はSL～Lである。色は10YRで彩度4、明度は3～4。未風化小、中円礫を含む～富む。発達中～弱度の粒状～塊状構造。ち密度12～18で疎～中。pH(H₂O)5.9前後。下層境界判然或は明瞭。

第3層は厚さ40cm以上で腐植含量2%以下、土性はSL～Sである。色は10YRで彩度4、明度4～6。未風化小、中、大円礫に富む～礫層。単粒状でち密度は密。

代 表 的 断 面 形 態

所在地 北海道富良野市北麓郷 (水田転作)

第1層	0～15cm	腐植に富む黄褐(10YR2/3)のCL、未風化小、中円礫に富む。発達弱度の粒状構造で孔隙に富む。ち密度12で疎。粘性中。透水性良。pH(H ₂ O)5.6。調査時の湿り半乾。下層境界判然。
第2層	15～25cm	腐植に富む灰褐(10YR3/2)のCL、未風化小、中円礫を含む。単一状で酸化沈積あり。孔隙含み透水性は良。ち密度23で中。粘性中。pH(H ₂ O)5.8。調査時の湿り半乾。境界漸変。
第3層	25～45cm	腐植を含む黄褐(10YR3/4～4/4)のSL、未風化小、中円礫を含む。発達中～弱度の粒状、細塊状構造で孔隙富む。粘性中。ち密度12で疎。pH(H ₂ O)5.9。調査時の湿り半乾。境界判然。
第4層	45cm以下	腐植を欠く黄褐(10YR4/4)のSL、未風化小、中円礫層。ち密度は密。60cm～80cm以下から完全な砂礫層。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 %	粒 径 組 成 %				土 性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植
				粗 砂	細 砂	シルト	粘 土							
1	0～15	6.6	25	27.7	28.0	25.5	18.7	CL			3.23	0.23	14.0	5.6
2	15～25	4.8	10	32.6	21.6	24.1	21.7	CL			3.70	0.26	14.2	6.4
3	25～45	10.4	5	15.0	58.5	20.3	6.3	SL			2.68	0.18	14.9	4.6

層位	pH		置換酸度 Y1	塩基置換量 me/100g	置換性塩基me/100g			塩基飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態 mg/100g		30°C:NH ₄ -N g/100g		遊離酸化鉄 %
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			P ₂ O ₅	N	乾土	湿土	
1	5.6	4.6	1.3	18.0	8.9	0.84	0.21	52.3	1.540	4.5		6.0		1.50
2	5.8	4.9	0.5	18.2	13.0	1.00	0.30	78.6	1.240	8.2		3.5		1.33
3	5.9	5.1	0.6	18.0	6.9	0.54	0.22	42.6	2.100	2.6				1.78

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統に類似する統としては東麓郷統、麓郷統などがある。東麓郷統は腐植含量は少なく、土性も粗く礫の混在なく、東麓郷統は一層礫含量多く腐植含量やや少ないことにより夫々区分される。

A-3 母材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 水積(河成堆積)

B 地形 山麓低平地

C 気候 年平均気温 5.5℃ 年降水量 1,002mm。

D 植生および利用状況

大部分畑に利用され、豆類、てん菜、ばれいしょ等が栽培されているが、一部水田にも利用されている。

E 農業上の留意事項

畑は中、大礫が多いところが多く除礫がかなり進められているが、さらに除礫により、圃場整備により高率利用を図る必要がある。また塩基がやや乏しく、石灰、苦土、加里等の施用、有機物施用を図るべきである。

水田はやや漏水気味であること、水温が低いことがあげられる。水温上昇を図ると共に客土等により漏水防止を要する。

F 分布

北海道富良野市富丘、布礼別、麓郷

調査および記載責任者 後藤 計二、木村 清 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和49年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
布礼別	畑 II dgpfni 田 II gplfni

② 土壌区別説明

布礼別統——布礼別区

示 性 分 級 式 (畑、水田)

土	表	有	表	耕	(表	(表	湛	(作	酸	(遊	土	(透	(保	自	(保	(養	(置	(有	(有	(微	障	(有	災	(増	(地									
壤	土	効	土	土	表	表	水	土	土	離	地	透	湿	然	固	土	換	効	効	量	害	物	冠	す	地									
生	土	土	の	の	土	土	透	下	化	酸	の	水	水	肥	肥	の	石	苦	加	磷	窒	珪	害	水	の									
産	層	層	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の								
力	厚	含	深	易	性	性	性	密	元	量	量	度	性	性	度	力	力	状	豊	含	量	素	度	無	危	險								
可	さ	さ	さ	量	性	性	性	度	性	性	性	性	性	度	度	態	態	量	量	量	量	性	性	性	性	性								
能																																		
性																																		
等																																		
級	t	d	g	p			l		r		w		f		n							i	a											
	II	I	II	II	II	2	2	2	I	1	1	1	I	2	1	1	II	2	3	1	II	2	2	2	3	-	-	2	II	1	2	I	1	1
	簡略分級式 (畑) II dgp fni (田) II gplfni																																	

A 土壤区の特徴

この土壤区は布礼別統に属する。表土の厚さは2.5cm内外で厚いが、有効土層は4.5～6.0cmでやや浅い。表土は礫に富み、細粒質で粘性中庸であるが農具は使いにくい。畑は保水性大きく透水性はやや大きい。過干、過湿のおそれはない。水田は湛水透水性は中庸で根系の障害はない。保肥力中庸、固定力大きい。土層の塩基状態は良く自然肥沃度は中庸である。作土の養肥分は塩基にやや乏しい。地形はほぼ平坦で侵蝕は認められない。

B 植生および利用状況

一部石礫多く農地に利用不可能地があるが、大部分は畑と一部水田がある。

C 地力保全上の問題点

畑は除礫による耕地の全面利用による整備と、塩基の補給、有機物の施用を図る必要がある。水田は区画拡大と水温上昇施設の整備を要する。

D 分布

北海道富良野市富丘、布礼別、麓郷

記載責任者 後 藤 計 二 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和49年3月31日

上 達 布 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ2.5～4.0cmで腐植含量5～9%、土性はSL～Lである。色は7.5YR～1.0YRで

彩度 2、明度 2～4。未風化小円礫あり～含む。細塊状構造で発達程度は中度。ち密度 1.0～1.8 で疎。pH(H₂O)は 6.0 前後。ト層境界は判然する。

第 2 層は厚さ 40～60 cm で腐植含量 2% 以下。土性は L～ScL である。色は 1.0 YR で彩度 4～6、明度 5～7。未風化小、中円礫に富む～頗る富む。細塊状、塊状構造で発達程度は中度。ち密度 1.8～2.0 で中。pH(H₂O) 5.5 前後。

代表的断面形態

所在地 北海道富良野市東山つつじ（普通畑）

第 1 層	0～15 cm	腐植に富む黄褐（7.5 YR 3/2）の SL、発達中度の細塊状構造。未風化小円礫あり。孔隙富む。ち密度 1.0 で疎。粘性弱。透水性大。pH(H ₂ O) 5.9。調査時の湿り半乾。境界判然。
第 2 層	15～30 cm	腐植に富む黄褐（7.5 YR 3/2）の SL。発達中度の細塊状、塊状構造。未風化小円礫あり。ち密度 1.3 で疎。孔隙富み透水性大。粘性弱。pH(H ₂ O) 6.0。調査時の湿り半乾。境界判然。
第 3 層	30～50 cm	腐植に富む灰褐（1.0 YR 4/2）の L。発達中～強度の細塊状～塊状構造で細孔に富む。未風化小円礫あり。ち密度 2.0 で中。透水性大。粘性中。pH(H ₂ O) 5.5。調査時の湿り半乾。境界漸変。
第 4 層	50～100 cm	腐植を含む黄褐（1.0 YR 5/4）の ScL。発達弱度の細塊状、塊状構造で細孔含む。未風化小円礫あり。ち密度 1.8 で疎。透水性中。粘性中。pH(H ₂ O) 5.5。調査時の湿り半乾。境界明瞭。
第 5 層	100 cm～	礫層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 %	粒 径 組 成 %				土 性	現地容積 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
				粗 砂	細 砂	シルト	粘 土							
1	0～15	4.4	—	49.4	18.2	19.9	12.5	SL			3.72	0.26	14.3	6.4
2	15～30	4.2	—	48.6	18.9	18.0	14.5	SL			3.75	0.26	14.4	6.5
3	30～50	7.0	—	21.4	39.0	30.5	9.1	L			5.21	0.37	14.1	9.0
4	50～	6.9	—	21.4	48.1	13.8	16.7	ScL			2.37	0.18	13.2	4.1

層位	pH		置換酸度 Y1	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			塩基飽和度 %	燐酸吸収係数	有効態 me/100g		30°C: NH ₄ -N		遊離酸化鉄 %
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			P ₂ O ₅	N	乾 土	湿 土	
1	5.9	5.1	0.5	15.3	9.0	0.99	0.57	69.0	660	30.7		4.5		0.72
2	6.0	5.1	0.5	15.1	8.8	0.94	0.46	67.5	600	35.2		2.4		0.67
3	5.5	4.7	1.5	23.7	5.0	0.90	0.53	27.4	1580	4.9				
4	5.5	4.6	2.3	14.6	1.3	0.07	0.05	9.7	1180	4.4				

A-2 他の土壌統との関係

本土壌に類似する統として達布統、東山統などがある。達布統は土性細かく下層酸化沈積物が存在し、東山統は下層に泥炭或はグライム層が存在すること、また尙土壌統は河成堆積物であることにより、夫々区別される。

A-3 母材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 崩積

B 地形 2～5度の緩傾斜地或は低平地。

C 気候 年平均気温 5.5℃、年降水量 1,002mm

D 植生および利用状況 水田と畑に利用

E 農業上の留意事項

畑は豆類、ばれいしょ、てん菜等が栽培されているが、塩基の補給、有機物の施用を図るよう留意を要する。

水田は水温上昇を図ること等基盤整備を要する。

F 分布

北海道富良野市東山

調査および記載責任者 木村 清、後藤 計二（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和49年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
上 達 布	畑 II f 田 II l f

② 土壌区別説明

上達布統——上達布区

示 性 分 級 式 (水田)

土	表	有	有	耕	(表	(表	(表	湛	(作	(易	(遊	(グ	土	(透	(保	自	(保	(固	養	(置	(有	(有	(微	(酸	障	(有	(災	(地							
壤	効	効	効	効	表	表	表	水	土	分	離	ラ	地	透	湿	然	固	層	置	効	効	効	量	害	害	増	地								
生	土	土	土	土	土	土	土	土	土	化	酸	地	地	水	水	肥	肥	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の							
産	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層							
力	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の							
可	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚							
能	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深							
性	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易							
等	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量							
級	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ							
	t	d	g	p				l		r		w		f		n								i		a									
II	I	I	I	I	I	I	I	II	3	I	I	3	I	I	2	I	II	2	1	2	I	1	2	1	1	3	1	-	2	I	1	1	I	1	1
簡略分級式		(畑) II f		(田) II 1 f																															

A 土壌区の特徴

この土壌区は上達布統に属する。表土の厚さは25cm以上で有効土層も深い。表土は中粒質で粘性弱く耕耘、碎土は容易である。畑は保水性は中庸、透水性は大きく過干、過湿のおそれはない。水田は滯水透水性は中庸で根系障害のおそれはない。保肥力中、固定力小で土層塩基状態は良好で自然肥沃度は中庸である。作土は養分にやや富んでいる。特殊な障害性はない。地形は緩傾斜地であるが侵蝕は殆んど認められない。

B 植生および利用状況

水田、畑に利用され、畑は豆類、ばれいしょ、てん菜の他南瓜等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

畑は塩基の補給、有機物の施用を図るよう留意のこと、水田は基盤整備を推進し水温上昇を要する。

D 分布

北海道富良野市東山

記載責任者 後藤計二 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和39年3月31日

松 井 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ25cm内外で腐植含量5~7%、土性はLが主である。色は10YRが主で彩度2~3

明度 4～5。礫なく、粒状、細粒状の複合構造で発達程度は中度である。ち密度 1.0 内外ですこぶる疎、 $pH(H_2O)$ は 5.3 前後。下層との境界は明瞭である。

第 2 層は厚さ 2.0～2.5 cm で腐植含量 2～5%、土性は SiCL が主である。色は 2.5 Y～5 Y で彩度 1～2、明度 4～5。礫なく、塊状構造で発達程度は弱度のものが多い。細小孔を含む。ち密度は 1.8 前後で疎である。 $pH(H_2O)$ 5.3 前後。下層との境界はやや明瞭である。

第 3 層は厚さ 2.0～2.5 cm で腐植含量 2% 以下、土性は L～CL である。色は 2.5 Y が主で彩度 2～4、明度 4～5。礫なく、塊状構造で発達程度は弱度である。細小中孔を含む。糸根状の酸化沈積物を含み、ち密度は 1.5 前後で疎である。 $pH(H_2O)$ 5.3 前後。下層との境界は明瞭である。

第 4 層は地表下 7.0 cm 以下で腐植含量 2% 以下、土性は CL～C である。色は 2.5～7.5 G Y で彩度 1～2、明度 3～5。礫なく、均質連結状で細孔を含むものが多い。グライを呈し、ち密度は 1.5 前後で疎である。

代表的断面形態

所在地 空知郡南富良野町幾寅 46MF2

第 1 層	0～2.5 cm	腐植に富む黄褐色の L、発達中度の細粒状、粒状の複合構造、礫なく、ち密度 1.0 で疎、 $pH(H_2O)$ 5.3、調査時の湿り湿、境界平坦明瞭。
第 2 層	2.5～4.8 cm	腐植を含む灰色の SiCL、発達弱度の塊状構造、細小孔に富む、礫なく、ち密度 1.8 で疎、 $pH(H_2O)$ 5.3、調査時の湿り湿、境界やや明瞭。
第 3 層	4.8～7.0 cm	腐植を欠く灰褐色の L、発達弱度の塊状構造、細小中孔を含む、糸根状の酸化沈積物を含む、ち密度 1.4 で疎、 $pH(H_2O)$ 5.3、調査時の湿り湿、境界平坦明瞭。
第 4 層	7.0～	腐植を欠く青灰の C(手触)、均質連結状、細孔あり、グライを呈し、ち密度 1.5 で疎、調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 %	粒径組成 %				土性	現地 容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0～2.5	3.5		27.3	29.0	30.7	13.0	L			3.86	0.30	13	6.7
2	2.5～4.8	4.3		0.7	33.8	48.2	17.3	SiCL			2.59	0.17	16	4.5
3	4.8～7.0	5.5		20.8	41.2	30.7	7.3	L			—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y1	塩基 置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石飽和 灰度 %	磷 酸 吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.3	4.4	3.1	16.6	5.3	0.7	0.7	3.2	7.67	1.45
2	5.3	4.0	8.4	17.9	5.3	3.7	0.3	3.0	7.11	3.1
3	5.3	4.4	4.8	18.9	2.8	1.7	0.1	1.5	1.227	3.2

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としては、幾寅中央統、十梨別東統があるが、いずれも下層グライ層をもたないの
で区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 水積（河成堆積）

B 地 形 河川流域の平坦地

C 気 候

冬期積雪深く、夏季冷涼。年降水量845～1,179mm、農期間平均気温13.3～14.5℃、年平均
気温5.5～6.5℃、無霜期間132～142日。

D 植生および利用状況

大部分畑地に利用され、馬鈴薯、てん菜、にんじん、その他の畑作物が栽培されている。

E 農業上の留意事項

排水の完全実施と有機物施用が必要である。

F 分 布

空知郡南富良野町幾寅の一部

調査および記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和49年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
松 井	III w II t fn

② 土壌区別説明

松 井 統——松 井 区

示 性 分 級 式 (畑)

土	表	有	表	耕	(((土	((自	((養	(((障	(災	((傾	((侵	((土	
壤	表	効	土	耘	表	表	表	透	保	湿	然	保	固	土	置	"	"	効	有	物	增	地	傾	自	傾	人	侵	耐	耐	
生	土	土	の	の	土	土	土	水	水	潤	肥	定	塩	石	苦	加	燐	害	理	冠	す	然	斜	為	水	風	水	風		
産	層	の	の	粘	乾	乾	乾	性	性	度	沃	力	力	基	灰	土	里	酸	質	害	の	危	傾	傾	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕	
力	の	磔	難	土	の	の	の	性	性	度	沃	力	力	基	灰	土	里	酸	質	害	の	危	傾	傾	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕	
可	厚	含	性	性	性	性	性	性	性	度	沃	力	力	基	灰	土	里	酸	質	害	の	危	傾	傾	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕	
能	深	性	性	性	性	性	性	性	性	度	沃	力	力	基	灰	土	里	酸	質	害	の	危	傾	傾	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕	
性	等	量	量	量	量	量	量	量	量	度	沃	力	力	基	灰	土	里	酸	質	害	の	危	傾	傾	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕	
等	級	t	d	g	p			w			f			n				i		a		s			e					
級	III	II	I	I	I	2	2	1	III	2	2	3	II	2	1	2	II	2	2	1	1	-	2	I	1	1	I	1	1	1
	簡	略	分	級	式			III	w		II	t	f	n																

A 土壤区の特徴

この土壤区は松井統に属する。表土の厚さは25cm内外で中庸、有効土層は1m以上で深い。表土は中粒質で粘着性やや弱く耕起碎土は容易である。透水性、保水性中庸であるが地下水位高く、70cm内外からグライ層となるため過湿のおそれが多い。

保肥力中、固定力小、土層の塩基状態はやや低く、自然肥沃度は中位である。作土は石灰、苦土がやや少なく、下層土は石灰、燐酸が少なく酸性を呈する。特殊の障害性は存在せず、侵蝕のおそれもない。

B 植生および利用状況

大部分畑地に利用され、馬鈴薯、てん菜、にんじんその他の畑作物が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

排水不良を呈し、石灰、苦土がやや多く酸性を呈するので、明渠、暗渠排水の完備と酸性矯正、苦土の施用が必要であり、堆厩肥等有機物の施用もあわせて必要である。

D 分 布

北海道空知郡南富良野町幾寅の一部

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和49年3月31日

伊 勢 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm内外で腐植含量6%前後、土性はSLが主である。半風化小中角礫を含む～富む。色は10YRが主で彩度3～4、明度3～4。細粒状構造で発達程度は弱のことが多い。ち密度20前後で中、pH(H₂O)5.7前後、下層との境界は平坦明瞭である(Ta-a火山灰を混入)

第2層は厚さ20cm内外で腐植含量4～5%、土性はSiCL～CLである。半風化小中角礫を含む。色は10YRが主で彩度4～6、明度4～6。細塊状構造で発達程度は中～強度である。細孔を含む。ち密度20～24で中、pH(H₂O)6.0前後、下層との境界は波状明瞭である。

第3層は厚さ15～20cmで腐植含量3%前後、土性はLiCが主である。半風化小中角礫あり～含む。色は10YRが主で彩度3～5、明度4～6、粒状と細塊状の複合構造で発達程度は中度のことが多い。ち密度20～23で中、pH(H₂O)5.7前後、下層との境界はやや明瞭である。

第4層は地表下おおむね50cm以下で、未風化、半風化細、小、中、大半角、角礫からなる礫層である。礫は砂岩および弱い変成を受けた砂岩が多い。

代表的断面形態

所在地 空知郡南富良野町 46MF8

第1層	0～15cm	腐植に富む黄褐(10YR3/4)のSL、半風化小、中角礫を含む、発達弱度の細粒状構造、ち密度21で中、pH(H ₂ O)5.7、調査時の湿り湿、境界平坦明瞭(Ta-a火山灰がかなり混入)。
第2層	15～38cm	腐植を含む黄褐(10YR5/6)のSiCL、半風化小、中角礫あり、発達強度の細塊状構造、ち密度23で中、pH(H ₂ O)6.0、調査時の湿り半乾、境界波状明瞭。
第3層	38～50cm	腐植を含む黄褐(10YR5/4)のLiC、半風化細、小、中角礫あり、発達中度の粒状、細塊状の複合構造、細孔を含む、ち密度22で中、pH(H ₂ O)5.7、調査時の湿り湿、境界やや明瞭。
第4層	50～	半風化、未風化細、小、中、大半角、角礫からなる礫層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 %	粒 径 組 成 %				土 性	現 地 容積重 _g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0～15	3.0		69.1	10.7	9.6	10.6	SL	118.2	2.73	3.84	0.27	14	6.6
2	15～38	6.3		17.4	14.0	51.2	17.4	SiCL	115.6	2.71	2.99	0.22	13	5.1
3	38～50	5.7		14.0	23.4	33.3	29.3	LiC	119.1	2.42	2.10	0.15	14	3.6

層位	pH		置換酸度 Y1	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石飽和度 %	燐酸吸収係数	有効態燐酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.7	4.7	1.4	11.9	5.8	0.4	0.3	4.9	4.95	6.2
2	6.0	4.6	2.6	16.5	5.3	2.1	0.1	3.2	1.280	6.4
3	5.7	4.3	9.0	15.2	1.4	0.7	0.1	9	1.208	5.3

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としては、内藤統、下金山西統がある。内藤統は礫層の出現がなく、下金山西統はグライ層が存在するので本統と区別される。

A-3 母材 固結水成岩（砂岩、弱変成砂岩）

A-4 堆積様式 水積（扇状推土）

B 地形 丘陵地裾部の緩傾斜～傾斜を呈する扇状地。

C 気候

冬期の積雪多く、夏期冷涼。農期間平均気温 13.3～14.5℃、年平均気温 5.5～6.5℃、年間降水量 845～1,179mm、無霜期間 132～145日

D 植生および利用状況

大部分耕地に利用され、一部馬鈴薯、豆類が栽培されているが、大部分は牧草その他の飼料作物が栽培されている。

E 農業上の留意事項

水蝕発生のおそれがあるから防止対策を要する。一方地力維持のため有機物の施用が必要である。また草地では苦土の施用を考慮すること。

F 分布

北海道空知郡南富良野町かなや湖畔の一部

調査および記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和49年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
伊 勢	II t d g f n s e

② 土壌区別説明

伊 勢 統 —— 伊 勢 区

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表 効 土 の 層 の 厚 深 さ	有 効 土 の 層 の 厚 深 さ	表 土 の 粘 土 含 量	耕 土 の 粘 土 含 量	(表 土 の 粘 土 含 量)	(表 土 の 粘 土 含 量)	土 地 の 乾 燥 性	(透 水 性)	(保 水 性)	自 然 沃 沃 度	(保 固 力)	(固 定 力)	養 分 の 基 状 態	(置 換 性)	(苦 土 含 量)	(加 里 含 量)	(微 量 元 素)	(酸 性)	障 害 物 質 の 有 無	(災 害 の 危 険 度)	(地 す べ り の 危 険 度)	傾 斜 の 傾 方	(傾 斜 の 傾 方)	侵 蝕 の 傾 方	(侵 蝕 の 傾 方)	(耐 風 蝕 性)	(耐 水 蝕 性)										
	t	d	g	p		w		f				n						i		a		s			e												
II	II	II	II	I	I	I	I	I	2	1	II	2	1	2	II	2	3	2	2	-	2	I	1	1	I	1	1	1	1	II	2	-	-	II	1	2	1
簡略分級式 II tdgfnse																																					

A 土壤区の特徴

この土壤区は伊勢統に属する。表土の厚さは15～20cmで中庸、有効土層も50cm内外で中庸である。表土の土性は中粒質で粘着性弱く耕起碎土は容易である。保水性中庸、透水性大で一般に過湿、過乾のおそれは少ないが、礫層の浅いところ、表層からの礫含量が多いところでは過乾のおそれがある。

保肥力中、燐酸固定力小、土層の塩基状態中庸で自然肥沃度は中位である。作土は燐酸および石灰、加里、苦土等の塩基がやや少い。作土が樽前山の火山灰(Ta-a)よりなっているところでは苦土が不足するおそれがあり、また加里の流亡も著しいので、草地ではこの点に留意する必要がある。地形は傾斜を有し水蝕発生のおそれがある。

B 植生および利用状況

畑および草地に利用されている。

C 地力保全上の問題点

水蝕防止対策、有機物施用による地力維持ならびに苦土を中心とする塩基の補給を要する。

D 分布

北海道空知郡南富良野町かなや湖畔の一部

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和49年3月31日

南 島 の 下 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15～20cmで腐植含量は5～7%、土性はLiCが主でCLの場合もある。色は10YRで彩度2～3で明度2～4。未風化小、中円礫を含む～富む。細塊状構造で発達程度は弱である。ち密度1.1前後で疎。pH(H₂O)6.0前後。下層との境界は判然。

第2層は厚さ20～50cmで腐植含量は2～4%、土性はLiCである。色は10YRで彩度2～4、明度4～7。未風化小円礫を含む～富む。細塊状或は均質連結状で、ち密度2.2～2.4で中。酸化沈積物を含む。pH(H₂O)6.0前後。下層との境界は判然或は明瞭。

第3層は厚さ50cm以上で腐植含量2%以下。土性はCL～Lで、色は10YRで彩度3～6、明度7～8。未風化小円礫に富む～頗る富むで均質連結状。ち密度は密。酸化沈積を富む。湧水する場合多い。

代 表 的 断 面 形 態

所在地 北海道富良野市下五区（普通畑）

第 1 層	0～21cm	腐植に富む黄褐(10YR3/2)のLiC。発達弱度の細塊状構造で細孔に富む。未風化小円礫を含む。ち密度1.1で疎。粘性やや大。透水性大。pH(H ₂ O)6.2。調査時の湿り半乾。下層との境界判然。
第 2 層	21～40cm	腐植を含む灰褐(10YR4/1)のLiC。発達微弱な柱状構造で細孔なし。ち密度1.8で中。風化小円礫あり。マンガンの班紋あり。粘性大。透水性小。pH(H ₂ O)5.5。調査時の湿り半乾。下層との境界明瞭。
第 3 層	40～65cm	腐植を含む黄褐(10YR5/4)のLiC。未風化小円礫を含む。均質連結状。ち密度2.2で中。粘性大。透水性小。調査時の湿り潤で湧水。pH(H ₂ O)5.9。下層境界明瞭。
第 4 層	65cm～	腐植を欠く黄褐(10YR7/6、7/3)の紋様状。礫土でCLを混入。ち密度密。透水性小。酸化沈積物に富み、マンガン班含む。調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 %	粒 径 組 成 %				土 性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植
				粗 砂	細 砂	シルト	粘 土							
1	0~2.1	5.2	7	24.1	20.4	19.0	36.5	LiC			36.2	0.30	12.1	6.3
2	2.1~4.0	5.8	-	7.9	20.9	31.7	39.5	LiC			2.10	0.10	2.10	3.6
3	4.0~6.5	5.3	10	14.7	21.7	29.6	44.0	LiC			1.25	0.09	13.9	2.2

層位	pH		置換酸度 Y1	塩基置換量 me/100g	置換性塩基 me/100g			塩飽和 %	磷酸吸 収係数	有効態 me/100g P ₂ O ₅
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.2	5.3	0.4	24.0	17.9	1.81	1.11	86.8	500	66.2
2	5.5	4.3	2.1	23.0	10.2	4.32	0.42	65.0	580	4.7
3	5.9	4.6	0.6	21.2	8.4	10.36	0.15	89.0	580	4.2

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統に類似する統として島の下統、下御料統、御料統等がある。島の下統は礫の混入が著るしく多く堆積様式を異にすることにより、下御料統は同様に變成岩を母岩とするが酸化沈積物がなくち密度も膨軟であることにより、上御料統は同様に變成岩を母岩とし酸化沈積物が認められるが、ち密度は膨軟で堆積も新しいことにより区別される。

A-3 母 材 非固結變成岩(片岩類)

A-4 堆積様式 崩 積

B 地 形 標高100~200mの台地状の緩傾斜~平坦。

C 気 候 年平均気温6.5℃、年降水量845mm。

D 植生および利用状況 果樹(主としてリンゴ)および畑として豆類、南瓜が栽培されている。

E 農業上の留意事項

礫は甚だ堅く農機具の損耗に留意を要する。また暗渠は施行されているが、40~50cm以下が甚だ堅密で一時的に過干、過湿の害をうける。心土破碎、心土耕により下層土の膨軟化を図ることを要する。

F 分 布

北海道富良野市下五区、島の下。

調査および記載責任者 後 藤 計 二 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和49年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
南 島 の 下	III p II tgwi

② 土壤区別説明

南島の下統——南島の下区

示性分級式（畑）

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表 効 土 層 の 厚 深 さ	有 効 土 の 層 の 深 さ	表 土 の 粘 土 含 量	耕 転 の 難 易	（表土の風乾の硬さ）	（表土の水分）	（透水性）	（保湿度）	（自然肥沃度）	（自保力）	（固土力）	（養分含量）	（置換性）	（苦土量）	（加酸要否）	（微酸量）	（障害物質の有無）	（物理的障害の危険性）	（災害冠すべりの危険度）	（傾地すべりの危険度）	（傾斜の傾方）	（侵入の傾方）	（侵入の傾方）	（耐水性）	（耐風蝕性）										
	t	d	g	p		w			f			n				i	a	s				e													
Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	3	2	3	Ⅱ	3	2	2	Ⅰ	1	1	1	Ⅰ	1	1	1	1	—	Ⅱ	1	2	Ⅰ	1	1	Ⅰ	1	—	—	Ⅰ	1	1	1
簡略分級式 Ⅲ p Ⅱ t g w i																																			

A 土壤区の特徴

この土壤区は南島の下統に属する。表土の厚さは15～25cmで薄いが有効土層は1mで深い。表土は礫を含む～富み、微粒質で粘性強く耕起、碎土はやや困難である。保水性は中庸であるが透水性は小さく、過干、過湿の恐が多い。自然肥沃度は高く、作土の養分も富んでいる。特殊の障害性はない。地形はほぼ平坦で侵蝕は認められないが、下五区の一部は侵蝕の認められるところが一部にある。

B 植生および利用状況

果樹園（リンゴ）および普通畑。

C 地力保全上の問題点

下層土が堅密で40～50cm以下不透水層となっている。心土耕、心土破碎により下層土の膨軟化を図り、さらに暗渠による迅速な排水を図る必要がある。蛇紋岩が混合し苦土は下層程多いが、堆積が古く特殊な障害性はない。

D 分布

北海道富良野市下五区、島の下。

記載責任者 後藤計二（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和49年3月31日

御 料 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15～20cmで腐植含量5～8%、土性はLiC～CLである。色は10YRで彩度1～3、明度2～3。未風化小、中、大半角礫を含む～頗る富む。粒状構造で発達程度は弱度、ち密度は1.8～2.0で中。pH(H₂O)6.0前後。下層境界は判然～漸変。

第2層は厚さ10～20cmで腐植含量2～4%で膜状に流下。土性はLiC～CLである。色は10YRで彩度2～3、明度6～7。未風化小、中、大半角礫に富む～頗る富む。粒状、細塊状で発達程度は弱度。ち密度2.4で中。酸化沈積物あり。pH(H₂O)5.5前後。下層境界判然。

第3層は厚さ60cm以上で腐植含量2%以下。土性はCL～SL。色は10YR～5Yで彩度2～3、明度5～8。未風化小、中、大半角礫に頗る富む～礫土。ち密度中～密。酸化沈積物あり～含む。

代表的断面形態

所在地 北海道富良野市中御料 (メロン畑)

第1層	0～15cm	腐植に富む黄褐(10YR3/3)のLiC。発達弱度の粒状構造。未風化小、中、大半角礫に富む。ち密度1.8で中。細孔に富む。粘性やや強。透水性大。pH(H ₂ O)5.8。調査時の湿り半乾。境界漸変。
第2層	15～30cm	腐植を含む黄褐(10YR6/3～6/2)のLiC。発達弱度の粒状、細塊状構造。未風化小、中、大半角礫に富む。細孔に富む。粘性やや強。透水性はやや小。酸化沈積物あり。PH(H ₂ O)5.5。調査時の湿り半乾。境界判然。
第3層	30cm～	腐植を欠く灰(5Y7/2)のCL。均質連結状で、細孔なし。未風化小、中、大半角礫に頗る富む。粘性強で透水性小。酸化沈積物に富む。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 %	粒 径 組 成 %				土 性	現 地 容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
				粗 砂	細 砂	シルト	粘 土							
1	0～15	4.3	3.0	2.01	18.1	27.5	34.3	LiC			3.75	0.33	11.4	6.5
2	15～30	4.3	2.5	12.7	22.6	34.0	30.7	LiC			2.08	0.19	11.0	3.6

層位	pH		置換酸度 Y1	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			塩飽和基度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 me/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.8	4.9	0.6	23.2	7.5	2.80	1.40	50.4	910	50.4
2	5.5	4.2	4.3	17.0	6.8	1.73	0.51	53.2	930	2.4

A-2 他の土壌統との関係

本土壌に類似する統として上御料統、南島の下統、山部統等がある。上御料統は表土の腐植含量多いことにより、南島の下統は礫が円礫を呈し、下層のち密度が大きいことにより、山部統は酸化沈積物が無いことにより夫々区分される。

A-3 母材 非固結變成岩（花崗岩、硬砂岩、片岩類）。

A-4 堆積様式 崩積

B 地形 3～5度の緩傾斜地

C 気候 年平均気温 6.5℃、年降水量 845mm。

D 植生および利用状況

畑に利用され、西瓜が大部分で一部メロン、南瓜がある。

E 農業上の留意事項

山麓の麓部に位置し、かつ下層堅密で透水性小さく湿性を呈するので、暗渠による排水の完備を要する。塩基に欠乏しやすく、これらの補給と有機物の施用につとめる必要がある。

F 分布

北海道富良野市御料

調査および記載責任者 後藤計二（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和49年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
御料	畑 II tgpws 田 II gpw

② 土壌区別説明

御料統——御料区

示 性 分 級 式 (畑)

土	表	有	表	耕	(表	(表	土	(透	(保	(自	(固	(養	(置	(有	(微	(酸	障	(有	(災	(增	(地	傾	(自	(傾	(人	侵	(耐	(耐
壤	表	効	土	土	表	表	地	水	水	然	肥	定	塩	石	苦	加	磷	害	物	冠	す	然	斜	為	水	風		
生	土	土	の	の	の	の	乾	乾	沃	沃	力	力	基	灰	土	里	酸	要	質	害	の	危	傾	傾	蝕	蝕		
産	の	の	の	の	の	の	性	性	性	度	度	態	量	含	含	含	素	度	無	性	性	斜	向	斜	度	性		
力	層	層	の	の	の	の	性	性	度	度	力	力	基	量	量	量	素	性	性	性	性	斜	向	斜	度	性		
可	厚	深	含	難	性	性	性	性	度	度	力	力	基	量	量	量	素	性	性	性	性	斜	向	斜	度	性		
能	さ	さ	量	易	性	性	性	性	度	度	力	力	基	量	量	量	素	性	性	性	性	斜	向	斜	度	性		
性	さ	さ	量	易	性	性	性	性	度	度	力	力	基	量	量	量	素	性	性	性	性	斜	向	斜	度	性		
等	さ	さ	量	易	性	性	性	性	度	度	力	力	基	量	量	量	素	性	性	性	性	斜	向	斜	度	性		
級	さ	さ	量	易	性	性	性	性	度	度	力	力	基	量	量	量	素	性	性	性	性	斜	向	斜	度	性		
	t	d	g	p			w			f		n					i	a	s		e							
II	II	I	II	II	3	2	2	II	2	2	2	I	2	2	1	I	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
簡略分級式		II		tgpw																								

A 土壤区の特徴

この土壤区は御料統に属する。表土の厚さは15~20cmで薄い。が有効土層は1m以上で深い。表土の礫含量多く、微粒質で粘性やや強く農具が使いにくい。保水性は中庸、透水性は小さく、土壤は過干過湿のおそれが多い。保肥力、固定力共に中で土層の塩基含量多く自然肥沃度は高い。作土は養分に富む。特殊な障害性はない。地形は緩傾斜地であるが侵蝕の程度は少ない。

B 植生および利用状況

畑に利用され、西瓜が大部分である。

C 地力保全上の問題点

浸透水が多く排水の完備を要する。また塩基が欠乏しやすく、有機物の施用と合せて留意のこと。

D 分布

北海道富良野市御料

記載責任者 後藤計二 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和49年3月31日

上 御 料 統

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ25～35cmで腐植含量は7～12%、土性はSC～Lである。色は10YR～5Yで彩度1、明度1.7～2。未風化小、中、大半角礫を含む～富む。粒状～細塊状構造で発達程度は弱度である。ち密度は1.3～1.5で疎。pH(H₂O) 6.0～6.5前後。下層との境界明瞭～判然。

第2層は厚さ15～35cmで腐植含量は1.5～3%、土性はCL～SLである。色は10YRで彩度3～6、明度4～6。未風化小、中、大半角礫を含む～頗る富む。均質連結状で細孔は含む。酸化沈積物を含む。ち密度は中。pH(H₂O) 6.8前後。下層との境界明瞭。

第3層は厚さ50cm以上で腐植含量は2%以下、土性はL～SL。未風化小、中、大半角礫に頗る富む～礫土。均質連結状で細孔あり。酸化沈積物あり。ち密度中。

代表的断面形態

(所在地) 北海道富良野市上御料(普通畑)

第1層	0～19cm	腐植に頗る富む黒(10YR1.7/1)のSC。発達弱度の粒状構造。未風化小、中、大半角礫を含む。ち密度1.3で疎。粘性中。細孔に富み透水性大。pH(H ₂ O) 6.3。調査時の湿り半乾。下層との境界判然。
第2層	19～32cm	腐植に富む黒(5Y2/1)のCL。発達弱度の粒状構造。未風化小、中、大半角礫あり。ち密度1.5で疎。粘性中。細孔に富み透水性中。酸化沈積物あり。pH(H ₂ O) 6.6。調査時の湿り半乾。下層境界明瞭。
第3層	32～60cm	腐植を欠く黄褐(10YR4/3)のSCL。均質連結状で細孔に富む。未風化小、中、大半角礫に富む。ち密度1.6で疎。粘性弱。酸化沈積物あり。透水性中。pH(H ₂ O) 6.8。調査時の湿り半乾。下層境界明瞭。
第4層	60cm～	腐植を欠く黄褐(10YR6/3)のSL。均質連結状で細孔とむ。粘性弱。未風化小、中、大半角礫の礫土。湧水位65cm。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0～19	4.9	7	34.6	21.7	17.3	26.4	SC	5.93	0.38	15.6	10.3
2	19～32	7.7	—	10.2	42.5	26.4	20.8	CL	4.19	0.24	17.5	7.3
3	32～60	5.3	30	30.6	38.9	14.6	16.0	SCL	0.84	0.06	14.0	1.5

層位	P H		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石飽和度 %	磷酸 吸収系数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.3	5.3	0.4	32.6	1.80		0.27	55.2	1.110	23.2
2	6.6	5.6	0.3	35.3	7.0	0.59	0.08	19.3	1.310	1.6
3	6.8	5.7	0.3	19.1	3.7		0.05	19.4	96.0	1.6

A-2 他の土壌統との関係

本土壌に類似する統として御料統、下御料統、山部統などがある。御料統とは同一の母材、堆積様式であるが御料統の方が湿性の程度が著るしく、下御料統および山部統は酸化沈積物がなくそれぞれ区分される。

A-3 母材 非固結度成岩（花崗岩、硬砂岩、片岩類）

A-4 堆積様式 崩積

B 地形 3～5度の傾斜地

C 気候 年平均気温 6.5℃。年降水量 845mm

D 植生および利用状況

畑に利用され西瓜が栽培されている。

E 農業上の留意事項

塩基特に苦土、加里が乏しくこれらの補給、有機物の施用につとめること。また時期的に湿性を呈し、排水を完備することを要する。

F 分布 北海道富良野市御料

調査および記載責任者 後藤 計二（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和49年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
上御料	Udgpwfnis

② 土壌区別説明

上御料統 —— 上御料区

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表 効 土 の 層 の 厚 深 さ	有 効 土 の 磔 量	耕 土 の 難 易	(表土の風乾性) 粘土着 性(湿)	(表土の乾燥性) 乾性(湿)	土 透 水 性	(自保潤) 然 沃	(自保肥) 力(度)	(固定) 力(度)	(養分) 基 状 態	(置換) 石 灰 含 量	(有微) 苦 土 素	(有微) 加 里 素	障 害 物 質 の 有 無	(災) 冠 水 の 危 險	(傾) 地 す べ り の 危 険	(傾) 自 然 傾 斜 方 向	(侵) 人 為 傾 斜 地	(侵) 水 蝕 性	(耐) 風 蝕 性												
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e																					
II	I	II	II	II	3	2	2	II	1	2	2	II	1	2	2	1	-	1	II	1	2	I	1	1	II	2	-	-	I	1	1	1
簡略分級式		II d g p w f n i a s e																														

A 土壤区の特徴

この土壤区は上御料統に属する。表土の厚さは25～35cmで厚いが、有効土層は50～70cmでやや浅い。表土は未風化小、中、大半角磔を含む～富み、微粒質～中粒質で粘性は中庸であるが農具は使いにくい。保水性は中庸、透水性は中庸であるが時期的に湿性を呈する。保肥力大、固定力中、土層塩基状態中で自然肥沃度は中位である。作土の養分は苦土、加里にやや乏しい。地形は緩傾斜地であるが侵蝕はほとんど認められない。

B 植生および利用状況

畑で西瓜が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

時期的に湿性を呈し排水を完備すること。また灌漑施設の整備を要する。また苦土、加里等塩基の補給、有機物の施用に留意を要す。

D 分布 北海道富良野市御料

記載責任者 後藤計二 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和49年3月31日

下 御 料 統

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ25～32cmで腐植含量5～7%、土性はCLである。色は10YRで彩度2～3、明度3～4。未風化小、中半角磔を含む～富む。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度疎である。pH (H₂O) 5.4～6.0。下層との境界は判然或は明瞭である。

第2層は厚さ20～35cmで腐植含量3～5%、土性はCL～LiCである。色は10YRで彩度3～6、明度3～5。未風化小、中半角礫層。塊状構造で発達程度は弱度で、中度的場合もある。ち密度は疎である。pH(H₂O)5.2～5.5。下層との境界判然～漸度。

第3層は厚さ50cm以上で腐植含量は2%以下、土性はSL～Lで一部CLの場合もある。色は10YRで彩度3～5、明度5～6。未風化小、中半角礫層。塊状構造或は均質連結状である。ち密度中。

代表的断面形態

(所在地) 北海道富良野市中御料(普通畑)

第1層	0～20cm	腐植に富む黄褐(10YR4/2)のCL、発達弱度の粒状構造で細孔に富む。未風化小、中半角礫に富む。ち密度2.2で中。粘性中。透水性大。pH(H ₂ O)5.4。調査時の湿り半乾。境界判然。
第2層	20～32cm	腐植を含む黄褐(10YR4/4)のLiC。発達中度の塊状構造で細孔に富む。未風化小、中半角礫に頗る富む。ち密度9で疎。粘性やゝ大。透水性大。pH(H ₂ O)5.2。調査時の湿り半乾。境界明瞭。
第3層	32～60cm	腐植を含む黄褐(10YR3/3)のLiC。未風化小、中半角礫層。土壌は発達弱度の塊状構造で細孔に富む。ち密度中。粘性やゝ大。透水性やゝ大。pH(H ₂ O)4.9。調査時の湿り半乾。境界漸変。
第4層	60cm～	腐植を欠く黄褐(10YR6/3)のSL。未風化小、中半角礫層。発達弱度の塊状構造で細孔に富む。ち密度中。粘性中。透水性中。pH(H ₂ O)5.1。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重 %	粒 径 組 成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0～20	2.6	20	33.6	18.0	23.5	24.8	CL	3.85	0.25	15.4	6.7
2	20～32	2.9	40	15.7	16.4	36.7	31.2	LiC	2.65	0.19	14.0	4.6
3	32～60	3.8	55	23.5	18.1	30.0	28.4	LiC	2.41	0.19	12.7	4.2
4	60～	2.9	55	21.3	45.7	21.5	11.6	SL	0.47	0.06	7.8	0.8

層位	pH		置換酸度 Y ₁	基 置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石 飽 和 灰 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	有 効 態 磷 酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.4	4.2	2.4	17.0	7.2	1.97	0.83	5.88	6.50	6.96
2	5.2	4.0	9.9	14.7	5.1	1.64	0.21	47.3	7.90	5.6
3	4.9	4.0	20.8	18.0	3.0	0.94	0.14	22.7	10.70	2.4
4	5.1	3.9	26.9	14.7	3.2	2.14	0.17	37.5	1.110	1.6

A-2 他の土壌統との関係

本土壌に類似する統としては御料統、上御料統がある。御料統、上御料統共に下層に酸化沈積物があり湿性を呈するので本土壌統と区分することができる。

A-3 母材 非固結変成岩（花崗岩、硬砂岩、片岩類）

A-4 堆積様式 崩積

B 地形 緩傾斜地

C 気候 年平均気温 6.5℃、年降水量 845mm。

D 植生および利用状況 畑に利用され、スイカが主に栽培されている。

E 農業上の留意事項

下層は礫層となるが細、中粒質の土壌が混在し早害のおそれは少ないが、一部砂礫層となるところがあり、灌漑施設が施設野菜の栽培にあたり必要であろう。土壌はやゝ酸性を呈し、塩基の補給、有機物の施用を心掛けるべきである。

F 分布 北海道富良野市御料

調査および記載責任者 後藤 計二（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和49年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
下 御 料	Ⓔ II d g p i s Ⓔ II g p l

② 土壌区別説明

下 御 料 統 —— 下 御 料 区

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表 土 の 厚 さ	有 効 土 層 の 深 さ	表 土 の 粘 着 性	耕 土 の 難 易	(表 土) 乾 硬 性 湿	(表 土) 粘 着 性 湿	(土 地) 乾 硬 性 湿	(透 水) 性 度	(保 湿) 性 度	(自 然) 沃 力 度	(保 固) 力 度	(土 層) 力 度	(養 分) 状 態 量	(置 換) 石 灰 量	(有 機) 苦 土 素	(微 酸) 加 里 酸 度	(障 害) 物 質 有 無 性	(災 害) 物 質 有 無 性	(增 冠) 水 危 險 度	(地 冠) す べ り の 危 険 度	(傾 斜) 然 傾 斜 向 斜	(傾 斜) 方 向 斜 傾 斜	(侵 蝕) 為 傾 斜 向 斜	(侵 蝕) 度 性 性	(耐 蝕) 水 風 蝕 性	(耐 蝕) 風 蝕 性								
	t	d	g	p		w			f			n					i		a		s		e											
II	I	II	II	2	2	2	I	2	2	1	I	2	1	2	I	1	1	1	1	2	II	1	2	I	1	1	II	2	-	-	I	1	1	1
簡略分級式		㊦ II degpis												㊦ II gpl																				

A 土壤区の特徴

この土壤区は下御料統に属する。表土の厚さは25cm内外で、有効土層は70～100cm内外でやゝ薄い。表土は礫に富む～頗る富み、細粒質で粘性中庸で農具は使いにくい。透水性は良いが保水性中庸で、過干、過湿のおそれは少ないが、地温上昇し灌漑の効果が認められる。保肥力中、固定力小であるが土層の塩基状態は中庸で自然肥沃度は中庸からやゝ低いが肥効が大きい。表土は養分が富んでいるが、やゝ酸性である。地形は緩傾斜地であるが、侵蝕はあまり認められない。

B 植生および利用状況

耕地に利用され野菜畑が多く、一部水田にも利用されている。

C 地力保全上の問題点

施設野菜の栽培が多く、多肥栽培が行われていることから、雑用水、灌漑等から灌漑施設の設置が望ましい。酸性を呈し、塩基の補給、有機物の施用に留意すべきである。

D 分布 北海道富良野市御料

記載責任者 後 藤 計 二 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和49年3月31日

北 山 部 統

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ25～30cmで腐植含量4%内外、土性はLiCである。色は10YR～2.5Yで彩度2、明度2～4。未風化小半角礫を含む～富む。粒状、細塊状構造で発達は弱度である。ち密度は1.3～2.0で疎～中。pH(H₂O)6.0前後。下層との境界は判然。

第2層は厚さ25～30cmで腐植含量は2%以下、土性はCL～LiCである。色は10YRで彩度3～4、明度4～5。未風化小半角礫を含む～富む。細塊状構造で発達は中度である。ち密度17～20で疎～中。pH(H₂O)6.5前後。下層との境界判然～明瞭。

第3層は厚さ40cm以上で腐植含量2%以下、土性はCLである。未風化小半角礫に頗る富む～礫層。色は10YRで彩度3～4、明度5。細塊状構造で発達弱度である。ち密度中。

代表的断面形態

(所在地) 北海道富良野市山部(普通畑)

第1層	0～25cm	腐植を含む灰(2.5Y4/2)のLiC。発達弱度の粒状構造で細孔に富む。未風化小半角礫を含む。ち密度21で中。粘性やや強。透水性良。pH(H ₂ O)6.1。調査時の湿り半乾。下層境界判然。
第2層	25～50cm	腐植を欠く黄褐(10YR5/4)のCL。発達中度の粒状、細塊状構造で細孔、小孔に富む。ち密度20で中。粘性やや強。透水性良。pH(H ₂ O)6.4。調査時の湿り半乾。境界明瞭。
第3層	50cm～	腐植を欠く黄褐(10YR5/4)のCL。発達弱度の細塊状構造で細孔に富む。未風化小、中半角礫層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 %	粒径組成%				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0～25	3.9	7	18.3	32.5	16.4	32.8	LiC	2.12	0.17	12.5	3.7
2	25～50	4.1	—	10.8	44.6	24.6	20.0	CL	0.99	0.08	12.4	1.7

層位	pH		置換酸度 Y _i	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石飽和度 %	磷酸 吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.1	4.5	0.9	23.7	15.0	3.87	0.26	80.7	840	11.9
2	6.4	4.8	0.5	22.1	17.2	4.28	0.10	97.6	1,020	1.7

A-2 他の土壌統との関係

本土壤に類似する統としては山部統、西山部統、下御料統、御料統などがある。山部統は表土および土層中の礫含量が多くかつ中、大礫が多く堆積も新らしいことにより区分される。西山部統はさらに山麓部に分布し、かつ大礫で礫土となるための区分される。下御料統、御料統は母材が変成岩からるが、蛇紋岩の混入がないことにより区分される。

A-3 母材 非固結変成岩(片岩類、蛇紋岩混合)

A-4 堆積様式 崩積

B 地形 2～3度のほぼ平坦

C 気象 年平均気温6.5℃、年降水量845mm

D 植生および利用状況 畑に利用され、スイカ、南瓜、タマネギ、ユリ、ニンジンの他ばれいし
等各種作物が栽培されている。

E 農業上の留意事項

生産性の高い土壌である。有機物の施用により地力の維持を図るよう心掛けるべきであろう。ユリの栽培において亜鉛欠乏の症状が認められる。普及所或は営農指導員の指示により施用する必要がある。

F 分布 北海道富良野市山部

調査および記載責任者 後藤 計二 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和49年3月31日

(2) 土壌統の細分

(1) 土壌区一覽

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
北 山 部	畑 II gpi

(2) 土壌区別説明

北 山 部 統 —— 北 山 部 区

示 性 分 級 式 (畑)

土	表	表	耕	(表	(表	(表	土	(透	(保	(湿	自	(保	(固	(土	養	(置	(換	(有	(微	障	(有	(物	災	(增	(地	(傾	(自	(傾	侵	(侵	(耐	(耐			
壤	効	土	土	表	表	表	地	透	保	湿	然	保	固	層	層	置	換	効	効	酸	障	害	害	增	地	傾	自	傾	人	侵	耐	耐			
生	土	土	の	土	土	土	の	水	水	潤	肥	肥	定	塩	の	石	苦	加	量	害	物	理	害	冠	す	傾	傾	為	水	風	風				
産	の	の	の	の	の	の	乾	水	水	沃	沃	沃	状	基	灰	土	里	酸	要	害	質	障	害	の	危	傾	傾	傾	傾	傾	傾				
力	層	の	の	の	の	の	乾	水	水	沃	沃	沃	状	基	灰	土	里	酸	要	害	質	障	害	の	危	傾	傾	傾	傾	傾	傾				
可	の	の	の	の	の	の	乾	水	水	沃	沃	沃	状	基	灰	土	里	酸	要	害	質	障	害	の	危	傾	傾	傾	傾	傾	傾				
能	厚	深	含	難	性	性	性	性	性	度	度	力	力	態	量	量	量	素	素	無	無	無	性	性	性	性	性	性	性	性	性				
性	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等		
等	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級		
級	t	d	g	p			w				f			n						i		a		s											
II	I	I	II	II	3	2	2	I	I	I	I	I	I	2	1	I	I	1	2	1	—	1	II	2	1	I	I	I	1	—	—	I	1	1	1
簡略分級式	II gpi																																		

A 土壤区の特徴

この土壤区は北山部統に属する。表土は25～30cmで厚くかつ有効土層も1m以上で深い。表土は小礫を含む～富み細粒質であるが、耕耘碎土は容易、農具の使用も容易である。下層礫層であるが構造の発達した細粒質の土壤が混合し、保水性も高くかつ透水性は良く過干、過湿のおそれはない。自然肥沃度は高く、表土の養肥分も多いが、ユリにおいて亜鉛欠乏が認められる。地形はほぼ平坦で、侵蝕は殆んど認められない。

B 植生および利用状況 畑に利用され、西瓜、南瓜、タマネギ、アスパラガス、ニンジン、ユリ等の他ばれいしよが栽培されている。

C 地力保全上の問題点 生産性は高いが、有機物の施用につとめ地力維持を図るべきである。また亜鉛欠乏が散発するので普及所、営農指導員の指示により施用する必要がある。

D 分布 北海道富良野市山部

記載責任者 後藤計二（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和49年3月31日

山 部 統

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ25～30cmで腐植含量5～6%、土性はSC、LICが主でCLの場合もある。色は10YRで彩度1～3、明度2～3。未風化小、中、大半角礫に富む～頗る富む。細塊状、塊状構造で発達は弱度である。ち密度疎。pH(H₂O) 5.5～5.7。下層境界明瞭および判然。

第2層は厚さ30～40cmで腐植含量は2～7%で埋没腐植層となる場合が多い。土性はLIC、SCが主でCL、Lの場合もある。色は10YRで彩度2～3、明度2～5。未風化小、中、大半角礫に富むから礫層となり、変化に富む。細塊状、塊状構造で発達程度は中～強度の場合が多い。ち密度中～疎。pH(H₂O) 5.3～5.5。下層境界判然或は明瞭。

第3層は厚さ20～30cmで腐植含量2%以下の場合が多い。土性はCL～Lが主であるが、LIC或はSLの場合もある。未風化小、中、大の半角礫に頗る富む或は礫層となる。色は10YRが彩度3～4、明度4～6。ち密度疎～中。pH(H₂O) 5.5前後。

代表的断面形態

(所在地) 北海道富良野市山部(転換畑)

第1層	0～27cm	腐植に富む黒(10YR2/2)のSC。発達弱度の細塊状、塊状構造で細孔に富む。未風化小、中、大半角礫に富む。ち密度16で疎。粘性やゝ強。透水性良。pH(H ₂ O) 5.7。調査時の湿り半乾。境
-----	--------	--

		界判然。
第 2 層	27 ~ 45 cm	腐植を含む黄褐 (10 Y R 4 / 2) の Li C。発達中程度の細塊状構造で細孔、小孔に富む。未風化小、中、大半角礫を含む。ち密度 1.6 で疎。粘性やゝ強。透水性良。pH (H ₂ O) 5.5。調査時の湿り半乾。境界判然。
第 3 層	45 ~ 70 cm	腐植に富む黒 (10 Y R 2 / 2) の Li C。発達中程度の細塊状構造で細孔あり、小孔あり。未風化小、中半角礫層ち密度中。粘性やゝ強。透水性良。pH (H ₂ O) 5.3。調査時の湿り半乾。境界漸変。
第 4 層	70 cm ~	腐植を欠く黄褐 (10 Y R 5 / 4) の SCL。均質連結状で細孔含む。未風化小、中、大半角礫を含む。ち密度 2.4 で中。粘性中。透水性良。pH (H ₂ O) 5.5。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量重 %	粒径組成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~27	2.9	20	35.6	19.5	16.9	28.0	SC	3.28	0.26	12.6	5.7
2	27~45	4.8	10	22.9	9.1	25.8	42.2	LiC	2.29	0.30	7.6	4.0
3	45~70	1.8	60	26.0	16.8	20.9	36.3	LiC	3.10	0.24	12.9	5.4
4	70~	3.7	7	49.0	15.6	12.6	22.8	SCL	0.91	0.07	13.0	1.6

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			塩飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態 mg/100g P ₂ O ₅	30°C NH ₄ -N 発生量 mg/100g		遊離酸化鉄 %
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O				乾土	湿土	
1	5.7	4.5	1.0	22.8	14.4	2.80	0.70	78.5	740	52.5	5.6	0.81	
2	5.5	4.3	3.1	28.3	17.2	2.80	0.51	72.5	1,180	2.0	5.6	1.25	
3	5.3	4.2	8.4	30.5	14.0	2.14	0.17	53.5	1,320	1.9	-	1.26	
4	5.5	4.2	6.4	21.3	12.0	3.78	0.06	74.4	960	1.8	-	1.04	

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統に類似する統として西山部統、北山部統、下御料統などがある。西山部統は礫の含量が著しく多く礫土となり、北山部統は比較的均一な小半角礫の混合で農具の使用は容易であることにより々区別される。下御料統は変成岩があるが蛇紋岩の混入はなく母材の違いにより区分される。

A-3 母材 非固結変成岩 (片岩類、蛇紋岩)

A-4 堆積様式 崩積

B 地形 3~5度の緩傾斜地

C 気象 年平均気温 6.5°C、年降水量 845 mm

D 植生および利用状況 ほぼ全面基盤整備による水田化が行われたところであるが、転換畑も多

く、畑にはユリ、ばれいしょ、てん菜、麦類さらに一部西瓜、メロン等の栽培が行われている。

E 農業上の留意事項 生産性は高い土壌であるが、有機物の施用による地力維持或は田畑輪換による地力維持が可能であり、これらによる高度利用を図ること。尚ユリにおいて亜鉛欠乏が発生しており、普及員、営農指導員の指導による施用対策が必要である。

F 分布 北海道富良野市山部

調査および記載責任者 後藤 計 二 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和49年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
山 部	ⒶII gpis ⒷII gp

② 土壌区別説明

山 部 統 — 山 部 区

示 性 分 級 式 (畑)

土	表	有	表	耕	(((土	((自	((養	((((障	(災	(傾	(侵	(耐	耐
壤	生	効	土	土	表	表	表	透	保	湿	然	固	層	置	有	微	酸	障	害	物	理	冠	地	自	傾	人	侵	耐
産	土	土	土	土	土	土	土	水	水	潤	肥	定	塩	石	苦	加	磷	害	質	的	害	の	の	傾	斜	為	水	風
力	の	層	の	の	の	の	の	乾	乾	乾	沃	状	豊	含	量	量	量	要	害	障	害	危	危	傾	傾	傾	蝕	蝕
可	能	厚	含	難	性	性	性	性	性	度	力	力	態	量	量	量	素	度	無	性	性	度	度	斜	向	斜	度	性
性	等	深	量	易	性	性	性	性	性	度	力	力	態	量	量	量	素	度	無	性	性	度	度	斜	向	斜	度	性
級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級
	t	d	g	p			w			f		n						i		a		s		e				
II	I	I	II	II	3	2	2	I	1	1	1	I	1	2	1	I	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
簡略分級式	ⒶII gpis ⒷII gp																											

A 土壌区の特徴

この土壌区は山部統に属する。表土の厚さは25cm内外で厚く、有効土層は1m以上で深い。表土は小、中、大礫に富み、微粒質~細粒質で農具は使いにくい。保水性大きく、透水性良く、過干、過湿のおそれはない。保肥力大、固定力中庸、土層の塩基状態は良く自然肥沃度は高い。作土の養肥分は多いが、ユリの栽培において亜鉛欠乏が認められる。地形は緩傾斜を呈するが、侵蝕は殆んど認められない。

B 植生および利用状況 基盤整備によりほぼ全面水田化したところであるが、転換畑或は輪換畑も多く、ユリ、ばれいしょ、麦類の他西瓜、メロン、南瓜等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点 生産性は高い土壌であるが、有機物の施用による地力維持を図るべきである。尚ユリの栽培において亜鉛欠乏が発生しており、普及員或は営農指導員の指導による施用改善が必要である。

D 分布 北海道富良野市山部

記載責任者 後藤 計二 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和49年3月31日

西 山 部 統

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ12～15cmで腐植含量5～8%、土性はLiC、CLが主でLの場合もある。色は10YRで彩度1～2、明度2～3。未風化小、中、大半角礫層。土壌は細塊状構造で発達弱度である。ち密度疎。pH(H₂O)5.3前後。下層境界は判然。

第2層は厚さ25～30cmで腐植含量2～3%、土性はCL、Lである。色は10YRで彩度2～3、明度3～4。未風化小、中、大半角礫層。土壌は細塊状構造で発達中度である。ち密度疎～中。下層境界は判然。

第3層は厚さ40cm以上で腐植含量2%以下、土性はSL、Lである。色は10YRで彩度6、明度4。未風化小、中、大礫層。

代表的断面形態

(所在地) 北海道富良野市山部(普通畑)

第1層	0～12cm	腐植に富む黒(10YR2/2)のLiC。発達弱度の細塊状構造で細孔に富む。未風化小、中、大半角礫層。粘性弱。透水性良。pH(H ₂ O)5.3。調査時の湿り半乾。境界判然。
第2層	12～28cm	腐植を含む黄褐(10YR4/3)のL。発達中度の細塊状構造で細孔に富む。未風化、中、大半角礫層。粘性やゝ弱。透水性良。調査時の湿り半乾。境界判然。
第3層	28～40cm	腐植を含む黄褐(10YR3/3)のL。発達弱度の細塊状構造で細孔に富む。未風化小、中、大半角礫層。粘性弱。透水性良。境界判然。
第4層	40cm～	腐植を欠く黄褐(10YR4/6)のSL。単粒状。未風化小、中、大半角礫層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 %	粒 径 組 成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~12	4.4	55	34.4	13.0	2.21	30.4	LiC	4.32	0.35	12.3	7.5

層位	pH		置換 酸度 Y ₁	塩基置 換容量 me/100g	置換生塩基 me/100g			塩基 飽和 度 %	燐酸吸 収係数	有効態 mg/100g P ₂ O ₅	30℃NH ₄ -N 発生量 mg/100g		遊離酸 化 鉄 %
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O				乾土	湿土	
1	5.3	4.2	7.3	23.2	6.8	1.27	0.60	37.4	1,120	15.8	7.7		1.09

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統に類似する統として山部統、北山部統、下御料統などがある。本土壌統は全層礫層となるため他の土壌統と夫々区分される。

A-3 母 材 非固結変成岩（片岩類、蛇紋岩）

A-4 堆積様式 崩積

B 地 形 緩傾斜地

C 気 候 年平均気温6.5℃、年降水量845mm

D 植生および利用状況 一部水田となっているが畑にも利用され、小豆、麦類の他、西瓜、南瓜、メロンなどが栽培されている。

E 農業上の留意事項 礫土であり、地温上昇し、過干のおそれがある。除礫および粘土客土が必要である。

F 分 布 北海道富良野市山部

調査および記載責任者 後 藤 計 二 （北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和49年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
西 山 部	ⒺIVg III di II tp(w)fs
	ⒺIVg II tdp lfi

② 土壌区別説明

西 山 部 統 —— 西 山 部 区

示性分級式 (畑)

土	表	有	表	耕	(表)	(表)	(土)	(透)	(保)	(湿)	然	(自)	(保)	(固)	(土)	(養)	(置)	(有)	(微)	(酸)	(障)	(有)	(災)	(増)	(地)	(傾)	(自)	(傾)	(人)	(侵)	(耐)	(耐)			
壤	効	土	土	土	土	土	地	水	水	潤	肥	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷		害	物	冠	す	然	斜	為		水	風					
生	土	の	の	の	の	の	乾	水	水	沃	沃	力	力	態	量	量	量	量	量	量	害	害	害	危	危	傾	傾	傾	蝕	蝕					
産	層	の	の	の	の	の	乾	性	性	度	度	力	力	態	量	量	量	量	量	素	度	性	性	度	度	斜	斜	斜	蝕	蝕					
力	の	の	の	の	の	の	乾	性	性	度	度	力	力	態	量	量	量	量	量	素	度	性	性	度	度	斜	斜	斜	蝕	蝕					
可	の	の	の	の	の	の	乾	性	性	度	度	力	力	態	量	量	量	量	量	素	度	性	性	度	度	斜	斜	斜	蝕	蝕					
能	の	の	の	の	の	の	乾	性	性	度	度	力	力	態	量	量	量	量	量	素	度	性	性	度	度	斜	斜	斜	蝕	蝕					
性	の	の	の	の	の	の	乾	性	性	度	度	力	力	態	量	量	量	量	量	素	度	性	性	度	度	斜	斜	斜	蝕	蝕					
等	の	の	の	の	の	の	乾	性	性	度	度	力	力	態	量	量	量	量	量	素	度	性	性	度	度	斜	斜	斜	蝕	蝕					
級	の	の	の	の	の	の	乾	性	性	度	度	力	力	態	量	量	量	量	量	素	度	性	性	度	度	斜	斜	斜	蝕	蝕					
	t	d	g	p			w			f				n						i		a		s				e							
IV	II	III	IV	II	3	1	1	(II)	1	2	(2)	II	2	2	2	I	2	1	1	1	1	2	III	1	3	I	1	1	II	2	-	-	I	1	1
簡略分級式		(畑) IV g		III di		II tp(w) fs		(II) VI g		II tdplfi																									

A 土壤区の特徴

この土壤区は西山部統に属する。表土は12~15cmで薄く、有効力層も40cm内外で浅い。表土は小、中、大礫層で農具は使いにくい。保水性中庸、透水性は良好で土壤は一時的過干のおそれが多い。保肥力、固定力ともに中庸で土層の塩基状態も中庸で自然肥沃度は中位である。作土は養分にとんでいるがやゝ酸性である。地形は緩傾斜地であるが侵蝕は認められない。

B 植生および利用状況 水田、畑に利用され、畑には豆類、麦類の他西瓜、南瓜、メロンなどが栽培されている。

C 地力保全上の問題点 除礫および粘土客土が必要である。また塩基の補給、有機物の施用もゆるがせにできない。

D 分布 北海道富良野市山部

記載責任者 後藤計二 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和49年3月31日

上落合西統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm内外で腐植含量10%内外、土性はSL~Lである。色は10YRが主で彩度2~3、明度2~3。粒状構造で発達程度は弱~中度である。半風化小、中角礫を含む場合がある。ち密度15前後で中である。pH(H₂O) 5.5前後、下層との境界は平坦明瞭である(Ta-a 大山灰が主体)。

第2層は厚さ20cm内外で腐植含量5~10%、土性はLが主である。半風化小、中角礫を含む場合がある。色は10YRが主で彩度2~3、明度3~4。細塊状構造で発達程度は弱度のものが多い。細孔を含む。ち密度20前後、pH(H₂O)5.5前後、下層との境界は判然である。

第3層は厚さ20cm内外で腐植含量10%内外、土性はSL~Lである。色は10~7.5YRで彩度1~2、明度3~4。細塊状構造で発達程度は弱度のものが多い。細孔を含む、ち密度20前後で中、pH(H₂O)5.5前後、下層との境界は判然である。

第4層は地表下60~70cm以下で、腐植含量2%内外、土性はCLが主である。半風化中、大半角礫に富む、色は10YRが主で彩度4~6、明度5~7。塊状構造で発達程度は弱度のものが多い。ち密度20前後で中である。

代表的断面形態

(所在地) 北海道空知郡南富良野町北落合 試坑No.30

第1層	0~18cm	腐植に頗る富む黒色(10YR2/2)のSL、発達中度の粒状構造、ち密度15で中、pH(H ₂ O)5.5、調査時の湿り湿、境界平坦明瞭。
第2層	18~40cm	腐植にすこぶる富む黄褐く(10YR3/2)のL、発達弱度の細塊状構造、細孔を含む、ち密度19で中、pH(H ₂ O)5.6、調査時の湿り湿、境界判然。
第3層	40~60cm	腐植にすこぶる富む黒色(7.5YR3/1)のSL、発達弱度の細塊状構造、細孔を含む、ち密度20で中、pH(H ₂ O)5.6、調査時の湿り湿、境界判然。
第4層	60~	腐植あり、黄褐(10YR6/6)のCL、半風化小、中、大半角礫に富む、発達弱度の塊状構造、ち密度20中、調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分	礫含量 重 %	粒径組成%				土性	現地 容積 重g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~18	4.8		69.2	11.1	12.8	6.9	SL	75.2	2.69	6.17	0.37	17	10.7
2	18~40	6.1		40.8	23.3	23.4	12.5	L	92.6	2.62	5.89	0.36	16	10.2
3	40~60	7.9		28.7	43.6	19.9	7.8	SL	80.3	2.48	5.93	0.37	16	10.3

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基 置換容量 me/100g	置換性塩基 ^{me} /100g			石 飽和 灰度 %	磷 酸 吸 収 係 数	有 効 態 磷 酸 mg/100g
	H ₂ O	KCI			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.5	4.6	2.4	23.3	10.9	1.7	0.5	47	1,029	6.3
2	5.6	4.5	5.3	20.9	4.6	0.3	0.5	22	1,725	tr
3	5.6	4.5	4.8	20.7	3.3	0.3	0.2	16	1,933	4.3

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては上落合統、上落合北統、落合南統等があるが、上落合統とは母材、堆積様式ともに異なり、他の統とは母材、腐植層序が異なるのでそれぞれ本統と区別される。

A-3 母材 変成岩（輝緑凝灰岩が主）

A-4 堆積様式 崩積

B 地形

標高600～700mの丘陵地。波状性の傾斜を呈する。

C 気候

冬期は積雪寒冷、夏季は冷涼である。年平均気温5.5～6.5℃、農期間平均気温13.3～14.5℃、年降水量845～1,179mm、無霜期間132～142日

D 植生及び利用状況

畑地は主として牧草が作付けられ、その他は林地になっている。

E 農業上の留意事項

波状性傾斜地のため水蝕発生のおそれがある。気候、立地の面から普通作物の栽培は不利なので、採草または放牧のための牧草栽培が主体となろう。この場合草生維持のための地力維持に家畜糞尿の還元をはかることが必要である。

F 分布

北海道空知郡南富良野町北落合の一部。

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

日 付 昭和49年3月31日

(2) 土壌統の細分

(1) 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
上落合西-上落合西	III fs II ne

(2) 土壌区別説明

上落合西統 — 上落合西区

示性分級式（畑）

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の難	耕起土の易	（表土の粘性）	（表土の乾さ）	（土の湿度）	（土の透水性）	（土の保水性）	自然	（自保）	（自固）	（養分）	（置換性）	（石灰量）	（苦土量）	（加酸量）	（微酸量）	（酸化度）	（障害性）	（物理的障害）	（災害性）	（増冠の危険度）	（地すべりの危険度）	（傾斜）	（自然傾斜）	（人為傾斜）	（侵入）	（耐風）	（耐水）	（耐蝕）						
III	I	I	I	I	I	I	2	1	I	I	2	1	III	1	2	3	II	1	1	1	2	-	2	I	1	1	I	1	1	III	3	-	-	II	2	2	1
簡略分級式	III fs			II ne																																	

A 土壤区の特徴

この土壤区は北落合西統に属する。表土の厚さは25cm以上で深く、有効土層も1m内外で深い。表土の土性は中粒質で粘着性弱く耕起砕土は容易である。透水性大、保水性中庸で過湿過干のおそれは少ない。

保肥力大、磷酸固定力中、土層の塩基状態不良で自然肥沃度はやや低い。表土は有効態磷酸が少なく、やや酸性を呈する。下層土は置換性石灰、苦土が少なく、有効態磷酸に欠乏している。地形は波状性傾斜を呈し水蝕発生のおそれがある。特殊の障害性、災害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

畑地は主とし牧草が栽培され、他は林地になっている。

C 地力保全上の問題点

草生維持と地力維持のため家畜糞尿還元を中心とした有機物補給が望ましい。

D 分布

北海道空知郡南富良野町北落合の一部。

記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

日 付 昭和50年3月31日

上 落 合 北 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ10～15cmで腐植含量6～10%、土性はSLが主である。色は10YRが主で彩度

3～4、明度3～4。粒状構造で発達程度は弱～中度である。ち密度1.5前後で中である。pH(H₂O) 5.4前後、下層との境界は平坦明瞭である(Ta-a火山灰)。

第2層は厚さ1.0～1.5cmで腐植含量6～10%、土性はLが主である。半風化小、中半角礫を含む、色は1.0YRが主で彩度3～4、明度3～4。細塊状構造で発達程度は弱～中度である。ち密度2.0前後で中である。pH(H₂O) 5.5前後、下層との境界は判然である。

第3層は厚さ1.0～1.5cmで腐植含量6～8%、土性はLが主である。半風化小、中半角礫に富む、色は1.0YRが主で彩度2～3、明度3～5。ち密度2.0で中である。下層との境界は判然としている。

第4層は厚さ1.0～1.5cmで腐植含量5%内外、土性はLが主である。色は1.0YRが主で彩度3～4、明度4～6。塊状構造で発達程度は弱度のものが多い。細孔あり、ち密度2.0で中である。pH(H₂O) 5.5前後、下層との境界は判然である。

第5層は地表下5.0～6.0cm以下で、半風化小、中、大半角、角礫からなる礫層の場合が多い。

代表的断面形態

(所在地) 北海道空知郡富良野町北落合 試坑No.34

第1層	0～1.0cm	腐植に富む黄褐(1.0YR3/3)のL、発達中度の粒状構造、ち密度1.5で中、pH(H ₂ O) 5.4、下層との境界は平坦明瞭。
第2層	1.0～2.0cm	腐植に富む黄褐(1.0YR3/3)のL、半風化小、中半角礫を含む、発達中度の細塊状構造、ち密度2.0で中、pH(H ₂ O) 5.4、調査時の湿り半乾、境界判然。
第3層	2.0～3.5cm	腐植に富む灰褐(1.0YR4/2)のL、半風化小、中半角礫に富む、発達弱度の塊状構造、ち密度2.0で中、pH(H ₂ O) 5.4、調査時の湿り湿、境界判然。
第4層	3.5～4.8cm	腐植を欠く黄褐(1.0YR5/3)のL、発達弱度の塊状構造、細孔あり、ち密度2.0で中、pH(H ₂ O) 5.5、調査時の湿り湿、境界判然。
第5層	4.8～cm	半風化小、中、大半角礫からなる礫層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 %	粒径組成%				土性	現地 容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0～10	6.3		37.1	19.4	29.0	14.5	L			5.69	0.36	16	9.8
2	10～20	5.9		22.7	35.5	37.0	4.8	L			4.63	0.29	16	8.0
3	20～35	6.2		12.0	44.2	35.1	8.7	L			2.94	0.17	17	5.1
4	35～48	2.5		10.9	48.1	40.3	0.7	L			—	—	—	—

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基me/100g			石灰飽和度 %	燐酸 吸収係数	有効態燐酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.4	4.4	7.6	18.4	1.5	0.4	0.2	8	1,643	3.2
2	5.4	4.4	6.5	17.8	0.5	3.5	0.1	3	1,765	tr
3	5.4	4.5	5.9	16.3	1.0	2.6	0.1	6	1,620	8.5
4	5.5	4.5	4.6	8.3	0.6	1.9	0.0	7	780	4.1

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては、上落合統、上落合西統、落合南統があるが、上落合統とは母材、堆積様式が異なり、その他の統とは母材が異なるのでそれぞれ本統と区別される。

A-3 母材 固結水成岩（暗色頁岩）

A-4 堆積様式 残積性

B 地形

標高600～700mの波状性傾斜を呈する丘陵地。

C 気候

冬期積雪寒冷、夏季冷涼。年平均気温5.5～6.5℃、農期間平均気温13.3～14.2℃、年降水量845～1,179mm、無霜期間132～142日

D 植生及び利用状況

畑地は主として牧草が栽培され、他は林地になっている。

E 農業上の留意事項

傾斜地のため水蝕発生のおそれがある。有機物施用による地力並びに草生の維持。

F 分布

北海道空知郡南富良野町北落合の一部。

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

日 付 昭和50年3月

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
上落合北-上落合北	III d f n II i e

② 土壌区別説明

上落合北統 — 上落合北区

示性分級式 (畑)

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	耕起土の難易	耕起土の粘性	表土の粘着性	表土の乾硬性	土の乾湿性	透水性	保水性	自然肥力	自保肥力	固肥力	養分塩基状態	置換性石灰量	苦土量	加里量	有効態リン素	微酸害の無性	障害物質の有害性	物理的障害の無性	災害性の危険度	増冠水の危険度	傾斜の危険度	自然傾斜	人為傾斜	侵蝕度	耐風蝕性	耐水蝕性					
	t	d	g	p		w				f			n					i		a		s				e							
Ⅲ	I	Ⅲ	I	I	1	1	I	1	2	1	Ⅲ	2	3	3	Ⅲ	3	2	2	2	Ⅱ	1	2	I	1	1	Ⅲ	3	—	—	Ⅱ	2	2	1
簡略分級式		Ⅲ d f n Ⅱ i e																															

A 土壤区の特徴

この土壤区は上落合北統に属する。表土の厚さは2.5cm内外で深く、有効土層は5.0cm以内で浅い。表土の土性は中粒質で粘着性弱く耕起砕土は容易である。透水性大、保水性中庸で礫層がやゝ浅いが、過湿過干のおそれは少ない。

保肥力中、磷酸固定力大、土層の塩基状態不良で自然肥沃度は低い。表土は置換性石灰、苦土がごく少く、置換性加里、有効態磷酸もやゝ少く、やゝ酸性を呈する。下層土はさらに有効態養分に乏しくやゝ酸性を呈する。傾斜地のため水蝕発生のおそれがある。特殊の障害性及び災害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

畑地は大部分採草用草地に利用されており他は林地になっている。

C 地力保全上の問題点

家畜糞尿の還元による有機物施用、石灰、苦土及び磷酸資材の投入を要する。

D 分布

北海道空知郡南富良野町上落合の一部。

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和51年3月31日

西 達 布 統

(i) 土壤統の概要

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ1.5～3.5cmで腐植含量2～5%、土性はSCL～Lである。半風化小半角礫(熔結凝

灰岩) を含む～富む。色は10 Y R～7.5 Y Rで彩度2～3、明度3～4。発達弱度の粒状構造。ち密度11～15で疎。pH (H₂O) 5.9前後。下層との境界平坦あるいは判然。

第2層は厚さ15～40 cmで腐植含量2%以下、土性はS L～Lである。半風化小半角礫(熔結凝灰岩) を含む～頗る富む。色は7.5 Y R～10 Y Rで彩度3～4、明度4～6。発達弱度の粒状～塊状構造。ち密度18～24で中～密。pH (H₂O) 5.5前後。下層との境界判然～漸変。

第3層は厚さ50 cm以上で腐植含量2%以下、土性はS L～Lである。半風化小半角礫(熔結凝灰岩) を富む。色は10 Y Rで彩度4、明度5～7。発達弱度の粒状、塊状構造あるいは一部均質連結状であるが小孔に富む。ち密度20～24で中～密。マンガン斑がある場合がある。

代表的断面形態

(所在地) 富良野市清水山 試坑4

第1層	0～18 cm	腐植を含む灰褐(10 Y R 3/2)のS C L。発達弱度の粒状構造で小孔に富む。半風化小半角礫(熔結凝灰岩)に富む。ち密度11で疎。粘性弱。pH (H ₂ O) 5.9。調査時の湿り半乾。層界平坦判然。
第2層	18～55 cm	腐植を含む黒(10 Y R 2/2)のL。発達中度の粒状構造で小孔に富む。半風化小半角礫(熔結凝灰岩)に富む。ち密度18で疎。粘性中。pH (H ₂ O) 5.5。調査時の湿り半乾。層界漸変。
第3層	55～70 cm	腐植を欠く黄褐(10 Y R 4/3)のS L。単粒状で小孔に富む。半風化小半角礫(熔結凝灰岩)に頗る富む。ち密度24で中。粘性弱。マンガン斑あり。pH (H ₂ O) 5.3。調査時の湿り半乾。層界漸変。
第4層	70 cm以下	腐植を欠く黄褐(10 Y R 7/4)のS L。単粒状で小孔に富む。半風化小半角礫(熔結凝灰岩)に富む。ち密度22で中。粘性弱。調査時の湿り半乾。

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 %	粒 径 組 成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0～18	1.9	20	46.3	18.1	16.5	19.1	S C L	1.66	0.22	7.6	2.9
2	18～55	3.7	20	32.3	32.7	24.0	11.0	L	2.21	0.17	13.0	3.8
3	55～70	2.7	40	48.0	24.8	25.3	1.9	S L	0.44	0.03	14.7	0.8

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基me/100g			石灰飽和度 %	磷酸 吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.9	4.9	0.6	10.2	6.7	0.54	0.34	65.7	560	25.6
2	5.5	4.4	2.9	12.0	3.3	0.19	0.17	27.5	1,190	tr
3	5.3	4.4	3.2	5.3	0.8	0.06	0.33	15.1	710	0.8

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似あるいは隣接する統としては南布礼別統、八幡統、富丘統などがある。南布礼別統、八幡統は表土に礫がなく、富丘統も礫がなくかつ酸化沈積物があることにより区別される。

A-3 母材 非固結火成岩（熔結凝灰岩）

A-4 堆積様式 崩積

B 地形 傾斜地

C 気候 年平均気温 5.5℃、年降水量 1,002mm。

D 植生および利用状況

畑に利用され、ばれいしょ、ビート、豆類、麦類の他ニンジン等各種畑作物が栽培されている。

E 農業上の留意事項

4～8度の傾斜地で当地方は集中豪雨があり侵蝕が見られる。緑作帯の設置等侵蝕防止に留意を要する。土壌は中粒質で透水性も大きいので極力緑肥による地力維持を図ると共に石灰、苦土、加里等塩基補給につとめること。

F 分布 北海道富良野市清水山、御料、西達布、平沢

調査および記載責任者 後藤 計二、木村 清（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和48年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
西達布－西達布	II g f n s e

② 土壌区別説明

西 達 布 ——— 西 達 布

示性分級式（畑）

土壌生産力可能性等級	表効の層の厚さ	有効土層の深さ	表土の層の深さ	耕耘土の層の深さ	（表土の風乾土の粘性）	（表土の乾燥土の粘性）	（透水性）	（保湿度）	（自然肥沃度）	（固定力）	（固肥力）	（養分塩基状態）	（置換性）	（石灰含有量）	（苦土里酸素度）	（加酸要性）	（微効量）	（有効態）	（障害物質の有害性）	（物理的障害の無性）	（災害の危険度）	（増冠水の危険度）	（地すべりの危険度）	（傾斜の危険度）	（自然斜傾）	（人為斜傾）	（侵入斜傾）	（耐蝕性）	（耐風蝕性）	（耐水蝕性）					
	t	d	g	p		w			f			n							i		a		s												
II	I	I	II	I	2	1	1	1	1	2	II	2	1	2	II	2	2	2	1	-	2	I	1	1	I	1	1	II	2	-	-	II	2	2	1
簡略分級式		II g f n s e																																	

A 土壌区の特徴

この土壌区は西達布統に属する。表土の厚さは20cm内外で中庸、有効上層は1m以上で深い。表土の土性は中粒質で耕耘、砕土は容易である。保肥力中庸、固定力小さく自然肥沃度は中位である。作土の養分は中位。急傾斜で土壌侵蝕が多い外は特殊な障害性はない。

B 植生および利用状況

畑に利用され、ばれいしょ、ビート、豆類、ニンジン、麦類など各種作物が栽培されている。また植林地（カラマツ）も多い。

C 地力保全上の問題点

急傾斜地であり土壌侵蝕が多く、これに対する防止方策を要する。また粗大有機物の施用、石灰、苦土、加里等塩基の補給を要する。

D 分布 北海道富良野市清水山、御料、西達布、平沢

記載責任者 後藤計二（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和49年3月31日

落 合 南 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外で腐植含量6~9%、土性はL~SLである。色は10YRが主で彩度3~5、明度2~3。粒状構造で発達程度は中度のものが多い。ち密度20前後で中、pH(H₂O)6.0前後、下層との境界は判然としている(Ta-a混入)。

第2層は厚さ20 cm内外で腐植含量2%以下、土性はL~CLである。色は10 Y Rが主で彩度3~4、明度3~5。細塊状構造で発達程度は中度のものが多い。細孔を含む。ち密度20前後で中、pH (H₂O) 6.0前後、下層との境界は判然である。

第3層は厚さ20 cm内外で腐植含量2%以下、土性はL~CLである。色は10 Y Rが主で彩度4~6、明度5~6。塊状構造で発達程度は弱度のものが多い。細小孔を含む、ち密度20前後で中、下層との境界は判然である。

第4層は地表下おおむね60 cm以下で、腐植含量2%以下、土性はSL~Lである。色は10 Y Rが主で彩度3~5。明度5~8。無構造(均質連結状)で細小孔を含む、ち密度20前後で中、pH (H₂O) 5.6~5.8である。

代表的断面形態

(所在地) 北海道空知郡南富良野町落合 試坑No.50

(草地)

第1層	0~20 cm	腐植に富む黄褐(10 Y R 2/3)のSL、発達中度の粒状構造、ち密度23で中、pH (H ₂ O) 6.1、調査時の湿り半乾、境界判然(T a - a主体)。
第2層	20~43 cm	腐植あり黄褐(10 Y R 3/4)のCL、発達中度の細塊状構造、細孔を含む、ち密度20で中、pH (H ₂ O) 6.0、調査時の湿り半乾、境界判然(ロームの混入が多い)。
第3層	43~60 cm	腐植を欠く黄褐(10 Y R 5/6)のCL、発達弱度の塊状構造、細小孔を含む、ち密度19で中、調査時の湿り湿、境界判然(ロームの混入が多い)。
第4層	60~	腐植を欠く黄褐(10 Y R 6/4)のSL、無構造(均質連結状)、細小孔を含む、ち密度19で中、pH (H ₂ O) 5.8、調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 %	粒径組成%				土性	現地 容積 重g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~20	8.5		30.8	40.2	23.1	5.9	SL			5.71	0.36	16	9.8
2	20~43	8.4		32.0	25.4	26.2	16.4	CL			1.04	-	-	1.7
4	60~	2.7		46.6	30.8	19.1	3.5	SL			0.53	-	-	0.9

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	燐酸 吸収係数	有効態 燐酸 mg/100g
	H ₂ O	KCI			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.0	4.8	1.5	24.0	4.6	0.4	0.1	19	2,208	5.5
2	6.1	5.2	0.9	31.0	17.5	2.1	0.2	56	2,228	tr
4	5.8	4.5	3.6	9.5	1.1	0.6	0.1	12	740	3.1

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては、幾寅統、上落合、北落合統がある。幾寅統は水積なので堆積様式が異なり、上落合統、北落合統は熔結凝灰岩を基盤とし、恵庭、支笏ロームからなるため母材堆積様式が異なるのでそれぞれ本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩/非固結水成岩

A-4 堆積様式 風積/残積

B 地形

標高400～600mの波状性傾斜地。

C 気候

冬期積雪寒冷、夏季冷涼。年平均気温5.5～6.5℃、農期間平均気温13.3～14.5℃、年降水量845～1,179mm、無霜期間132～142日。

D 植生及び利用状況

畑は主として牧草が栽培され、放牧用草地に利用されている。

E 農業上の留意事項

傾斜地のため水蝕発生のおそれがある。

F 分布

北海道空知郡南富良野町落合の一部。

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和50年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
落合南-落合南	III fs II tdne

② 土壌区別説明

落合南統 — 落合南区

示性分級式（畑）

土	表	有	表	耕	(表)	(表)	(土)	(透)	(保)	(自)	(保)	(固)	(土)	(置)	(有)	(微)	(酸)	(障)	(災)	(増)	(地)	(傾)	(自)	(傾)	(人)	(侵)	(耐)	(耐)							
壤	生	効	土	土	表	表	土	地	然	然	層	分	換	"	"	効	量	害	物	冠	す	然	斜	為	水	風									
産	力	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の							
可	能	性	厚	等	級	さ	さ	量	易	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性							
		t	d	g	p			w		f		n					i	a		s		e													
III	II	II	I	I	I	I	I	2	2	1	III	1	4	3	II	2	2	3	2	-	1	I	1	1	I	1	1	III	3	-	-	II	2	2	2
簡略分級式		III fs II tdne																																	

A 土壤区の特徴

この土壤区は落合南統に属する。表土の厚さは20cm内外で中庸、有効土層も50～100cmで中庸である。表土の土性は中粒質で粘着性弱く耕起碎土は容易である。透水性、保水性ともに中庸で過湿、過干のおそれは少ないが、斜面下部や凹部では過湿のおそれがある。

肥力大、磷酸固定力強大、土層の塩基状態も不良で自然肥沃度は低い。表土は置換性石灰、苦土、有効態磷酸ともにやや少なく、下層も石灰、苦土、磷酸が少ない。傾斜地のため水蝕発生のおそれがある。特殊の障害性及び災害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

畑地は牧草が栽培され、主とし放牧用草地に利用されている。

C 地力保全上の問題点

水蝕発生のおそれがあるが、草地にしている場合はあまり心配はない。石灰、苦土、磷酸等の有効態養分に不足しているから改良資材として施用が必要である。放牧地のため特に家畜の糞が点々と存在し、養分並びに草生の不均衡が多くなっているため、糞の散布等草地管理に留意を要する。草生維持のため塩基の補給並びに窒素、加里の適切な施用を行う必要がある。

D 分布

北海道空知郡南富良野町落合の一部。

記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

日 附 昭和51年3月31日

上 落 合 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外で腐植含量8%前後、土性はL~CLである。色は10YRで彩度3~5、明度3~4。粒状構造で発達程度は弱度のものが多い。ち密度20前後で中、PH(H₂O)5.5前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ15cm内外で腐植含量5~8%、土性はLが主である。色は10YRが主で彩度4~5、明度3~5。細塊状構造で発達程度は弱~中程度で、細小孔を含む場合が多い。ち密度20前後で中、PH(H₂O)6.0前後、下層との境界は判然である。

第3層は厚さ30cm内外で腐植含量2%以下、土性はSL~Lである。小、中、大浮石礫を含む、色は10YRが主で彩度4~6、明度5~6。細塊状構造で発達程度は弱度のものが多い。細孔に富む、ち密度20前後で中である。PH(H₂O)6.0前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第4層は地表下おおむね60cm以下で、腐植含量2%以下、土性はLが主である。小、中、大浮石礫に富む。色は10YRが主で彩度6~8、明度4~6。塊状構造で発達程度は弱度のものが多い。細孔に富む、ち密度20前後で中である。本層が浮石礫層の場合がある。

代表的断面形態

(所在地) 北海道空知郡南富良野町東幾寅 試坑No.27

第1層	0~18cm	腐植に富む黄褐(10YR3/4)のSCL、発達弱度の粒状構造、ち密度23で中、PH(H ₂ O)5.6、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭(Ta-a火山灰混入)。
第2層	18~32cm	腐植に富む黄褐(10YR4/4)のL、発達中程度の細塊状構造、細小孔を含む、ち密度20で中、PH(H ₂ O)6.0、調査時の湿り半乾、境界判然。
第3層	32~60cm	腐植を欠く黄褐(10YR6/6)のSL、小、中、大浮石礫を含む、発達弱度の細塊状構造、細孔を含む、ち密度20で中、PH(H ₂ O)6.1、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第4層	60~	腐植を欠く黄褐(10YR5/8)のL、小、中、大浮石礫に富む~すこぶる富む。発達弱度の塊状構造、細孔含む、ち密度19で中。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成%				土性	現地 容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~18	4.8		42.1	18.5	22.0	17.4	SCL	105.6	2.41	4.85	0.34	14	8.4
2	18~32	5.9		38.3	26.0	27.1	8.6	L	91.8	2.48	4.59	0.34	14	8.0
3	32~60	4.8		24.7	45.4	24.0	5.9	SL	82.9	2.59	—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基me/100g			石灰飽和度 %	磷酸 吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.6	4.8	1.5	20.1	9.9		0.5	49.	1,071	9.5
2	6.0	5.0	1.3	19.9	9.7		0.2	49.	1,658	7.4
3	6.1	5.1	0.9	15.1	4.6	9.2	0.4	31.	1,806	—

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては、上落合西統、上落合北統、北落合統等がある。上落合西統、上落合北統はいずれも固結水成岩を母材とし、北落合統は下層に浮石礫の混入がなく風化火山灰層からなるので、それぞれ本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 風積（火山性）

B 地形

標高500～600mの波状性傾斜地。

C 気候

年間を通じて比較的冷涼。年平均気温5.5～6.5℃、農期間平均気温（4～10月）13.3～14.5℃、年降水量845～1,179mm、無霜期間132～142日。

D 植生及び利用状況

畑地に利用され、主として牧草が栽培されているが、一部は原野または林地になっている。

E 農業上の留意事項

傾斜地のため水蝕発生のおそれがある。草地を除く普通作物畑では等高線栽培などの保全耕作を要する。

草地では、土壌の性質から見てせき薄化し易いと考えられるので家畜糞尿の還元施用や追肥により、地力の維持と草生の維持を図ることが望ましい。

F 分布

北海道空知郡南富良野町字北落合

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

日 付 昭和50年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
上落合 - 上落合	II tdfnse

② 土壌区別説明

上落合統 — 上落合区

示性分級式（畑）

土壌生産力可能性等級	表効土の層の厚さ	有効土の層の深さ	表土の難易	耕土の粘着性	（表土の乾硬性）	（表土の乾硬性）	（土地の乾硬性）	（透水性）	（保水性）	（自保性）	（自然肥力）	（固定肥力）	（養分塩基状態）	（置換性）	（石灰含量）	（苦土里素）	（加酸要素）	（微酸要素）	（酸害無害性）	（物理的障害）	（災害危険性）	（増冠すべりの危険度）	（傾斜の危険度）	（自然傾斜）	（人為傾斜）	（侵入傾斜）	（耐蝕性）	（耐風蝕性）								
	t	d	g	p		w				f			n						i		a		s				e									
II	II	II	I	I	2	1	1	I	1	2	1	II	1	2	2	II	1	1	1	2	2	2	I	1	1	I	1	1	II	2	-	-	II	2	2	2
簡略分級式		II tdfnse																																		

A 土壤区の特徴

この土壤区は上落合統に属する。表土の厚さは25cm内外で深く、有効土層も1m内外で深い。表土の土性は細粒質であるが、粘着性弱く耕起砕土は容易である。透水性大、保水性中庸で過湿過干のおそれは少ない。

肥力大、磷酸固定力中、土層の塩基状態は中庸で自然肥沃度は中位である。作土は有効態磷酸がやや少なく、やや酸性を呈し、心土も有効態磷酸が少ない。波状性傾斜を呈し水蝕発生のおそれがある。特殊の障害性及び災害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

畑地に利用され、牧草その他の飼料作物が栽培されている。一部は原野及び林地になっている。

C 地力保全上の問題点

水蝕防止のための保全耕作、家畜の糞尿還元を中心とする有機物施用による地力維持と草生の維持を要する。

D 分布

北海道空知郡南富良野町字北落合

記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

日 付 昭和50年3月31日

北 落 合 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15～20cmで腐植含量7～9%土性はLが主である。色は10YRが主で彩度3～5、明度3～4。細塊状構造または粒状構造で発達程度は弱度のものが多い。ち密度20で中である。pH(H₂O) 5.8、下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ20cm内外で腐植含量3～4%、土性はLが主である。色は10YRが主で彩度4～6、明度4～6。細塊状構造で発達程度は弱度のものが多い。細小孔に富む、ち密度20前後で中である。pH(H₂O) 5.5～5.8、下層との境界は判然としている。

第3層は厚さ20～25cmで腐植含量2%以下、土性はSL～Lである。色は10YRが主で彩度5～6、明度5～7。塊状構造で発達程度は弱度のものが多い、細小孔に富む。ち密度20前後で中である。pH(H₂O) 5.5～6.0、下層との境界は平坦明瞭である。

第4層は地表下60～70cm以下で腐植含量2%以下、土性はSLが主である。色は10YR～2.5YRで彩度2～3、明度5～7。無構造で細小孔にすこぶる富む。ち密度20前後で中である。

代表的断面形態

(所在地) 北海道空知郡南富良野町北落合 試坑46.45

第1層	0～16cm	腐植に富む黄褐(10YR4/4)のL、発達弱度の粒状、細塊状の複合構造、ち密度20で中、pH(H ₂ O) 5.8、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第2層	16～41cm	腐植含む黄褐(10YR5/6)のL、発達弱度の細塊状構造、細小孔に富む、ち密度21で中、pH(H ₂ O) 5.7、調査時の湿り半乾、境界判然。
第3層	41～65cm	腐植を欠く黄褐(10YR5/6)のSL、発達弱度の塊状構造、細小孔に富む、ち密度19で中、pH(H ₂ O) 5.9、調査時の湿り湿、境界平坦明瞭。
第4層	65～	腐植を欠く黄褐(2.5Y7/2)のSL、無構造で細小孔にすこぶる富む、ち密度20で中、調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 %	粒 径 組 成 %				土性	現 地 容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~16	4.5		37.3	25.4	24.8	12.5	L	98.8	2.52	4.94	0.42	12	8.6
2	16~41	4.8		30.7	31.7	27.8	9.7	L	94.6	2.61	2.18	0.19	13	3.8
3	41~65	4.6		24.2	44.2	25.5	6.1	SL	83.9	2.55	—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩置換容量 me/100g	置換性塩基me/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	有 効 態 磷 酸 me/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.8	4.7	0.8	18.5	3.1	4.2	0.2	17	1,050	tr
2	5.7	4.7	1.2	20.6	7.8	2.9	0.2	42	1,356	tr
3	5.9	5.0	0.9	20.9	6.9	3.0	0.2	33	1,590	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては上落合西統、上落合北統、上落合統等がある。上落合西統及び上落合北統はともに固結水成岩を母材とし、上落合は下層に浮石礫を混じるのでそれぞれ本統と区別される。

A-3 母 材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 風積（火山性）

B 植生及び利用状況

畑地として利用され、主と牧草が栽培されている。一部は原野または林地になっている。

C 気 候

年間を通じて比較的冷涼。年平均気温5.5~6.5℃、農期間平均気温（4~10月）13.3~14.5℃、年降水量845~1,179mm、無霜期間132~142日。

D 植生及び利用状況

主として牧草が栽培され、採草及び放牧に利用され、一部は他の飼料作物が栽培されている。

E 農業上の留意事項

傾斜地で水蝕発生のおそれがある。家畜糞尿の還元を中心とした有機物補給を要する。

F 分 布

北海道空知郡南富良野町北落合の大部分

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

日 付 昭和50年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覽

土壤区名	簡略分級式
北落合 - 北落合	III fn II tse

(2) 土壤区別説明

北落合統 — 北落合区

示性分級式 (畑)

土壤	表効	有効	表土	耕土	(表土)	(表土)	(表土)	(透)	(保)	(湿)	(自)	(保)	(固)	(養)	(置)	(有)	(微)	(酸)	(障)	(災)	(増)	(地)	(傾)	(自)	(傾)	(人)	(侵)	(耐)							
生産力	土層	の厚	の深	の量	の易	の粘	の乾	の湿	の度	の力	の力	の力	の力	の力	の力	の力	の力	の力	の力	の力	の力	の力	の力	の力	の力	の力	の力	の力	の力						
可	能	性	等	級	さ	さ	量	易	粘	乾	湿	度	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力							
t	d	g	p				w				f			n					i		a														
III	II	I	I	I	I	I	I	I	2	1	III	2	2	3	III	3	1	2	3	2	2	I	1	1	I	1	1	II	2	-	-	II	2	2	2
簡略分級式		III fn		II tse																															

A 土壤区の特徴

この土壤区は北落合統に属する。表土の厚さは2.0m内外で中庸、有効土層は1m以上で深い。表土は中粒質で粘着性弱く耕起碎土は容易である。透水性大、保水性中庸で過湿、過干のおそれはない。

保肥力中、磷酸固定力中、土層の塩基状態不良で自然肥沃度は低い。作土は置換性石灰及び有効態磷酸に欠乏し、置換性加里もやや少なく、やや酸性を呈する。心土は有効態磷酸に欠乏し、置換性石灰、加里が少い。波状性傾斜を呈し水蝕発生のおそれがある。特殊の障害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

主として牧草が栽培され、採草、放牧に利用され、一部は他の飼料作物が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

水蝕発生のおそれがあるから草地以外の畑地では保全耕作の要がある。家畜糞尿の還元を中心とする有機物補給の要がある。

F 分布

北海道空知郡南富良野町北落合の大部分。

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和50年3月31日

3 保全対策地区区分及び説明

1) 保全対策地区の設定

土壌断面形態、土壌理化学性の特徴及び地形などからみた地力の保全、増強対策により、次の保全対策区を設定した。

(水 田)

保全対策地区名	該 当 土 壤 区	面 積 (ha)	主 な 特 徴	重 要 な 保 全 対 策
大 沼	大 沼	475	1. 過湿の恐れが甚だしい。 2. 軟弱地盤で客土量少ない。 3. 西鳥沼区は透水性小さく一層軟弱である。 4. 硅酸塩基不足。	1. 明渠、暗渠の完備 西鳥沼区はモミガラ心破併用。 2. 再客土と畦畔の保強並びに地耐力強化。 3. 珪カル施用、よう燐施用。
	北 大 沼	360		
	西 鳥 沼	70		
	計	905		
東 学 田	東富良野	250	1. 湿性のおそれが甚だしい。 2. 初期生育悪く後出来の恐が多い。生わら施用不適。 3. 塩基不足。	1. 明渠、暗渠の完備 東富良野区、東山区、東学区区は心破併用。 2. 完熟堆肥の施用 3. 珪カル施用
	達 布	310		
	東 山	35		
	東 学 田	45		
	寿	120		
	計	839		
富 良 野	富 良 野	370 (畑120)	1. 腐植含量少ない。 2. 鳥沼区を除いて表面排水が不良である。 3. 鳥沼区はやゝ漏水気味で後半生育不良が目立つ。 4. 富良野区の畑は亜鉛欠乏が認められる。	1. 稻ワラは秋鋤込み或は圃場内簡易堆積のこと、生ワラの場合は300kg/10a限度。 2. 鳥沼区は堆肥の施用或は分追肥を要する。 3. 畑の亜鉛欠乏は指導員の指示によること。 (富良野、西学田)
	下金山東	10		
	十 梨 別	21		
	西 学 田	130		
	計	55 (畑210) 計586 (畑330)		

(畑)

保全対策 地区名	該 土 壤 区	面 積 (ha)	主 な 特 徴	重 要 な 保 全 対 策
八 幡	八 幡	1,120	1. 下層堅密である。 2. 腐植含量少ない。 3. 塩基に不足している。 4. 侵蝕が著るしい。	1. 心土破碎による下層土の膨軟化。 2. 畑作で有機物還元少ない。稲ワラ、家畜糞尿の導入。 3. 石灰、苦土の補給、塩基のバランスに留意。
	南布礼別	1,170		
	西達布	1,310		
	計	3,600		
富 丘	平 沢	110	1. 時期的な湿性の恐れ多い。 2. 作土層浅い。 3. 塩基に不足している。	1. 暗渠の施行 2. 深耕と共に石灰、燐の施用。 3. 堆肥、稲ワラ導入による有機物富化。
	富 丘	390		
	計	500		
自由ヶ丘	自由ヶ丘	170	1. 腐植含量が少い。 2. 塩基が少ない。 3. 緩傾斜 4. 表土がやや浅い。	1. 堆肥等有機物施用。 2. 塩基の補給。 3. 傾斜のところは水蝕防止。 4. 漸次深耕。
越 中	越 中	129	1. 表土がやや浅い。 2. 塩基含量が少ない。 3. 下層堅密で透水性が悪く、過湿のおそれがある。 4. 緩傾斜	1. 有機物を施用しながら漸次深耕。 2. 石灰、苦土資材の施用。 3. 暗渠排水の実施。 4. 傾斜のところは水蝕防止。
幾 寅 西	幾 寅	183	1. 一般に表土がやや浅い。 2. 一部は有効土層がやや浅い。 3. 燐酸吸収係数が大きい。 4. 地表に大礫が一部に存在する。	1. 有機物を施用しながら漸次深耕。 2. 燐酸資材の施用(シソラブチ区) 3. 一部除礫。
	幾 寅 西	76		
	山 畔 南	20		
	東 麓 郷	150		
	シ ン ン 子	40		
	上 達 布	40		
計	509 (田90) (田90)			
下 学 田	下 学 田	160 (田110)	1. 腐植含量少ない。 2. 機械の踏圧で表面排水不良。	1. 畑では粗大有機物の施用。 2. 田では心土破碎施行、生ワラは秋鋤込みか或は堆積物を入れること。 生ワラ限度量300kg/10a
	西 扇 山	180 (田150)		
	計	340 (田260)		

保全対策地区名	該当区	面積 (ha)	主な特徴	重要な保全対策
下御料	島の下 麓郷 布礼別 下御料 計	20 (田 ⁴⁸⁴ ₁₅₀) (田 ²⁷⁰ ₉₀) (田 ¹²⁰ ₅₀) (田 ⁸⁹⁴ ₅₉₀)	1. 石礫が極めて多い。 2. 有効土層や、浅く過干の恐れが多い。(島の下、下御料) 3. 塩基の不足。	1. 除礫 2. 灌水施設(島の下、下御料) 3. 有機物資材の確保と施用。 4. 塩基のバランス留意と適正施用。
松井	松井 計	71 71	1. 過湿のおそれが多い。 2. 塩基の不足。 3. 地力増強。	1. 暗渠排水の完備。 2. 石灰、苦土資材の施用。 3. 有機物施用。
伊勢	伊勢 上落合西 上落合北 計	461 30 39 530	1. 表土、有効土層ともにやや浅い。 2. 塩基の不足。 3. 傾斜地のため水蝕発生のおそれがある。 4. 透水性良好。	1. 有機物を施用し漸次深耕。 2. 石灰、苦土資材の施用。 3. 水蝕防止対策。 4. 一部除礫。
御料	南島の下 御料 上御料 計	50 (田 ²⁰⁰ ₆₀) 90 (田 ³⁴⁰ ₆₀)	1. 過湿のおそれが多い。 2. 下層堅密である(南島の下) 3. 石礫多い。	1. 暗渠排水。 2. 心土破砕(南島の下) 3. 有機物資材の確保と施用。 4. 除礫。
山部	北山部 山部 西山部 計	80 (田 ³¹⁰ ₀₀) (田 ³⁰ ₃₅) (田 ⁴²⁰ ₃₅)	1. 石礫が多い。 2. 百合の栽培において生育障害がある。	1. 除礫 2. 有機物資材の確保と施用。 3. 垂鉛欠乏対策。 (指導員の指示によること)
北落合	落合南 上落合 北落合 計	50 294 1,176 1,520	1. 傾斜地で水蝕のおそれがある。 2. 塩基に不足。 3. 磷酸吸収係数が大きい。 4. せき薄化し易い。	1. 水蝕防止対策。 2. 石灰、苦土資材の施用。 3. 磷酸資材の施用と増肥。 4. 有機物施用。

2) 保全対策地区説明

< 大沼保全対策地区 >

(1) 分布

郡市町村名	水田面積 (ha)		備 考 (該 当 土 壤 名)
	水田	計	
富良野市	905	905	大沼、北大沼、西島沼

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

泥炭土で客土が14～15cm行われているが、軟弱地盤で大型機械の導人がまだ困難である。明渠、暗渠の完備とさらに客土を実施して基盤整備を可能ならしめるようつとめるべきである。泥炭が作土に混合し、窒素の供給もあり生産は高い。客土後は磷酸の増施を要する。畦畔漏水の防止を要する。

(2) 営農の方向

気象条件からも水田に利用が望ましいが、安全確収に心がけるべきである。そのため客土と排水の完備を要する。

(3) 地力保全対策

対策の種類	面積 (ha)	実 施 方 法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等
排水	9.05	幹線、支線明渠の整備暗渠排水による不等沈下の除去。	} 工事費の助成
客土	9.05	大型圃場造成のための地耐力の維持と安全確収。	
漏水の防止	9.05	漏水防止として粘土客土で畦畔の維持造成。	} 工事費の助成
土壌改良資材	9.05	珪カル、よう磷の施用。	
			珪カル 200 kg / 10 a

< 東学田保全対策地区 >

(1) 分布

郡市町村名	面積 (ha)		備 考 (該 当 土 壤 区 名)
	水田	計	
富良野市	8.35	} 8.39	東富良野、達布、東山、東学田、寿、扇山、十梨別
南富良野町	4		

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

この保全対策地区は地下水位高く湿性地である。このため初期地温の上昇速度が遅いため初期生育が劣り、逆に後期生育が秋まさり型の傾向をみせ、また倒伏のおそれが大きく、低温年は登熟不良となる例が多い。対策として排水施設の完備、健苗、熟苗の使用、秋期の田面乾燥促進のための処置が重要である。

(2) 営農の方向

気象条件から水田作として利用すべきであるが、経営面積の拡大を要する。圃場整備を実施し、明渠、暗渠の完備を要する。

(3) 地力保全対策

対策の種類	面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等
排水	839	明渠、暗渠 東富良野、東山、東学田は心土 破碎	工事費の助成 "
有機物施用	839	完熟堆肥の施用	
土壤改良資材	839	珪カル	珪カル120kg/10a

< 富良野保全対策地区 >

(1) 分布

郡市町村名	面積 (ha)			備考 (該当土壌区名)
	水田	畑	計	
富良野市	555	330	885	富良野、西学田、烏沼
南富良野町	31	-	31	下金山東、十梨別

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

地下水位は低く、根の伸長も深く乾田型である。土性が中、細粒質で烏沼はやゝ漏水気味であり、やゝ窒素地力が低く後半の生育で窒素切れの傾向がある。

畑にあっては有機物の施用につとめる必要がある。尚富良野区は蛇紋岩の混入多く苦土等塩基は多いが、ユリの栽培において亜鉛欠乏の症状が認められる。

② 営農の方向、その他

気象条件から水田に適しているが、経営面積の拡大、圃場整備を要する。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等
有機物施用	916	田；稲ワラは秋鋤込みが良く、或は圃場内堆積のこと。 畑；有機物残渣の鋤込み	稲ワラ鋤込みは300kg/10a
亜鉛欠乏	120	普及員、営農指導員の指示により施用。	

< 八幡保全対策地区 >

(1) 分布

郡市町村名	面積 (ha)		備 考 (該 当 土 壤 区 名)
	畑	計	
富良野市	3,600	3,600	八幡、南布礼別、西達布

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

下層が堅密であり、特に段丘状の背部は堅密層が浅い。心土破砕による膨軟化を要する。また深耕による作土層の深化、塩基に乏しく石灰、苦土、加里等の施用、また畑作地は有機物の施用が栽培作物の関係から少なく稲ワラ或は牛糞等極力導入を図ること。草地にあっては糞尿撒布の効果的利用を図るべきである。当地方は秋期集中降雨による土壌侵蝕が多発するところで侵蝕防止に留意のこと。

② 営農の方向

一般に経営面積少なく拡大を要する。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象面積	実 施 方 法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等
有機物施用	3,600	堆肥、粗大有機物の施用、尿糞撒布	スラリーインジェクター
下層土膨軟化	3,600	心土破砕、心土肥培耕	モミガラ心土破砕機
作土深化	3,600	深耕	
侵蝕防止	3,600	グリーンベルト造成或は 等高線に溝を掘りモミガラ充填	
土壌改良資材	3,600	石灰、苦土の施用	炭カル300kg内外/10a 熔燐80~100kg/10a

< 富丘保全対策地区 >

(1) 分布

郡市町村名	面積 (ha)		備 考 (該 当 土 壤 区 名)
	普通畑	計	
富良野市	500	500	平沢、富丘

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

地形はほぼ平坦或は凹地状を呈しやや湿性を呈する。暗渠の完備を要する。また深耕して作土の深化、石灰、苦土、加里等塩基の補給につとめる必要がある。

② 営農の方向

畑作経営、酪農経営に区分されるが、経営面積の拡大を要する。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象面積 (ha)	実 施 方 法	対策資材及び機械器具 の種類、型式、数量等
排 水	500	暗渠	
有 機 物	500	堆肥、粗大有機物鋤込 糞尿撒布	スラリーインジェクター
土改資材	500	石灰、苦土、加里の施用	炭カル150～300kg/10a 熔燐100kg/10a

< 自由ヶ丘保全対策区 >

(1) 分 布

郡 市 町 村 名	面積 (ha)	該 当 土 壤 区
空知郡南富良野町	170	自由ヶ丘

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

台地上の緩傾斜地で、腐植含量少なく塩基含量も低い。一般に表土がやや薄く、水蝕の発生するところもみられる。

② 営農の方向、その他

現在主として畑作が行われ、一部畑作酪農も行われている。立地条件からみて飛躍的な経営面積の拡大は望めないことから現営農形態の中で集約化を図る方向になる。この場合、輪作体系の合理化による有機物の補給または家畜糞尿の効率的土壌還元が必要であろう。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対策地及び 対象面積(ha)	実 施 方 法	対策資材及び機械器具 の種類、型式、数量等
1.有機物施用	自由ヶ丘区 170ha	輪作体系による有機物施用。 家畜糞尿、堆肥の生産と施用。	
2.塩基の補給	同 上	炭カル施用 苦土の補給	炭カル30～50kg/10a 苦土入り肥料の使用
3.一部水蝕防止	同 上	裸地の解消	夏作跡地の被覆作物栽培 (えん麦、ライ麦)
4.漸次深耕	同 上	漸次深耕し、作土を25cm以上とする。	有機物、堆肥の施用が必要。

< 越中保全対策区 >

(1) 分布

郡 市 町 村 名	面積 (ha)	該 当 土 壤 区
空知郡南富良野町	129	越中区

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

台地上の緩傾斜地で、下層がやや堅密なため透水性がやや悪く過湿のおそれがある。表土がやや浅く、塩基にやや不足し、一部傾斜地では水蝕のおそれがある。

② 営農の方向、その他

現在、畑作及び畑作酪農または養畜混同経営がなされている。立地条件からみて大幅な経営面積の拡大には困難性があるので、地力の維持増強を加味した集約経営の方向へ進むべきであろう。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対策地及び対象面積 (ha)	実 施 方 法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等
1.有機物施用と深耕	越中区 129	堆肥等有機物を施用しながら漸次深耕。	
2.塩基の施用	"	炭カル、苦土資材の施用。	炭カル 200kg / 10a 硫酸苦土 30kg / 10a
3.排水	"	暗渠排水の完備。	一般土地改良施行基準により実施、補助事業を活用。
4.水蝕防止	"	裸地の解消 牧草栽培	夏作跡地は被覆作物を栽培（えん麦ライ麦） 緑作帯（等高線に沿い帯状に牧草栽培）を設置。

< 幾寅西保全対策地区 >

(1) 分布

郡市町村名	面積 (ha)			備 考 (該当土壌区名)
	水田	畑	計	
富良野市	90	190	280	東麓郷、上達布
南富良野町	—	319	319	幾寅、幾寅西、山畔南、シイソラブチ

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

地下水位は低く、土性は中粒質あるいは細粒質で下層砂礫層となり、腐植含量一般に少なく、肥効は大きいところであるが一般に塩基が乏しい。極力有機物質材の確保と施用につとめること、石灰、苦土、加里等塩基の施用とバランスに留意を要する。尚シイソラブチ区は磷酸資材の施用を要する。

② 営農の方向、その他

経営面積の狭少から各種作物が栽培されているが、輪作の確立、経営面積の拡大を要する。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具 の種類、型式、数量等
有機物不足 土改資材の施用	319	有機物質材の確保と施用。	炭カル 150~200 kg/10a 熔 磷 100 kg/10a
	319	石灰、苦土、加里、磷酸の施用。	

< 下学田 保全対策地区 >

(1) 分布

郡市町村名	面積 (ha)			備 考 (該当土壌区名)
	水田	畑	計	
富良野市	260	340	600	下学田、西扇山

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

蛇紋岩の混入する河成堆積で苦土の含量が多い。畑はタマネギが主に栽培されているが上層は粘質で、機械化で踏圧により表面滞水しやすい。有機物の施用、心土破碎により滞水防止を図るべきである。水田も機械化により表面排水が不良になっている。暗渠、心土破碎により透水性の増大を図るべきである。

② 営農の方向、その他

畑はタマネギ、水田に利用され、適作物と考えられる。水田においては全面基盤整備を要する。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具 の種類、型式、数量等
表面排水	160	畑；粗大有機物の作土混合による膨軟化と心土破碎（下学田）。 水田；機械化による表面排水不良のため心土破碎。	

< 下御料保全対策地区 >

(1) 分布

郡市町村名	面積 (ha)			備考 (該当土壌区名)
	水田	畑	計	
富良野市 南富良野町	590	954	1,544	下御料、島の下、麓郷、布礼別

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

土層中に小、中、大礫が多く混在するが、土性は細、中粒質で、地温が上昇することで生産性はやや高いが、一部灌水を必要とする。除礫が行われているが、農業機械の損耗多く、さらに除礫を要する。有機物の多施用を要する。また石灰、苦土等の塩基の補給もゆるがせにできない。

② 営農の方向、その他

富良野地域はスイカ、南瓜の栽培が主であり、麓郷地域は豆類、ビート、ばれいしょ、人参、東山、ト金山地域はビート、ばれいしょ、豆類、麦類が栽培されているが、経営面積の拡大を要する。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等
除 礫	954	水田：稲ワラは秋鋤込みか或は圃場簡易堆積。 畑：粗大有機物の鋤込み堆肥の施用。	ストンピッカー導入 稲ワラ鋤込みは300kg/10a
有機物施用	1,544		
土壌改良資材	954	畑：炭カル、熔燐	炭カル 100~300kg/10a 熔 燐 80~100kg/10a

< 松井保全対策区 >

(1) 分布

郡市町村名	畑面積(ha)	備考(該当土壌区名)
南富良野町	71	松井

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

地下水位は高くほぼ70cm以下がグライ層となるところである。酸性を呈し、石灰、苦土に乏しい。暗渠による排水で水位の低下を図り、また石灰、苦土等の塩基の補給、さらに有機物の施用を図るべ

きである。

② 営農の方向、その他

現在主として畑作が行われているが、立地条件からは経営面積の拡大は早急に望めないことから、現営農形態の中で集約化を図る方向になろう。この場合、輪作体系の合理化による有機物の補給が必要であろう。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対策地及び対象面積 (ha)	実 施 方 法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等
1. 過湿地	7.1	暗渠	苦土入り肥料の使用 有機物、堆肥の施用が必要
2. 塩基の補給	7.1	炭カル施用 苦土の補給	
3. 地力増強	7.1	漸次深耕	

< 伊 勢 保 全 対 策 区 >

(1) 分 布

郡 市 町 村 名	面積 (ha)	備 考 (該 当 土 壤 区)
空知郡南富良野町	530	伊勢、上落合西、上落合北

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

崩積地で何れも傾斜地からなり水蝕のおそれが多い。水蝕防止を図ることが必要である。また土性は中粒質で下層が砂礫層かなり塩基に乏しい。

② 営農の方向、その他

現在草地在り主体で一部畑にも利用されている。立地条件からみて飛躍的な経営面積の拡大は望めないことから、現営農形態の中で集約化を図る方向になろう。この場合塩基の補給または家畜糞尿の効率的な土壌還元が必要であろう。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対策地及び対象面積 (ha)	実 施 方 法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等
1. 水蝕防止	530	裸地の解消	夏作跡地の被覆作物栽培 (えん麦、ライ麦)。 苦土入り肥料の使用 糞尿撒布器、糞尿溜施設完備
2. 塩基の補給	530	炭カル施用 苦土の補給	
3. 地力増進	530	家畜糞尿の有効利用	

< 御料保全対策地区 >

(1) 分布

郡市町村名	面積 (ha)			備 考 (該当土壌区名)
	水田	畑	計	
富良野市	60	340	400	御料、上御料、南島の下

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

土層中には小、中、大礫の混入が多いが、土性は細粒～中粒質で滲透水により湿性を呈するところ(御料、上御料)と、礫の混入はやや少ないが下層堅密で透水性小さく湿性を呈するところ(南島の下)とである。

② 営農の方向、その他

御料、上御料は主にスイカ、メロン、南瓜等が栽培され、南島の下はリンゴが栽培されているが、排水、石礫除去等の基盤整備による土地の高度利用および経営の拡大を要する。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象面積(ha)	実 施 方 法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等
除 礫	400	明渠、暗渠を完備して水位は60cm以下に低下する。	ストンピッカー
排 水	400		
心土破碎	50	南島の下区で下層膨軟化と透水性付与。	心土破碎機

< 山部保全対策地区 >

(1) 分布

郡市町村名	面積 (ha)			備 考 (該当土壌区)
	水田	畑	計	
富良野市	935	420	1,355	北山部、山部、西山部

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

小、中、大礫の多い崩積土であるが、土性は細、中粒質で構造発達し、地温上昇し透水性良く、土壌は保水性もあり過干、過湿のおそれはないところである。また土壌は蛇紋岩を母材とするものが混入し塩基多く一般に生産は高い。山部西山部の両区は全面基盤整備により大型田区の造成がなされた

が、田畑輪換が可能なところであり、本地域特産のユリの栽培も多い。なおユリの栽培にあたって亜鉛欠乏が所々で認められる。またスイカ、タマネギ、豆類等各種作物が栽培されている。

② 営農の方向、その他

基盤整備により傾斜地であり切り盛もが大きく一部透水性低下も認められるので、畑に2～3年転換して土層の亀裂造成を図り、また地力維持の面からも輪換による利用を検討すべきであろう。なお経営面積の拡大が必要である。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等
除 礫	1,355		ストンピッカー
亜鉛欠乏	1,355	ユリ：亜鉛施用、葉面撒布	農業改良普及所、営農指導所の指導による。
有機物施用	1,355	田：稲ワラの場合は秋に鋤込むか堆積によること。 畑：粗大有機物の施用か堆肥	300kg/10a

< 北落合保全対策地区 >

(1) 分布

郡市町村名	面積 (ha)	備考 (該当土壌区名)
空知郡南富良野町	1,520	落合南、上落合、北落合

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

傾斜を有する台地であって気象条件も冷涼である。また土壌は作土が軽石質の粗粒質であり塩基に乏しくまた瘠薄化しやすい土壌である。また磷酸も乏しい。

② 営農の方向、その他

現在酪農形態が主体であり草地となっている。立地条件からみて大幅な経営面積の拡大には困難性があるので、地力の維持増強を加味した収量の増加による多頭飼育の方向へ進み土地の高度利用を図るべきであろう。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対策地及び対象面積 (ha)	実 施 方 法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等
1.有機物施用と深耕	1,520	家畜糞尿の施用、堆肥施用、草地更新時に深耕。	糞尿撒布器
2.塩基の補給	1,520	炭カル施用 苦土の補給	炭カル50～60kg/10a 苦土入り肥料の使用
3.水蝕防止	1,520	裸地の解消	
4.磷酸の施用	1,520	磷酸資材の施用と増施	

4、調査成績一覽

1) 土壤分析成績

保全対策区	土壌区	地点番号	層位	深さ cm	理 学 性											
					風乾細土中		細土無機物中					土性	P H		置換 酸度 Y ₁	
					水分	腐植	粗砂	細砂	砂合計	シルト	粘土		H ₂ O	KCl		
					%	%	%	%	%	%	%					
大 沼	大 沼	102	1	0~16	4.6	10.6	36.9	19.7	56.6	2.37	19.6	C L	5.5	4.6	15	
			北大沼	103	1	0~18	3.1	11.8	40.7	19.8	60.5	20.7	18.8	C L	5.3	4.5
				2	18~42	7.4	21.6	34.2	25.7	59.9	2.47	15.5	C L	5.0	4.3	2.3
				3	42~60	10.7	56.7	1.3	19.8	2.11	45.0	33.9	SiC	5.5	4.7	0.7
				4	60~71	8.7	4.12	1.1	8.1	9.2	50.7	40.1	SiC	5.4	4.7	0.9
		西島沼	105	1	0~13	4.5	6.3	32.7	1.66	49.3	19.1	31.6	LiC	5.8	4.6	0.9
	2			13~23	3.5	10.8	42.4	18.2	60.6	22.5	16.9	C L	5.3	4.3	3.7	
	3			23~28	—	7.63	—	—	—	—	—	—	—	5.0	4.1	3.7
	4			28~53	—	5.09	—	—	—	—	—	—	—	3.3	3.2	5.50
	東学田	東富良野	236	1	0~13	9.2	7.7	19.5	22.5	42.0	2.36	34.4	LiC	5.8	4.5	1.8
2				13~24	16.7	8.8	20.8	20.7	41.5	32.5	26.0	LiC	5.5	4.3	2.9	
3				24~35	8.5	6.8	1.9	20.7	22.6	28.1	49.3	H C	5.2	3.9	10.0	
4				35~55	5.2	1.4	3.1	4.11	44.2	16.9	38.9	S C	5.2	3.6	17.4	
		達 布	167	1	0~15	2.6	6.6	48.1	16.7	64.8	16.8	18.4	SCL	4.8	4.3	4.6
2				15~27	2.4	5.2	32.3	22.6	54.9	20.4	24.7	C L	5.1	4.5	2.4	
3				27~50	6.3	5.2	17.1	2.18	38.9	27.0	34.1	LiC	5.4	4.4	2.1	
		東 山	160	1	0~20	3.4	5.5	5.13	1.38	65.1	15.4	19.5	SCL	4.6	4.2	5.2
2				20~27	3.2	4.8	5.21	1.32	65.3	17.4	17.3	SCL	4.9	4.3	4.3	
3				30~40	8.6	1.20	1.23	20.9	3.32	30.9	35.9	LiC	5.0	4.3	6.2	

化 学 性												
有 機 物			塩基 置換 容量 me / 100g	置 換 性 塩 基 100g中			飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	30℃ 1nc. NH ₃ -N mg/ 100g 乾土 湿土	有効態P2O5 mg/100g		遊 離 酸 化 鉄 %
T-C	T-N	C/N		CaO mg/me	MgO mg/me	K ₂ O mg/me				Bray 法	Troug 法	
6.13	0.48	12.8	20.4	237.9/8.5	4.48/2.22	16.5/0.35	5.43	1.380	15.4	15.9		0.87
6.79	0.55	12.4	21.2	243.5/8.7	4.97/2.47	10.5/0.25	5.39	9.60	1.82	11.1		0.79
12.47	0.48	26.0	59.5	187.5/6.7	30.5/15.1	3.0/0.06	3.18	1.600	5.46	6.6		0.77
32.80	1.45	22.6	70.4	204.3/7.3	3.65/1.81	2.0/0.04	1.30	1.450		3.2		0.80
23.80	1.81	13.2	64.5	335.8/12.0	8.29/4.11	4.6/0.10	2.51	1.650		3.6		0.84
3.63	0.25	14.5	15.8	218.3/7.8	5.47/2.71	9.8/0.21	6.78	8.00	6.3	7.1		1.26
6.22	0.44	14.1	17.5	156.7/5.6	2.98/1.48	4.2/0.09	4.10	8.80	1.46	11.2		0.82
44.10	2.61	16.9	76.5	114.7/4.1	2.12/1.05	1.1/0.02	6.8	3.000		3.4		2.14
29.44	2.24	13.1	76.6	83.9/3.0	15.3/0.76	0.2/0.00	4.9	5.40		3.4		0.93
4.42	0.36	12.3	27.3	37.1/1.23	5.80/2.88	1.27/0.27	5.66	1.220	7.7	14.3		1.43
5.09	0.42	12.1	28.8	31.5/1.12	6.88/3.41	1.23/0.26	5.16	1.240	4.9	12.7		1.26
3.95	0.27	14.6	34.1	2.41/8.6	9.45/4.69	1.32/0.28	3.98	1.500		5.8		2.26
0.80	0.06	3.3	27.6	1.61/5.7	22.88/11.35	1.05/0.22	6.26	1.040		5.0		1.25
3.79	0.34	11.2	14.5	60.2/2.2	3.2/0.16	5.0/0.11	1.70	6.20	4.2	3.66		0.50
3.01	0.28	10.8	11.6	11.9/4.2	7.5/0.37	1.23/0.26	4.16	8.00	1.33	8.5		1.11
3.01	0.24	12.5	1.68	1.68/5.99	9.1/0.45	6.5/0.14	3.92	1.080		5.1		1.58
3.17	0.28	11.3	15.3	9.79/3.5	1.86/0.92	6.00/1.28	2.50	7.80	6.2	6.42		0.60
2.79	0.23	12.1	11.3	8.39/3.0	1.46/0.72	2.58/0.55	3.78	6.80	4.2	4.59		0.54
6.92	0.55	12.6	29.4	8.67/3.1	1.26/0.63	3.00/0.64	1.49	1.540		1.67		0.29

保全対策区	土壌区	地点番号	層位	深さ cm	理 学 性										
					風乾細土中		細土無機物中					土性	PH		置換 酸度 Y ₁
					水分 %	腐植 %	粗砂 %	細砂 %	砂 合計 %	シル ト %	粘土 %		H ₂ O	KCl	
東学田	東学田	F128	1	0~17	4.8	7.5	11.6	30.1	41.7	29.7	28.6	LiC	5.2	4.3	4.6
			2	17~32	8.5	8.0	13.7	33.0	46.7	24.4	28.9	LiC	5.1	4.3	5.2
			3	32~45	15	16.7	0.7	18.0	18.7	38.7	42.6	LiC	4.8	4.0	10.4
			4	45~70	4.1	18	0.8	44.2	45.0	27.5	27.5	LiC	4.8	3.8	15.6
	寿	中フ ラノ 98	1	0~12	4.2	2.4	33.5	33.5	67.0	16.5	16.5	SCL	4.9	3.9	10.5
			2	12~21	4.9	1.1	1.9	71.6	73.5	15.9	10.6	S L	4.9	3.9	14.4
			3	21~35	6.2	2.3	0.9	47.9	48.8	36.3	14.8	L	4.8	3.9	9.8
	扇山	F231	1	0~15	4.6	7.1	37.8	32.6	70.4	15.7	13.9	S L	5.9	4.8	1.1
			2	15~37	4.5	6.6	62.3	18.0	80.3	10.4	9.3	S L	6.0	4.9	1.3
			3	37~70	3.7	3.9	60.2	24.7	84.9	11.0	4.1	S L	6.1	4.9	0.9
	十梨別 東	N77	1	0~18	3.1	4.9	50.1	19.2	69.3	12.8	17.9	SCL	5.6	4.5	2.5
			2	18~41	4.8	4.0	13.1	30.4	43.5	27.2	29.3	LiC	6.0	4.7	2.3
富良野	富良野	F67	1	0~13	2.8	2.4	26.5	36.0	62.5	20.6	16.9	C L	5.5	4.6	0.6
			2	13~22	3.1	1.9	22.3	36.5	58.8	24.0	17.1	C L	6.0	5.2	0.4
			3	22~50	3.1	1.0	27.8	45.7	73.5	18.1	8.5	S L	5.3	5.3	0.3
		F2	1	0~22	4.2	2.7	14.4	31.4	45.8	26.0	28.9	LiC	5.7	4.3	2.2
			2	22~35	4.2	1.1	15.7	42.8	58.5	24.5	17.1	C L	5.7	4.0	7.4
			3	35~50	3.6	0.7	12.5	47.5	60.0	20.8	19.1	C L	5.7	4.0	6.7
	西学田	F125	1	0~16	6.0	4.8	10.4	36.1	46.5	24.5	29.0	C L	5.4	4.3	4.9
			2	16~35	11.7	10.1	5.7	49.8	55.5	30.1	14.4	L	5.7	4.6	2.1
			3	35~70	5.7	2.3	34.7	47.7	82.4	10.3	7.3	S L	5.2	4.7	1.6
	烏沼	F225	1	0~20	1.7	3.2	54.3	15.6	69.9	20.2	9.9	S L	6.1	4.9	0.4

化 学 性												
有 機 物			塩基 置換 容量 me/ 100g	置換性塩基 100g中			飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	30℃ in c. NH ₃ -N mg/100g 乾土 / 湿土	有効態P205		遊離 酸 化 鉄 %
T-C	T-N	C/N		CaO mg/me	MgO mg/me	K ₂ O mg/me				Bray No.2 法	Tro- ug 法	
4.33	0.33	1.31	2.20	171/6.1	27.4/1.36	1.09/0.23	35.0	1.100	9.7	6.8		1.98
4.60	0.34	1.35	2.26	143/5.1	17.4/0.86	8.5/0.18	27.2	1.140	4.8	8.7		2.40
9.67	0.53	1.83	4.32	241/8.6	25.7/1.27	1.14/0.24	2.34	1.760	—	3.7		2.60
1.05	0.08	1.31	1.87	227/8.1	34.8/1.73	1.23/0.26	5.40	5.00	—	5.6		0.63
1.37	0.13	1.09	2.39	156.8/5.6	72.4/3.6	2.90/0.62	4.1	1.260	6.72	15.5		1.07
0.60	0.05	1.14	2.30	173.6/6.2	72.4/3.6	16.0/0.34	4.4	1.280	0.84	6.5		1.15
1.36	0.10	1.42	1.49	168.0/6.0	12.1/0.6	1.10/0.24	4.6	1.760	—	2.5		2.10
4.09	0.30	1.36	2.06	290/1.03	36.5/1.81	1.73/0.37	60.6	9.60	5.6	25.5		0.72
3.84	0.28	1.37	1.58	217/7.7	31.5/1.56	2.25/0.48	6.16	8.60	2.5	2.34		0.60
2.24	0.08	2.80	1.19	150/5.4	2.16/1.07	50.0/1.06	63.3	1.020		1.25		0.64
2.82	0.22	1.3	1.43	153.1/5.5	43.6/2.2	1.08/0.2	5.5	1.073	9.0	7.2		0.74
2.33	0.22	1.1	2.11	273.4/9.8	116.1/5.8	1.89/0.4	7.6	1.302	1.78	tr		0.97
1.36	0.13	1.05	1.85	260.3/9.3	132.6/6.58	36.5/0.77	90.0	6.40	3.5	42.0		1.10
1.09	0.11	9.9	1.87	319.0/1.14	137.6/6.83	33.5/0.71	10.13	7.20	2.2	29.6		0.93
0.56	0.04	1.40	1.54	268.7/9.6	159.2/7.90	19.0/0.40	11.62	7.60		2.7		0.86
1.54	0.25	6.2	2.06	313.4/1.12	44.8/2.22	8.2/0.17	66.0	9.60	7.8	2.5	—	1.38
0.62	0.09	6.9	1.82	235.1/8.4	76.3/3.78	5.8/0.13	67.6	8.90	2.2	0.5	—	1.32
0.42	0.06	7.0	1.82	215.5/7.7	134.3/6.66	5.8/8.13	7.96	9.30		0.4	—	1.45
2.76	0.21	1.31	1.68	129/4.6	21.6/1.07	1.14/0.24	35.2	8.80	4.9	8.2		1.48
5.85	0.34	1.72	1.77	154/5.5	28.2/1.40	1.23/0.26	4.05	1.840	0.7	3.5		1.70
1.32	0.10	1.32	9.1	26/0.9	5.8/0.29	8.9/0.19	15.2	1.040		4.3		0.61
1.82	0.12	15.2	9.1	156.7/5.6	24.9/1.23	1.48/0.32	7.86	4.80	2.1	15.4		0.54

保全対策区	土壌区	地点番号	層位	深さ (cm)	理 学 性											
					風乾細土中		細土無機物中					土性	PH		置換酸度 Y ₁	
					水分 %	腐植 %	粗砂 %	細砂 %	砂合計 %	シルト %	粘土 %		H ₂ O	KCl		
富良野	烏 沼	F225	2	20~40	1.8	2.6	56.1	19.5	75.6	14.1	10.3	S L	5.8	4.7	1.0	
			十梨別	M76	1	0~15	3.4	3.9	17.0	19.7	66.7	14.3	19.0	C L	5.5	4.4
				2	15~35	4.3	3.1	15.5	32.2	47.7	21.6	30.7	LiC	5.5	4.3	7.9
				3	35~60	4.2	—	33.2	36.2	69.4	12.0	18.6	SCL	5.6	4.2	6.9
	下金山東	M60	1	0~15	4.0	6.7	42.8	18.9	61.7	16.7	21.6	SCL	5.6	4.8	0.9	
			2	15~32	4.4	6.7	45.6	18.1	63.7	19.9	16.4	SCL	5.9	4.7	1.5	
			3	32~50	4.5	2.8	10.5	40.1	50.6	27.4	22.0	C L	5.5	4.1	20.9	
	八 幡	八 幡	F24	1	0~15	2.1	4.7	48.3	18.0	66.3	14.8	18.9	SCL	5.9	4.8	0.8
				2	15~45	3.1	2.4	40.4	30.6	71.0	15.5	13.4	S L	6.0	4.8	0.6
南布礼別		F183	1	0~23	3.9	0.5	27.9	15.6	43.5	24.3	32.2	LiC	5.4	4.2	2.7	
			2	23~38	7.9	3.5	5.2	12.7	17.9	3.37	48.4	H C	5.2	4.1	11.6	
			3	38~60	10.6	2.7	5.1	19.8	24.9	27.0	48.1	H C	5.2	4.1	14.6	
		F172	1	0~15	2.4	3.3	34.5	15.6	50.1	21.3	28.6	LiC	5.1	4.2	3.4	
			2	15~60	5.8	2.1	12.2	16.1	28.3	28.5	43.2	LiC	5.1	4.0	11.3	
			3	60~	3.0	0.6	39.7	22.0	61.7	12.8	25.5	S C	5.2	4.1	6.7	
西達布		F 4	1	0~18	1.9	2.9	46.3	18.1	64.4	16.5	19.1	SCL	5.9	4.9	0.6	
			2	18~55	3.7	3.8	32.3	32.7	65.0	24.0	11.0	L	5.5	4.4	2.9	
	3		55~70	2.7	0.8	48.0	24.8	72.8	25.3	1.9	S L	5.3	4.4	3.2		
富 丘	平 沢	F197	1	0~20	5.1	6.0	44.9	12.8	57.7	8.9	33.4	S C	5.2	4.2	2.6	
			2	20~35	11.2	3.5	1.9	5.5	7.4	14.7	77.9	H C	4.8	3.6	18.1	
				1	0~17	3.2	4.9	29.2	16.2	45.4	19.9	34.7	LiC	5.0	4.2	2.3
				2	17~33	2.9	2.1	21.1	18.7	39.8	30.7	29.5	LiC	5.0	4.0	5.3

化 学 性												
有機物			塩基 置換 容量 me / 100g	置換性塩基 100g中			飽 和 度 %	磷酸 吸收 係数	30°C, NH ₃ -N mg/100g 乾土 / 湿土	有効態 P205 mg/100g		遊離 酸化 鉄 %
T-C	T-N	C / N		CaO mg/me	MgO mg/me	K ₂ O mg/mo				Bray No2法	Troug 法	
15.0	0.10	15.0	8.1	139.9/5.0	18.2/0.90	16.0/0.34	77.0	4.20	14	128		0.57
2.30	0.19	12	134	144.9/5.2	74.9/3.7	10.9/0.2	68	1.159	6.8	124		0.70
1.82	0.15	12	17.0	181.4/6.5	69.3/3.4	12.0/0.3	60	1.379	3.2	4.2		0.92
—	—	—	19.5	263.1/9.4	115.5/5.7	7.3/0.2	78	1.190	—	2.6		0.88
3.88	0.32	12	234	350.1/12.5	54.5/2.7	24.5/0.5	67	1.375	3.7	16.7		0.83
3.89	0.31	12	218	380.7/13.6	61.0/3.0	17.8/0.4	78	1.276	5.1	22.5		0.77
1.64	0.13	13	22.1	187.6/6.7	42.1/2.1	9.9/0.2	41	1.319	—	4.2		1.08
2.72	0.18	15.0	9.1	123.1/4.4	15.6/0.77	32.5/0.69	48.4	7.10		—	15.2	—
1.39	0.09	15.4	7.3	83.7/3.0	6.6/0.33	7.2/0.15	41.1	9.50		—	0.8	—
0.26	0.02	13.0	15.4	179.1/6.4	27.5/1.37	33.5/0.71	41.6	8.20		—	17.0	—
2.02	0.15	13.5	19.5	89.5/3.2	9.0/0.44	7.2/0.16	16.4	1.560		—	tr	—
1.56	0.12	13.0	21.9	123.1/4.4	10.9/0.54	14.0/0.30	20.1	—				
1.93	0.16	12.1	10.7	128.7/4.6	76.3/3.78	22.0/0.47	43.0	4.20		—	6.0	—
1.19	0.09	13.2	15.2	139.9/5.0	56.4/2.80	6.4/0.14	32.9	1.000		—	tr	—
0.32	0.02	16.0	6.3	57.4/2.1	121.0/6.00	5.4/0.12	33.3	3.00		—	tr	—
1.66	0.22	7.6	10.2	137.5/6.7	10.9/0.54	16.4/0.34	65.7	5.60		—	25.6	—
2.21	0.17	13.0	12.0	92.3/3.3	3.9/0.19	7.8/0.17	27.5	1.190		—	tr	—
0.44	0.03	14.7	5.3	22.5/0.8	1.3/0.06	15.5/0.33	34.0	7.10		—	0.8	—
3.45	0.27	12.8	15.9	187.5/6.7	19.9/0.99	23.3/0.50	42.1	7.00		—	25.0	
2.02	0.21	9.6	27.6	268.7/9.6	33.2/1.64	30.0/0.64	34.8	1.320		—	3.0	—
2.85	0.21	13.6	16.2	176.3/6.3	33.2/1.14	6.70/1.42	38.9	6.80		—	21.0	—
1.22	0.08	15.3	9.9	78.3/2.8	10.9/0.54	14.8/0.32	28.3	6.20		—	tr	

保全対策区	土壌区	地点番号	層位	深さ (cm)	理 学 性											
					風乾細土中		細土無機物中					土性	P H		置換 酸度 Y ₁	
					水分 %	腐植 %	粗砂 %	細砂 %	砂 合計 %	シル ト %	粘土 %		H ₂ O	KCl		
富丘	富丘	212	3	33~55	3.6	1.2	19.0	17.2	36.2	32.1	31.7	LiC	5.2	3.9	7.6	
			F217	1	0~23		4.8	2.2	19.4	4.1	29.2	29.0	LiC	6.0	4.8	0.4
				2	23~37		2.0	1.6	18.1	3.4	4.1	2.4	C L	5.7	4.3	1.5
		3		37~55		2.3	1.5	3.5	5.1	2.7	2.0	C L	5.6	4.1	2.6	
		F171	1	0~15	3.1	4.8	5.6	0.9	6.6	1.5	1.8	SCL	5.9	5.0	0.4	
			2	15~25	2.4	4.6	5.7	1.1	6.9	0.7	2.2	SCL	5.4	4.7	0.6	
			3	25~55	4.6	6.8	1.5	1.4	3.0	1.5	5.4	H C	5.5	4.2	5.9	
		F199	1	0~20	3.7	4.5	4.0	1.2	5.3	1.7	2.9	LiC	6.0	4.9	0.5	
			2	20~33	3.9	1.7	2.6	1.7	4.4	2.5	2.9	LiC	5.4	4.1	3.1	
			3	33~70	4.6	1.0	2.5	1.9	4.5	2.7	2.7	LiC	5.5	4.1	3.7	

化 学 性													
有 機 物			塩基 置換 容量 me/ 100g	置換性塩基 100g中			飽 和 度 %	磷酸 吸收 係数	37C Inc. NH ₃ -N mg/100g 乾土 /湿度	有効態 P205 mg/100g		遊離 酸化 鉄 %	
T-C	T-N	C / N		CaO mg/me	MgO mg/me	K ₂ O mg/me				Bray 法	Troug 法		
0.70	0.05	14.0	11.7	114.7/4.1	24.5/1.22	8.8/0.18	35.0	740		-	tr	-	
2.75	0.19	14.5	16.8	274.3/9.8	25.2/1.25	16.0/0.34	58.3	680		-	6.0	-	
11.5	0.08	14.4	12.2	176.3/6.3	26.9/1.33	8.8/0.18	51.6	800		-	tr	-	
13.3	0.04	33.3	11.4	131.5/4.7	41.5/2.06	9.0/0.17	41.2	780		-	tr	-	
2.77	0.24	11.5	16.3	307.8/11.0	33.2/1.60	24.5/0.52	67.5	440		-	34.0	-	
2.66	0.22	12.1	14.2	243.5/8.7	29.5/1.46	41.0/0.87	61.3	300		-	29.0	-	
3.93	0.36	10.9	30.0	391.8/14.0	33.2/1.64	41.5/0.88	46.7	1,220		-	4.0	-	
2.59	0.23	11.3	17.3	313.4/11.2	119.4/5.92	44.5/0.94	64.7	820		-	19.0	-	
0.98	0.08	12.3	13.9	151.1/5.4	9.78/4.85	2.25/0.48	38.8	700		-	tr	-	
0.55	0.04	13.8	10.9	11.9/4.2	2.32/1.15	2.05/0.44	38.5	560		-	tr	-	

2) 土 壤 分 析 成 績 (水 田)

保 全 対 策 区	土 壤 区 号	地 点 番 号	層 位	深 さ (cm)	理 学 性											現 地 における 理 学 性 100cc 容 中				
					礫 (風乾物中) %	風 乾 細 土 中		細 土 無 機 物 中						土 性	容 積 重 g	固 相 容 積 cc	水 分 容 積 cc	空 気 容 積 cc	孔 隙 率 %	
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シ ル ト %	粘 土 %								
自由ヶ丘	自由ヶ丘	M68	1	0~20		3.4	3.8	50.8	10.3	61.6	18.3	20.6	SCL	101.1	38.8	25.2	36.0	61.2		
			2	20~45		7.8	2.4	6.2	17.4	23.6	48.3	28.1	SiC	113.8	42.2	44.8	13.0	57.8		
			3	45~73		5.6	—	2.0	10.9	12.9	40.7	46.4	H C	135.6	50.2	44.3	5.5	49.8		
越中	越中	M20	1	0~18		4.0	5.1	28.1	21.7	49.8	28.7	21.5	C L	104.6	40.6	42.4	17.0	59.4		
			2	18~30		5.3	3.9	10.3	22.3	32.6	37.0	30.4	LiC	102.9	43.0	39.3	17.7	57.0		
			3	30~50		4.6	—	14.2	29.6	43.8	36.1	20.1	C L	126.3	45.7	44.0	10.3	54.3		
幾 賀 西	幾 賀	M3	1	0~25		2.8	3.8	34.7	35.5	70.2	21.7	8.1	S L							
			2	25~38		3.8	2.6	8.3	61.0	69.3	22.7	8.0	S L							
			3	38~62		3.3	—	16.3	66.6	82.9	14.5	2.6	S L							
	幾 賀 西	M14	1	0~18		3.5	4.2	31.9	26.0	57.9	30.0	12.1	L							
			2	18~45		4.4	—	11.5	42.5	54.0	41.2	4.8	L							
	山 畔 南	M22	1	0~25		5.9	8.9	39.0	26.6	65.6	24.1	10.3	S L							
			2	25~42		3.7	3.0	40.2	28.3	68.5	25.7	5.8	S L							
	東 麓 郷	F34	1	0~28		2.1	3.1	37.9	21.5	59.4	16.0	24.6	SCL							
			2	28~42		2.7	4.0	32.3	23.3	55.5	23.3	21.2	C L							
			3	42~60		3.1	2.6	22.2	30.7	52.9	30.9	16.3	C L							
		F163	1	0~20		2.4	4.2	46.9	18.5	65.4	14.9	19.7	SCL							
			2	20~45		1.9	1.0	28.0	31.8	59.8	18.6	21.6	SCL							
3			45~90		2.6	0.5	44.0	28.4	72.4	16.2	11.4	S L								
シ イ ソ ラ ブ チ	M39	1	0~18		7.0	12.1	42.9	21.4	64.3	22.2	13.5	L	84.8	32.4	49.1	18.5	67.6			
		2	18~40		12.4	12.9	20.1	40.1	60.2	28.5	11.3	L	60.8	26.3	56.1	17.7	73.8			
		3	40~55		10.8	8.9	30.1	47.9	78.0	18.6	3.4	S L	66.8	27.3	60.1	12.7	72.8			
		4	55~70		7.6	—	21.0	57.7	78.7	21.3	0	S L	79.9	29.2	53.0	17.8	70.8			
上 達 布	F152	1	0~15	—	4.4	6.4	49.4	18.2	67.6	19.9	12.5	S L								
		2	15~30	—	4.2	6.5	48.6	18.9	67.5	18.0	14.5	S L								
		3	30~50	—	7.0	9.0	21.4	39.0	60.4	30.5	9.1	L								
		4	50~	—	6.9	4.1	21.4	48.1	69.5	13.8	16.7	SCL								

化 学 性																
P H		置 換 酸 度 Y ₁	有 機 物			塩 基 置 換 容 量 mg/ 100g	置換性塩基mg/me 100g			塩 基 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 數	30°C NH ₄ -N 発生量		有効態		遊 離 酸 化 鉄 %
H ₂ O	KCl		T-C	T-N	C / N		CaO	MgO	K ₂ O			乾 土	湿 土	E ₂ O ₅	N	
5.4	4.3	38	2.30	0.13	17	12.2	136.2/4.9	37.5/19	18.1/0.4	40	932	--	--	21.7	--	--
5.1	4.0	188	14.9	0.12	13	21.3	164.1/5.9	52.3/26	10.9/0.2	28	1,606	--	--	tr	--	--
5.1	3.8	15.5	--	--	--	17.7	151.2/5.4	55.4/2.8	6.9/0.2	29	1,186	--	--	tr	--	--
5.1	4.1	6.4	2.93	0.24	12	16.2	130.0/4.7	8.6/0.4	23.8/0.5	29	542	--	--	22.9	--	--
5.5	4.3	4.5	2.28	0.21	11	16.4	148.4/5.3	6.8/0.3	49.1/1.1	32	1,246	--	--	4.2	--	--
5.7	4.4	2.1	--	--	--	12.9	28.0/1.0	95.6/4.7	23.8/0.5	8	964	--	--	tr	--	--
6.2	5.0	0.4	2.24	0.21	11	15.2	282.2/10.1	27.6/1.3	17.5/0.4	66	556	--	--	22.6	--	--
6.4	5.3	0.3	1.55	0.15	11	13.5	271.5/9.7	10.86/5.4	20.3/0.4	72	790	--	--	6.2	--	--
6.6	5.3	0.4	--	--	--	9.2	175.2/6.2	20.3/1.0	12.2/0.3	67	600	--	--	4.1	--	--
6.3	5.3	0.4	2.42	0.21	12	14.0	284.1/10.2	14.8/0.7	19.9/0.4	73	497	--	--	20.7	--	--
5.8	4.6	2.8	--	--	--	11.1	35.7/1.3	7.1/0.3	42.2/0.9	11	920	--	--	16.7	--	--
5.8	4.8	1.1	5.19	0.38	14	20.9	217.4/7.8	23.3/1.2	36.0/0.8	37	1,552	--	--	25.5	--	--
5.8	4.8	1.5	1.74	0.13	13	10.3	52.2/1.9	21.2/1.0	23.9/0.5	18	1,308	--	--	4.2	--	--
5.9	4.7	0.6	1.80	0.13	14	16.0	193.1/6.9	23.2/1.15	26.5/0.56	43	540	--	--	12.0	--	--
6.0	4.7	0.6	2.31	0.09	25	10.6	198.7/7.1	9.0/0.44	12.5/0.27	67	780	--	--	tr	--	--
5.2	4.0	10.2	1.49	0.03	--	8.6	92.3/3.3	9.9/0.49	26.5/0.56	38	640	--	--	tr	--	--
5.5	4.4	1.5	2.41	0.22	11	12.3	159.5/5.7	9.6/0.48	22.0/0.47	54	480	7.3	--	34.4	--	0.58
5.6	4.2	2.4	0.55	0.04	14	7.9	109.1/3.7	8.6/0.43	7.6/0.16	57	320	3.5	--	5.4	--	0.41
5.4	4.1	3.4	0.28	0.01	--	4.3	78.3/2.8	8.6/0.43	20.5/0.44	85	200	--	--	8.4	--	0.24
5.7	4.6	2.9	7.05	0.51	14	24.7	213.7/7.6	15.2/0.8	15.6/0.3	31	1,656	--	--	10.8	--	--
5.8	4.7	2.8	7.49	0.51	15	39.6	166.3/5.9	9.1/0.5	20.6/0.4	15	2,375	--	--	4.6	--	--
5.7	4.7	1.9	5.12	0.40	13	27.4	69.1/2.5	11.3/0.6	7.3/0.2	9	2,466	--	--	5.6	--	--
5.8	5.0	0.9	--	--	--	13.0	51.5/1.8	17.4/0.9	32/0.1	14	1,969	--	--	4.3	--	--
5.9	5.1	0.5	3.72	0.26	14	15.3	251.9/9.0	19.9/0.99	27.0/0.57	69	660	4.5	--	30.7	--	0.72
6.0	5.1	0.5	3.75	0.26	14	15.1	246.3/8.8	18.9/0.94	21.5/0.46	68	600	2.4	--	35.2	--	0.67
5.5	4.7	1.5	5.21	0.37	14	23.7	139.9/5.0	18.2/0.90	25.0/0.53	27	1,580	--	--	4.9	--	--
5.5	4.6	2.3	2.37	0.18	13	14.6	35.0/1.3	1.5/0.07	2.8/0.05	10	1,180	--	--	4.4	--	--

2) 土壤分析成績 (水田)

保全対策区	土壌区	地点番号	層位	深さ (cm)	理 学 性													
					礫 (風乾物中) %	風乾細土中		細土無機物中					土性	現地における物理学性100cc容中				
						水分 %	腐植 %	粗砂 %	細砂 %	砂合計 %	シルト %	粘土 %		容積重 g	固相容積 cc	水分容積 cc	空気容積 cc	孔隙率 %
下学田	F138	1	0~19	3.9	3.0	6.4	32.9	39.3	34.0	26.7	LiC							
		2	19~30	4.4	3.0	5.3	31.9	37.2	33.5	29.3	LiC							
		3	30~60	3.3	1.7	0.7	38.1	38.8	36.6	24.6	C L							
	F122	1	0~17	2.7	2.3	11.0	49.1	60.1	25.2	14.7	L							
		2	17~35	3.2	1.6	17.0	54.2	71.2	15.6	13.2	S L							
	西扇山	F235	1	0~18	8.2	11.6	14.3	21.0	35.3	32.1	32.6	LiC						
			2	18~32	6.9	6.7	11.0	23.2	34.2	27.0	38.8	LiC						
			3	32~50	5.5	2.8	31.3	9.1	40.4	48.5	11.1	SiL						
4			50~67	—	2.1	27.6	40.3	67.9	20.9	11.2	S L							
下御料	F16	1	0~20	2.6	6.7	33.6	18.0	51.6	23.5	24.8	C L							
		2	20~32	2.9	4.6	15.7	16.4	32.1	36.7	31.2	LiC							
		3	32~60	3.8	4.2	23.5	18.1	41.6	30.0	28.4	LiC							
		4	60~	2.9	0.8	21.3	45.7	67.0	21.5	11.6	S L							
	島の下	F9	1	0~20	2.3	4.1	18.5	30.2	48.7	26.0	25.3	LiC						
			2	20~43	3.0	2.2	15.4	26.5	41.9	32.8	25.3	LiC						
			3	43~65	4.3	1.4	33.2	31.7	64.9	16.8	18.1	SCL						
	麓郷	F31	1	0~15	3.0	5.4	37.1	19.7	56.8	23.4	19.7	C L						
			2	15~20	3.8	2.4	30.7	22.8	53.5	26.8	19.7	C L						
			3	20~50	5.5	1.2	23.6	31.1	54.7	27.2	18.1	C L						
	布礼別	F39	1	0~15	6.6	5.6	27.7	28.0	55.7	25.5	18.7	C L						
			2	15~25	4.8	6.4	32.6	21.6	54.2	24.1	21.7	C L						
3			25~45	10.4	4.6	15.0	58.5	73.5	20.3	6.3	S L							

化 学 性																
PH		置 換 酸 度 Y ₁	有 機 物			塩 基 置 換 容 量 mg/ 100g	置換性塩基mg/100g			塩 基 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	30°C NH ₄ -N 発生量		有 効 態 mg/100g		遊 離 酸 化 鉄 %
H ₂ O	KCl		T-C %	T-N	C / N		CaO	MgO	K ₂ O			乾 土	湿 土	P ₂ O ₅	N	
6.7	5.7	0.3	1.76	0.17	20	19.7	405/14.4	1078/5.35	225/0.48	73	720			24.0		
6.7	5.7	0.3	1.76	0.17	10	19.8	405/14.4	126.0/6.25	114/0.24	73	780			18.0		
6.9	5.8	0.3	1.00	0.11	9	18.1	325/11.6	1990/9.87	123/0.26	64	720			7.0		
6.7	5.7	0.3	1.34	0.12	11	17.0	287/10.2	86.2/4.28	536/1.14	60	540			87.0		
7.0	5.9	0.3	0.94	0.08	12	16.3	336/12.0	86.2/5.36	42.1/0.89	74	400			54.0		
5.5	4.3	3.0	6.68	0.36	19	26.4	325/11.6	35.6/1.77	13.6/0.29	52	1,180	6.2		11.1	0.97	
6.0	4.7	1.1	3.35	0.28	14	28.1	360/12.8	58.9/2.92	36.1/0.77	59	1,340	4.9		5.5	1.20	
6.2	4.5	2.0	1.64	0.12	14	19.0	290/10.3	68.0/3.37	28.5/0.61	75	1,040	--		4.5	1.16	
6.0	4.3	2.6	1.21	0.09	13	17.7	245/8.7	92.8/4.60	20.5/0.44	78	960	--		4.4	1.21	
5.4	4.2	2.4	3.85	0.25	15	17.0	202/7.2	39.8/1.97	39.0/0.83	42	650			69.6		
5.2	4.0	9.9	2.65	0.19	14	14.7	143/5.1	33.2/1.64	10.0/0.21	35	790			5.6		
4.9	4.0	20.8	2.41	0.19	13	18.0	84/3.0	18.9/0.94	6.4/0.14	17	1,070			2.4		
5.1	3.9	26.9	0.47	0.06	8	14.7	90/3.2	34.1/2.14	7.8/0.17	22	610			1.6		
6.0	4.8	0.5	2.35	0.10	24	16.5	347/12.4	33.2/1.64	38.5/0.82	75	590			46.4		
6.0	4.5	1.0	1.24	--	--	16.0	358/12.8	27.5/1.37	18.0/0.38	80	770			2.4		
5.5	4.0	10.6	--	--	--	16.7	238/8.5	58.0/2.88	4.8/0.10	51	830			0.8		
6.2	5.2	0.6	3.09	0.24	13	14.1	325/11.6	16.2/0.81	9.6/0.20	82	810			16.0		
6.5	5.4	0.4	1.39	0.12	12	12.1	280/10.0	9.9/0.49	8.4/0.18	83	850			1.6		
5.5	4.2	4.2	--	--	--	11.2	151/5.4	18.2/0.90	21.0/0.45	48	850			0.8		
5.6	4.6	1.3	3.23	0.23	14	18.0	249/8.9	16.9/0.84	10.0/0.21	55	1,540	6.0		4.5	1.50	
5.8	4.9	0.5	3.70	0.26	14	18.2	363.8/13.0	20.2/1.00	14.0/0.30	79	1,240	3.5		8.2	1.33	
5.9	5.1	0.6	2.68	0.18	15	18.0	193/6.9	10.9/0.54	10.5/0.22	43	2,100	--		2.6	1.78	

土壤分析成績(畑)

保全対策区	土壌区	地点番号	層位	深さ (cm)	理 学 性										現地における 理学性100cc 容中				
					礫 (風乾物中) %	腐植中		細土無機物中					土性	容積重 g	固相容積cc	水分容積cc	空気容積cc	孔隙率%	
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シル ト %	粘 土 %							
松井	松井	M2	1	0~25		3.5	6.7	27.3	29.0	56.3	30.7	13.0	L	9.14	32.1	35.9	32.0	67.9	
			2	25~48		4.3	4.5	0.7	33.8	34.5	48.2	17.3	SiCL	84.5	33.1	60.9	6.0	66.9	
			3	48~70		5.5	—	20.8	41.2	62.0	30.7	7.3	L	78.6	30.2	57.8	12.0	69.8	
	伊勢	M8	1	0~15		3.0	6.6	69.1	10.7	79.8	9.6	10.6	S L	118.2	43.3	29.5	27.2	56.7	
			2	15~38		6.3	5.1	17.4	14.0	31.4	51.2	17.4	SiCL	90.2	42.7	36.8	20.5	57.3	
			3	38~50		5.7	3.6	14.0	23.4	37.4	33.3	29.4	LiC	97.2	49.2	28.8	22.0	50.8	
伊勢	上落合西	M30	1	0~18		4.8	10.7	69.2	11.1	80.3	12.8	6.9	S L	75.2	28.0	45.0	27.0	72.0	
			2	18~40		6.1	10.2	40.8	23.3	64.1	23.4	12.5	L	92.6	35.3	53.7	11.0	64.7	
			3	40~60		7.9	10.3	28.7	43.6	72.3	19.9	7.8	S L	80.3	32.4	58.6	9.0	67.6	
	上落合北	M34	1	10~20		6.3	9.8	37.1	19.4	56.5	29.0	14.5	L						
			2	20~35		5.9	8.0	22.7	35.5	58.2	37.0	4.8	L						
			3	35~48		6.2	5.1	12.0	44.2	56.2	35.1	8.7	L						
			4	48~		2.5	—	10.9	48.1	59.0	40.3	0.7	L						
	南島の下	F136	1	0~21	7	5.2	6.3	24.1	20.4	44.5	19.0	36.5	LiC						
			2	21~40	—	5.8	3.6	7.9	20.9	28.8	31.7	39.5	LiC						
			3	40~65	10	5.3	2.2	14.7	21.7	36.4	29.6	44.0	LiC						
御料	F13	1	0~15	30	4.3	6.5	20.1	18.1	38.2	27.5	34.3	LiC							
		2	15~30	25	4.3	3.6	12.7	22.6	35.3	34.0	30.7	LiC							
御料	上御料	F19	1	0~19	7	4.9	10.3	34.6	21.7	56.3	17.3	26.4	S C						
			2	19~32	—	7.7	7.3	10.2	42.5	52.7	26.4	20.8	C L						
			3	32~60	30	5.3	1.5	30.6	38.9	69.5	14.6	16.0	SCL						

化 学 性												
PH		置換酸度 Y ₁	有 機 物			塩基置換容量 meq/ 100g	置換性塩基mg/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸收係数	有効態磷酸 mg/100g
H ₂ O	KCl		T-C %	T-N %	C/N		CaO	MgO	K ₂ O			
5.3	4.4	3.1	3.86	0.30	13	16.6	148.3/5.3	15.6/0.7	33.7/0.7	32	767	14.5
5.3	4.0	8.4	2.59	0.17	16	17.8	148.0/5.3	74.1/3.7	11.7/0.3	30	711	3.1
5.3	4.4	4.8	—	—	—	18.9	78.2/2.8	33.9/1.7	5.8/0.1	15	1,227	32
5.7	4.7	1.4	3.84	0.27	14	11.9	166.2/5.8	9.0/0.4	14.2/0.3	49	495	6.2
6.0	4.6	2.6	2.99	0.22	13	16.5	149.9/5.3	4.22/2.1	6.7/0.1	32	1,280	6.4
5.7	4.3	9.0	2.10	0.15	14	15.2	37.8/1.4	14.0/0.7	5.9/0.1	9	1,208	5.3
5.5	4.6	2.4	6.17	0.37	17	23.3	305.8/10.9	33.8/1.7	22.1/0.5	47	1,029	6.3
5.6	4.5	5.3	5.89	0.36	16	20.9	128.2/4.6	6.4/0.3	2.18/0.5	22	1,725	tr
5.6	4.5	4.8	5.93	0.37	16	20.7	91.2/3.3	6.5/0.3	9.8/0.2	16	1,933	4.3
5.4	4.4	7.6	5.69	0.36	16	18.4	41.8/1.5	8.5/0.4	9.6/0.2	8	1,643	3.2
5.4	4.4	6.5	4.63	0.29	16	17.8	14.9/0.5	70.5/3.5	4.8/0.1	3	1,765	tr
5.4	4.5	5.9	2.94	0.17	17	16.3	26.9/1.0	51.4/2.6	3.2/0.1	6	1,620	8.5
5.5	4.5	4.6	—	—	—	8.3	17.2/0.6	39.2/1.9	2.1/0.0	7	780	4.1
6.2	5.3	0.4	3.62	0.30	12	24.0	50.3/1.79	36.5/1.81	52.1/1.11	87	500	66.2
5.5	4.3	2.1	2.10	0.01	21	23.0	2.87/10.2	8.70/4.32	19.6/0.42	65	580	4.7
5.9	4.6	0.6	1.25	0.09	14	21.2	2.34/8.35	20.89/10.36	7.3/0.15	89	580	4.2
5.8	4.9	0.6	3.75	0.33	11	23.2	209.9/7.5	5.64/2.80	6.60/14.0	32	910	50.4
5.5	4.2	4.3	2.08	0.19	11	17.0	190.3/6.8	3.48/1.73	2.40/0.51	40	930	2.4
6.3	5.3	0.4	5.93	0.38	16	32.6	50.38/1.80		1.25/0.27	55	1,110	23.2
6.6	5.6	0.3	4.19	0.24	18	35.3	19.59/7.0	11.9/0.59	4.0/0.08	19	1,310	1.6
6.8	5.7	0.3	0.84	0.06	14	19.1	10.35/3.7		2.7/0.05	19	960	1.6

保全対策区	土壌区	地点番号	層位	深さ (cm)	礫 (風乾物中) %	理 学 性														
						風乾物中					土 性					現地における理化学性100cc 容中				
						水分 %	腐植 %	粗砂 %	細砂 %	砂合計 %	シルト %	粘土 %	土性	容積重 g	固相容積 cc	水分容積 cc	空気容積 cc	孔隙率 %		
山 部	北山部	F68	1	0~25	7	3.9	3.7	183	32.5	50.8	164	32.8	LiC							
			2	25~50	—	4.1	1.7	10.8	44.6	55.4	24.6	20.0	C L							
	山 部	F75	1	0~27	20	2.9	5.7	35.6	19.5	55.1	16.9	20.0	S C							
			2	27~45	10	4.8	4.0	22.9	9.1	32.0	25.8	42.2	LiC							
			3	45~70	60	1.8	5.4	26.0	16.8	42.8	20.9	36.3	LiC							
			4	70~	7	3.7	1.6	49.0	15.6	64.6	12.6	22.8	SCL							
	西山部	F77	1	0~12	55	4.4	7.5	34.4	13.0	47.4	22.1	30.4	LiC							
北 落 合	落合南	M50	1	0~20		8.4	1.7	32.0	25.4	57.4	26.2	16.4	C L							
			2	20~43		8.5	9.8	30.8	40.2	71.0	23.1	5.9	S L							
			3	60~		2.7	0.9	46.6	30.8	77.4	19.1	3.5	S L							
	上落合	M27	1	0~18		4.8	8.4	42.1	18.5	60.6	22.0	17.4	SCL	105.6	43.8	37.2	19.0	56.2		
			2	18~32		5.9	8.0	38.3	26.0	64.3	27.1	8.6	L	91.8	37.0	46.5	16.5	63.0		
			3	32~60		4.8	—	24.7	45.4	70.1	24.0	5.9	S L	82.9	32.0	49.0	19.0	68.0		
	北落合	M45	1	0~16		4.5	8.6	37.3	25.4	62.7	24.8	12.5	L	98.8	39.2	43.6	17.2	60.8		
			2	16~41		4.8	3.8	30.7	31.7	62.4	27.8	9.7	L	94.6	36.3	44.9	18.8	63.7		
			3	41~65		4.6	—	24.2	44.2	68.4	25.5	6.1	S L	83.9	32.1	46.7	21.2	67.9		

化 学 性																
PH		置 換 酸 度 Y ₁	有 機 物			塩 基 置 換 容 量 meq/ 100g	置換性塩基 mg/100g			塩 基 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	30°C N ₂ H ₄ -N 発生量		有効態 mg/100g		遊 離 酸 化 鉄 %
H ₂ O	KCl		T-C	T-N	C/N		CaO	MgO	K ₂ O			乾 土	湿 土	H ₂ O ₅	N	
6.1	4.5	0.9	2.12	0.17	13	23.7	419.8/15.0	77.9/3.87	12.0/0.26	81	840	3.5	11.9	1.02		
6.4	4.8	0.5	0.99	0.08	12	22.1	481.4/17.2	86.2/4.28	4.6/0.10	98	1,020	2.8	1.7	1.10		
5.7	4.5	1.0	3.28	0.26	13	22.8	403.0/1.44	56.4/2.80	33.0/0.70	79	740	5.6	52.5	0.81		
5.5	4.3	3.1	2.29	0.30	8	28.3	481.4/17.2	56.4/2.80	24.0/0.51	73	1,180	5.6	2.0	1.25		
5.3	4.2	8.4	3.10	0.24	13	30.5	391.8/14.0	43.1/2.14	8.2/0.17	54	1,320	—	1.9	1.26		
5.5	4.2	6.4	0.91	0.07	13	21.3	335.8/12.0	76.3/3.78	3.0/0.06	74	960	—	1.8	1.04		
5.3	4.2	7.3	4.32	0.35	12	23.2	190.3/6.8	25.5/1.27	28.3/0.60	37	1,120	7.7	15.8	1.09		
6.1	5.2	0.9	1.04	—	—	31.0	489.2/17.5	1.98/2.1	11.5/0.24	56	2,228		tr			
6.0	4.8	1.5	5.71	0.36	16	24.0	1285/4.6	8.7/0.4	4.4/0.1	9	2,208		5.5			
5.8	4.5	3.6	0.53	—	—	9.5	31.7/1.1	12.4/0.6	3.1/0.1	12	740		3.1			
5.6	4.8	1.5	4.85	0.34	14	20.1	274.6/9.9		21.5/0.5	49	1,071		9.5			
6.0	5.0	1.3	4.59	0.34	14	19.9	270.9/9.7		11.2/0.2	49	1,658		7.4			
6.1	5.1	0.9	—	—	—	15.1	129.4/4.6	185.7/9.2	17.9/0.4	31	1,806		—			
5.8	4.7	0.8	4.94	0.42	12	18.5	86.9/3.1	8.44/4.2	9.5/0.2	17	1,050		tr			
5.7	4.7	1.2	2.18	0.19	13	20.6	218.7/7.8	58.3/2.9	8.8/0.2	42	1,356		tr			
5.9	5.0	0.9	—	—	—	20.9	193.4/6.9	60.3/3.0	6.8/0.2	33	1,590		tr			